

# 大阪市立自然史博物館館報

38

(平成 24 年度)



〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成 25 年 6 月 17 日発行

## 目 次

---

「博学連携」を振り返って	1
第43回特別展「のぞいてみようハチの世界」	2
大阪自然史フェスティバル2012	7
調 査 研 究 事 業	9
資 料 収 集 保 管 事 業	20
展 覧 事 業	29
普 及 教 育 事 業	35
広 報 事 業	45
刊 行 物	48
連 携 ( ネットワーク )	49
庶 務	51

---

# 「博学連携」を振り返って

館長 山西良平

1970年代、大阪市立自然史博物館と学校との関わりは、春・秋の遠足シーズンに訪れる学校団体による見学への、それも教育的というよりは管理的な対応が中心で、熱心な先生方や教員サークルとのお付き合いはあったものの、現在のように「博学連携」(学校教育支援)が博物館事業の柱とされるような時代ではなかった。

最初の画期は1990年代になって、学校に週休2日制が導入された時期に訪れた。まず大阪市教育委員会により、学校関係者と当館学芸員による利用の手引き作成のための委員会が組織され、それぞれ1年間かけて『中学校における自然史博物館利用の手引き』(1991年)、『小学校における自然史博物館利用の手引き』(1992年)が刊行され、市内の各学校に無償配布された。つづいて1995年度から、「社会教育施設の無料開放の拡充と充実・活性化事業」が教育委員会所管の5博物館施設を対象として予算化された。事業内容は、小中学生の入場料無料化、「施設ガイド」の作成・発行、ボランティア養成事業、館内利用の手引き等の発行、関連事業の実施(館内見学会等)などであった。当館で現在も実施している小学生を対象とした博物館の裏方体験イベントや、常設展示に関するクイズカードの配布、ボランティアによる行事の補助などはこの機会に着手されたものである。ここでは週休2日制によって時間的にゆとりができた子どもたちの受け入れ先としての博物館にスポットが当てられ、学校との連携というよりは直接児童・生徒をターゲットとした企画が求められていた。

次の画期は21世紀のはじめ、学校のカリキュラムに「総合的な学習の時間」が導入されたころに訪れる。その時期、文部科学省(中央教育審議会)は「博学連携」を提唱するようになった。「総合的な学習の時間」は2002年に本格導入されたが、それ以前から「環境学習」の受け皿として自然史博物館には学校側から熱い視線が注がれるようになっていた。当館ではこのような動向を先取りしつつ、現実問題としてどのような支援が可能かを内部で議論を重ね、平成13(2001)年に独自の「総合的な学習の時間支援プログラム」を策定し、おもに次の事業にあらたに取り組むことにした。

1. 学芸員によるテーマプログラム(児童・生徒向け)
2. 自然史博物館の利活用の研修(教員向け)
3. 身近な自然観察の研修(教員向け)

これらの事業は定着し、現在も継続している。あわせて、学校への働きかけ、周知の方法についても検討し、教育委員会や校長会といった公式的なチャンネルだけではなく、当館を利用しようと考えている意欲的な先生方には直接的に博物館からの情報やメッセージが伝わるように、教員(Teacher)と博物館(Museum)による「TMネットワーク」を立ち上げ、「TM通信」を定期的に発行するようにした。現在は約120名の先生方が登録されている。また、団体で利用される先生方には、担当職員を配置して下見の際のレクチャーを充実し、配布資料を行き届いたものにし、事前学習用の貸出資料の種類も増やしてきた。

40年近く昔と比べると、「博学連携」の充実ぶりは、隔世の感がある。近年、学校理科の指導要領においても博物館等の利用促進が明記された。これが第3の画期となることを期待している。

第43回 特別展

のぞいてみよう

# ハチの世界

平成24年7月28日(土)から10月14日(日)まで、特別展「のぞいてみようハチの世界」を開催した。一般にハチは危ないもの、怖いものというイメージがあるが、一方でこれほど身近で、多様な形、暮らしぶりをもつ興味深い虫もなかなかいない。「ハチの驚くべき多様性と暮らしぶりを知って欲しい」、「危ないハチはごく一部ということを知ってもらい、そのようなイメージだけにとらわれずに、身近な虫であるハチとうまく付き合う基礎知識を得て欲しい」という点を意識して展示を作成した。会期中に27,087人の入場者があり、多くの方に観覧していただけた。またアンケートで「驚いた」、「興味深かった」という回答が多くみられ、当初の目論見もかなり達成され、ハチとのよい出会いを持ってもらえたと思われる。

展示の構成は、ハチ目の進化史を軸に、それぞれのグループの生活を紹介、針や体の構造、使い方の変化にも注目した。手法的には動画や生態写真を多数組み込んで、ハチの暮らしや行動の面白さを伝える一方で、ハチ14,210点、巣1,206点という多数の標本を独立に展示して、ハチというグループの多様性も強調し、普段はあまりないじっくりとハチを見る機会を提供した。当館のこれまでの特別展と比較して動画を豊富に配置した点は本展示に特徴的である。ハチの行動の動画の大部分は本展示のために撮りためたもので、その中から18点を選んで、関連する展示コーナーで自動再生した。セナガアナバチがゴキブリを狩り、巣に運ぶ様子は非常にコミカルで興味をひいたようである。またスズメバチの巣に近づくとセンサーが反応して、翅音やスズメバチの出す警告音とその映像が流れるコーナーも人気があった。

ハチの体は小さいものの、その構造は非常に精巧

で、色や形も千差万別である。これをどのように「見せる」か、工夫が必要であったが、一つの方法として白バックで撮影した拡大パネルを多数用意した。数ミリ~数十ミリのハチをたたみ一畳程度に拡大した写真パネルである。対象であるハチに光を満遍なく当てて撮影することによって、体の細かい構造もよく見え、迫力もあり、ハチを知る上で効果的だったと思われる。展示では養蜂や切手、工芸品など、ハチそのものだけでなく、ハチと人との関わりを様々なグッズ、資料を通して紹介した。本館講堂前のビオトープで、ミツバチを飼育し、ライブカメラで特展会場内でも出入りの様子を見ることができるようにした。土曜、日曜日にはワークショップを実施して、特に幼児~小学生に楽しく、わかりやすく伝える機会とした。またワークショップを行わない日にはハチの着ぐるみを設置して、ハチになりきって楽しむ事ができるようにした。

会期はスズメバチの話題がマスコミで出てくる秋まで、例年に比べて長めに設定した。この時期ハチに関する質問も増え、関心の大きさが伺えた。遠足シーズンでもあり、秋季の団体利用数が示すように、学校団体によっても十分に利用してもらうことができた。

特別展のような大きな展示会は収蔵資料を充実させる良い機会である。館収蔵のハチ目の標本は主催者の松本が着任した当方で100箱程度と少なかったが、現在はおよそ600箱に増加している。すべてがハチ展用に収集したものというわけではないが、ハチ展を意識して収集した成果である。

展示配置図、関連イベントなどの詳細は29~31ページ参照。

## 展示構成

はじめに

### 第1部 ハチという昆虫

- 1 ハチの起源と進化

### 第2部 多様なハチの世界

- 1 植物を食べる
- 2 捕食寄生という暮らし方
- 3 アリ
- 4 単独性カリバチ
- 5 社会性カリバチ
- 6 ハナバチ
- 7 ハチの生息環境

### 第3部 ハチの調べ方

- 1 ハチの採り方
- 2 ハチと花との関係を調べる
- 3 植物を食べる
- 4 標本の作り方・調べ方

### 第4部 自然史博物館のハチコレクション

- 1 日本のハチ
- 2 世界のハチ

### 第5部 ハチと人との関わり

- 1 ハチを利用する
- 2 デザイン、モチーフとして
- 3 害虫としてのハチ
- 4 移入種問題

おわりに ハチとの付き合い方



## 展示したショートムービー一覧

- キイロモモフトハバチ幼虫の摂食
- ルリチュウレンジの産卵 (吉村弘之氏撮影)
- エゾオナガバチの産卵
- クモヒメバチの寄主操作
- コマユバチの寄主操作
- キスジセアカカギバラバチの産卵
- カラスの蟻浴
- クロアナバチ・キンモウアナバチの営巣
- セナガアナバチのゴキブリ狩り
- スズメバチの巣の様子
- スズメバチの威嚇・攻撃 (小野正人氏撮影)
- セイヨウミツバチの毒針
- ニホンミツバチの巣防衛
- セイヨウミツバチ女王の産卵
- マイマイツツハバチの営巣とイワタセイボウの寄生
- コマユバチのアブラムシへの産卵 (生物農薬)
- ハチを食べる (クロスズメバチ料理)
- ファーブルの見たハチ  
(フランスのハナダカバチ、アラメジガバチの営巣、鈴木格氏撮影)

## 展示室内の様子

### 第2部、多様なハチの世界

植物食から寄生生活を経て狩りバチへ、また単独生活から社会生活へと、ハチ目の進化史を軸に、それぞれのグループの生活を紹介している。針の使い方の変化にも注目している。説明パネル、標本に加えて、生態写真を多数配置している。モニターではそれぞれのコーナーに関連したハチの行動の動画が流れている。ウィンドウ手前の低い位置にはキッズパネルが見える。



### 巨大ハチパネル

白い紙をバックにして、光を半透明のスクリーンを通して当てることにより、撮影したものの。ハチはすぐに動いたり、飛び去るので、撮影には慣れが必要であるが、細かい構造までよく分かる。大部分は壁面に（設置場所は配置図(P31)に\*で示した）設置して、間近で見ることができるようにした。



### コレクションコーナー

館収蔵のハチを一同に集め、じっくりとハチの実物を観察することができるコーナーとした。アンケートでもじっくり見れてよかったという声があり、人によってはずっと標本を見続けていることもあった。ワークショップで行った好きなハチを探してスケッチするプログラムでも活用された。ルーペなどもっと細かいところまで見ることができる工夫は必要だったと思われる。



## ハチの調べ方 (第3部)



世界にはどんなハチが、どんな生き物と関わりあって、どんな暮らしをしているのか？そんなハチを調べる方法を取り上げたコーナー。採集方法、標本の作り方(上)、竹筒トラップを使った借孔性ハチの調査(下)、ハナバチの訪花植物調査などを例として紹介した。

## 養蜂に関する展示 (第5部 ハチと人との関わり)

ハチは古くから人の生活と深いかわり合いを持ってきている。送粉者・貯蜜者としてのハナバチ類、生物農薬としての寄生バチ、あるいはハチの巣の構造の工学的利用などを取りあげた。写真はセイヨウミツバチの養蜂具などの展示。



## ワークショップ 「かいて・あつめて ハチずかん」

いくつかのハチについて、体の特徴や、生活の様子のお話を聞いたあと、展示室内で自分の好きなハチを探し、スケッチをするプログラム。スケッチをすることでハチをじっくりと見る機会ができ、面白い形や、色などハチの多様性への気づきにつながった。壁面に掲示された絵は別のワークショッププログラム「びっくり！ドッキリ！ムシのもよう」で制作されたもの。





# 大阪自然史 フェスティバル

自然史博物館では、自然関連のサークル、地域の自然保護団体等が一堂に会して出展する「大阪自然史フェスティバル」を2003年以来開催している。本館やポーチ、ネイチャーホールなどを会場として設定し、各団体にブース出展してもらうという形で開催しており、各サークル・団体が行う活動紹介やワークショップ等を通じて、大阪の自然の現状や自然に関わる楽しさを市民の皆さんに知っていただく「自然の文化祭」として定着してきた。大阪自然史フェスティバルは2003年、2004年、2006年、2009年、2011年と過去5回開催し、2007年、2010年にはテーマを鳥に絞った「大阪バードフェスティバル」、2008年は関西自然保護機構創立30周年を記念して企画した「かんさい自然フェスタ」として開催してき

た。フェスティバルの開催日程は常設展示への入館が無料となる「関西文化の日」に設定するよう配慮している。各回の来場者は1万人を超え、フェスティバルは自然史博物館の定番イベントとして成熟しつつある。

今年度は「大阪自然史フェスティバル2012」として、平成24年11月10日(土)、11月11日(日)に開催した。今回は大阪生物多様性保全ネットワークも主催に加わり、グリーンエコノミーの視点に立脚した「買って支える自然 ～都市の暮らしと生物多様性～」というテーマの「生物多様性協働フォーラム」を同時開催した。出展団体数は107、来場者は計約17,300名で、地域の自然史に関わる人たちのネットワーク作りに大きな役割を果たせたと考えている。

**日時** 11月10日(土)～11日(日)

**場所** 自然史博物館本館(講堂、ナウマンホール)、ポーチ、ネイチャーホール、セミナールーム(情報センター1階)

**出展団体数** 107団体(一般94、協賛13)

**出展ブース数** 98ブース (A会場51ブース、B会場28ブース、C会場18ブース+生物多様性協働フォーラム1ブース)

**来場者数** 10日: 11,100名、11日: 6,200名(サンプリングによる)

**担当** 上田(大阪自然史センター)、石田(自然史博物館)

**主催** 特定非営利活動法人大阪自然史センター、大阪市立自然史博物館、大阪生物多様性保全ネットワーク、関西自然保護機構

**協賛** (社)日本望遠鏡工業会、(株)ガードフォースジャパン、(株)ケンコー・トキナー、コーワ、(株)ニコンイメージングジャパン、(株)阪神交易、(株)ビクセン、協栄産業(株)、(株)アクアテイメント、(有)エンウィット、(認定NPO)生態工房、(株)文一総合出版、(株)レイマー

**協力** 生物多様性協働フォーラム事務局、日本野鳥の会大阪支部



▲ A会場 (ネイチャーホール) の様子



▲ B会場 (ポーチ) の様子



▲ C会場 (本館) の様子



▲ 出展ブースの様子

# 調査研究事業

本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるから、博物館活動の根底に調査研究が位置づけられなければならない。自然史博物館はその50年余に及ぶ活動から、公立博物館としては群を抜く標本や資料の蓄積をもつ。基礎科学分野の研究機関として、これらは重要な社会的使命を帯びるものである。さらに、文部科学省指定の研究機関であり、科研費の申請資格や日本育英会（現：独立行政法人日本学生支援機構）の免除職の適用など、研究機関として一定の地位を確立している。自然史科学研究者が横断的にそろって博物館施設として中核的な使命を持つ博物館でもあり、自然史科学分野の発展のためにも調査研究面での競争力強化とその推進体制の整備が急務となっている。

今年度は、市民と協同で進める「大阪を中心とした都市の自然プロジェクト調査」、来年度の特別展準備を兼ねた「大阪湾の総合調査」などを実施してきた。その成果は館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、講演会を通じて市民に普及した。

また、外部研究資金として文部科学省科学研究費補助金は基盤研究5件（基盤研究A 1件、B 1件、C 3件）、若手研究3件の補助を受けた。国土交通省・河川環境管理財団による研究助成も1件獲得した。

## I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長 山西 良平 (Ryohei YAMANISHI)

動物研究室 波戸岡清峰 (Kiyotaka HATOOKA) 主任学芸員

和田 岳 (Takeshi WADA) 主任学芸員

石田 惣 (So ISHIDA) 学芸員

昆虫研究室 金沢 至 (Itaru KANAZAWA) 主任学芸員

初宿 成彦 (Shigehiko SHIYAKE) 主任学芸員

松本吏樹郎 (Rikio MATSUMOTO) 学芸員

植物研究室 佐久間大輔 (Daisuke SAKUMA) 主任学芸員

長谷川匡弘 (Masahiro HASEGAWA) 学芸員

横川 昌史 (Masashi YOKOGAWA) 学芸員

地史研究室 樽野 博幸 (Hiroyuki TARUNO) 研究主幹  
川端 清司 学芸課長

(Kiyoshi KAWABATA)

塚腰 実 主任学芸員

(Minoru TSUKAGOSHI)

第四紀研究室 石井 陽子 (Yoko ISHII) 学芸員

中条 武司 (Takeshi NAKAJO) 学芸員

平成25年3月31日現在

## II. 研究テーマ

### ■山西 良平 (館長)

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査研究
- (3) フナムシの分類学的研究

### ■波戸岡清峰 (動物研究室)

- (1) ウナギ目魚類の系統分類学的研究
- (2) ゲンゲ垂目魚類（ゲンゲ科、タウエガジ科）の分類学的研究
- (3) 大阪湾周辺および瀬戸内海海域の魚類相の調査

### ■和田 岳 (動物研究室)

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市周辺の鳥類相及び哺乳類・両生爬虫類の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) 大阪湾岸の水鳥の分布調査
- (5) キンバトの食性などに関する研究

### ■石田 惣 (動物研究室)

- (1) 軟体動物の生態学・行動学的研究
- (2) 博物館標本から推定する生物相の変遷
- (3) 生物映像のアーカイビングとその活用
- (4) 都市公園の無脊椎動物相と分布
- (5) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相

### ■金沢 至 (昆虫研究室)

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) 近畿地方の蛾類記録の整理
- (3) アサギマダラの移動の調査
- (4) 昆虫・クモの光周性の研究

### ■初宿 成彦 (昆虫研究室)

- (1) 新生代の昆虫化石の研究（遺跡の昆虫遺体も含む）
- (2) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査
- (3) セミに関する研究
- (4) ツガにつくカサアブラムシとその天敵に関する調査

## 調査研究事業

### ■松本吏樹郎（昆虫研究室）

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性、分類、系統学的研究
- (2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
- (3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査

### ■佐久間大輔（植物研究室）

- (1) 本郷次雄菌類関連資料のアーカイブ化及び分子生物学的利用
- (2) 里山利用の民俗生態学的研究
- (3) 丘陵地植物群集の景観生態学的研究
- (4) 博物館利用者コミュニティの発達に関する教育学的研究
- (5) 自然史標本の文化財制度及び保存科学

### ■長谷川匡弘（植物研究室）

- (1) 顕花植物の花形態とポリネーターの共進化に関する研究
- (2) 里山環境における開花フェノロジーと訪花昆虫相の特徴
- (3) 希少植物種の保全生物学的研究

### ■横川 昌史（植物研究室）

- (1) 希少植物ハナシノブの遺伝構造と繁殖生態
- (2) 絶滅危惧種の保全遺伝生態学
- (3) マイクロサテライトマーカーの開発
- (4) 半自然草原の植生管理

### ■樽野 博幸（地史研究室）

- (1) ステゴドン科（長鼻類）の分類と系統に関する研究
- (2) 大阪平野および周辺地域における、鮮新-更新世の古脊椎動物相の変遷と、生層序区分に関する研究
- (3) 中国産長鼻類に関する研究
- (4) 長鼻類の足跡化石に関する研究

### ■川端 清司（地史研究室）

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
- (3) 現生放散虫に関する研究
- (4) 地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的研究

### ■塚腰 実（地史研究室）

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) バシヨウ科果実化石の分類学的研究

### ■石井 陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究

### ■中条 武司（第四紀研究室）

- (1) 干潟・汀線などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
- (2) 再堆積性火砕堆積物に関する研究

## Ⅲ. 文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

### 1. 当館研究者が研究代表者となったもの

#### ■若手研究（B）

研究課題	研究代表者
ママコナ属における花筒長の多様化と送粉者を介した生態的種分化過程の解明	長谷川匡弘

（3年間継続の1年目） （課題番号：24770085）

○8月14～15日、長野県佐久市荒船山、南牧村本沢温泉においてタカネママコナの送粉昆虫調査、サンプル採集を行った。

○8月20～23日、北海道遠軽町薬師山、滝上公園周辺においてエゾママコナの送粉昆虫調査、サンプル採集を行った。

○9月14日、9月20～21日に和歌山県田辺市、白浜市、すさみ町においてシコクママコナの送粉昆虫調査、サンプル採集を行った。

○10月3～4日、10月15～17日、10月24～26日に和歌山県串本市、古座川町においてオオママコナの送粉昆虫調査、サンプル採集を行った。

○国立科学博物館、広島大学等において標本調査を行い、ママコナ属の分布状況を取りまとめた。

○日本生態学会第60回全国大会において成果を発表した。

#### ■若手研究（B）

研究課題	研究代表者
クモヒメバチにおける寄主操作の多様性とその進化史に関する研究	松本吏樹郎

（3年間継続の2年目） （課題番号：23770099）

○館蔵および、熊本県、大阪府、三重県で採集したサンプルからDNAを抽出し、特定領域の塩基配列を決定し、系統解析を行った。

○日本昆虫学会第72回大会において成果を発表した。

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
博物館標本から再構築する日本の干潟生物相の変遷とその保全への活用	石田 惣
(4年間継続の2年目)	(課題番号: 23701025)

- 福井市自然史博物館、ドレクセル大学附属自然科学アカデミー、フィールド博物館、山口県立山口博物館、国立科学博物館、陸前高田市立博物館、山形県立博物館等が所蔵する貝類標本の調査を行った。
- 愛媛県燧灘沿岸干潟、山口県・大分県周防灘沿岸干潟等で地形環境及び生物相の調査を行った。
- 国内各地の干潟における過去の生物相に関する文献調査を行った。
- 大阪湾及び東京湾における明治～昭和初期の干潟生物相について、標本記録からの復元作業を行った。

■基盤研究 (A)

研究課題	研究代表者
自然史系博物館等の広域連携による「瀬戸内海の自然探求」事業の実践と連携効果の実証	波戸岡清峰
(5年間継続の1年目)	(課題番号: 24240113)

- 下関市立しものせき水族館「海響館」、大分マリンパレス水族館「うみたまご」、愛媛県総合科学博物館、北九州市立いのちのたび博物館において事業の調査を行うとともに連携の打ち合わせを行った。また、岩国市立ミクロ生物館、玉野市立玉野海洋博物館、大柿自然環境体験学習交流館（さとうみ科学館、広島県江田島市）で連携の可能性を調査した。
- 広島大学練習船豊潮丸に乗船し、斎灘沿岸の岩礁性魚類、安芸灘から備讃瀬戸にかけての底棲動物の採集を行った。また、大分県別府湾沿岸、下関周辺で沿岸性魚類の採集を行った。

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者

アマチュア菌類学のための  
支援情報基盤と遺伝情報つき  
地域エキシカータ作成の試み

佐久間大輔

(4年間継続の2年目) (課題番号: 23300333)

- 本郷次雄コレクションのうち、水彩図譜と標本ノートについて画像化をほぼ完了し、試験公開を準備中である。
- 本郷コレクションと関連を持つ今関六也コレクション、安田篤コレクション、青木コレクションなどの同時代の菌類コレクションについて情報を収集し、アマチュア研究における標本の交流の状況を調べた。
- 菌類バーコーディングについて検討を進め、野外採取された新鮮な標本についての手法を固めつつある一方、本郷標本への適用の課題を明らかにしつつある。
- 標本の重要性と活用方法についてアマチュアの理解を得るためのテキスト執筆と公開研究会などを試みた。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
自然離れ克服のために自然史博物館が地域のコーディネーターとして果たす新たな役割	山西 良平
(3年間継続の3年目)	(課題番号: 22601016)

- 大阪湾環境再生連絡会が主催する「第4回大阪湾生き物一斉調査」(平成24年6月2日実施)に大阪湾海岸生物研究会と共に参画し、市民団体による調査を博物館の立場でサポートした。さらに大阪湾を囲む博物館・水族館7施設が、平成25年度中に大阪湾に関連した企画展示を、「大阪湾Years連携企画展」としてそれぞれの施設において開催するための協議・検討を進めてきた。大阪湾再生行動計画に歩調を合わせた、博物館連携の実験的な取り組みである。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
博物館資料を活用した地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的意義	川端 清司

## 調査研究事業

(3年間継続の3年目) (課題番号: 22601017)

- 過去2年間に実施した断層のモデル実験を改良するとともに、褶曲現象のモデル実験の開発に取り組んだ。
- 1月12日にジオラボ「断層・褶曲のモデル実験」を実施した。
- 2月9日にジオラボ(2月)「火山にチャレンジ」を実施した(担当は研究分担者の佐藤隆春氏)。
- 神奈川県立生命の星・地球博物館、千葉県立中央博物館、岩手県立博物館など、他の博物館施設での公開実験講座を視察した。

### ■基盤研究(C)

研究課題 研究代表者

甲虫化石を用いた最終氷期最寒冷期における気温低下の推定 初宿 成彦

(3年間継続の1年目) (課題番号: 24570120)

- アラスカおよび礼文島において野外調査を行った。
- 甲虫類の分布データやその気象データを収集した。

### ■基盤研究(C)

研究課題 研究代表者

カビの勝者と敗者を分ける要因は何か? 浜田 信夫

(3年間継続の1年目) (課題番号: 24500936)

- 本年度は、界面活性剤の影響を受ける水周りであり、高温の影響を強く受けている食器洗浄機の内部の菌相について調査を行った。調査した一般住宅は134世帯だった。
- 食器洗浄機は、浴室の42℃程度の温水を使う環境より、55℃以上の高温水を使う環境である。そのような環境ではカビは生えにくいと思われるが、約70%世帯でカビが検出された。そのうちで40℃で生育する*Exophiala dermatitidis*だけが、非常に優占していることが分かった。
- この*E. dermatitidis*の種内変異と、野外で認められた株、さらに人体から分離された株についてその生理・生態的な特性を継続して調べている。

## 2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

### ■研究成果公開促進費(データベース)

研究課題 研究代表者 当館分担者

昆虫学データベースの作成 多田内 修 金沢 至

(課題番号: 238045)

- 東日本大震災で被災した陸前高田市立博物館昆虫標本のデータベースを作成した。

## IV. 財団等の助成を受けて行った研究

### ■河川環境管理財団助成研究

研究課題 研究代表者

河川における攪乱依存植物種の多自然護岸を利用した保全の試み 長谷川匡弘

- 兵庫県加古川流域において絶滅危惧種であるフジバカマの分布状況を調査するとともに、モニタリング成果を取りまとめた。

## V. 著作活動

### ■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study誌は、ns.と略記した。当館学芸員以外の著者には氏名に\*を付した。

#### 【館長】

山西良平(2012.4)第2部第3章(5)自然史系博物館. 大堀哲・水嶋英治編著「新博物館学教科書 博物館学 I 博物館概論・博物館資料論」. 学文社, pp.158-162.

石田惣・山西良平・大阪湾海岸生物研究会(2012.2)大阪湾の岩礁における長期間の生物相調査でわかること. ns.58(2):14-17,28.

山西良平(2012.9)博物館の地域連携を実のあるものにするには. 社会教育 2012-9:34-35.

山西良平(2012.12)第1部第3章(5)自然史系博物館. 大堀哲・水嶋英治編著「新博物館学教科書 博物館学 博物館展示論・博物館教育論」. 学文社, pp.66-70.

山西良平(2013.2)テーマA 話題提供 大阪市立

- 自然史博物館. 福原義春(編) 地域に生きるミュージアム 100人で語るミュージアムの未来. 現代企画室, pp.82-88.
- 山西良平(2013.3) はじめに(博学連携今昔). 釋知恵子(編) 博学連携ワークショップ~博物館と学校のよりよい関係を、聞いて話して一緒に考えよう~報告書. 大阪市立自然史博物館, pp.1-2.
- 【動物研究室】**
- 波戸岡清峰(2012.4) 大阪湾南部周辺のカズナギ類. ns.58(4): 42-44.
- Hibino, Y., Kimura, S., Hoshino, K., Hatooka, K., McCosker, J. E. (2012.4) Validity of *Scolecenchelys aoki*, with a redescription of *Scolecenchelys gymnota* (Anguilliformes: Ophichthidae). Ichthyological Research, 59 (2): 179-188.
- 波戸岡清峰(2012.9) 日本産ヘラアナゴ属魚類について. 第45回日本魚類学会年会後援要旨: 14.
- 波戸岡清峰・和田太一(2012.10) 大阪湾で採れたカラワシのレプトセファルス. ns.58(10): 133, 140.
- 波戸岡清峰(2012.12) イカナゴお目覚め. ns.58(12): 162.
- 波戸岡清峰(分担執筆)(2013.2) 中坊徹次編 日本産魚類検索-全種の同定-第3版. 東海大学出版会, 秦野市. xlix+2428p. (日本産魚類359科のうちウナギ目、ゲンゲ垂目を中心とする70科の魚類の検索と分類学的付記).
- 波戸岡清峰(2013.2) 自然史系博物館等の広域連携による「瀬戸内海の自然探求」事業について. 第20回全国科学博物館協議会研究発表大会資料: 67-71.
- 波戸岡清峰(分担執筆)(2013.3) 本村浩之他編 鹿児島県三島村-硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合博物館、鹿児島市・国立科学博物館, つくば市. 380p. (ウツボ科、アナゴ科).
- 和田岳(分担執筆)(2012.7) 大阪市立自然史博物館 第43回特別展「のぞいてみようハチの世界」解説書「ハチまるごと! 図鑑」. 大阪市立自然史博物館, 大阪. 136pp.
- 和田岳(2012.9) 大阪市のヌマガエル. ns.58(9): 6.
- 和田岳(分担執筆)(2012.12) 社会教育・生涯学習辞典. 朝倉書店, 東京. 674pp.
- 和田岳(2012.12) 大阪生物多様性保全ネットワーク キックオフミーティング「これからのレッドデータブックのかたち」開催趣旨. 地域自然史と保全 34: 99-102.
- 和田岳(2013.1) 身近な鳥から鳥類学 第12回 ユリカモメの幼鳥の割合. むくどり通信 (223): 11.
- 和田岳(2013.3) 身近な鳥から鳥類学 第13回 カラスの巣場所. むくどり通信 (224): 14.
- 和田岳(2013.3) 大阪湾のイカナゴ漁とユリカモメ. ns.59 (3): 5.
- 石田惣(2012.4) 陸前高田市海と貝のミュージアム所蔵の貝類標本レスキュー. ns.58 (4): 5-6, 16.
- 熊谷賢\*・鈴木まほろ\*・石田惣(2012.4) 津波で浸水した陸前高田市海と貝のミュージアムが所蔵する貝類標本の被害および復旧状況. 日本貝類学会平成24年度大会研究発表要旨: 13.
- 石田惣(2012.8) ユムシの暮らしと、ユムシのある暮らし. ns.58(8): 5-6, 16.
- 石田惣(2012.10) 気仙沼市唐桑町で保管されていた60年前の養殖マボヤ標本. ns.58(10): 2-4, 16.
- 石田惣(2012.12) 復活なるか? 大阪湾のバイ. ns.58(12): 6-7, 16.
- 大垣俊一\*・石田惣・小林孝行\*, 長行司大也\*(2012.11) 和歌山県白浜番所崎におけるウニ類相とその変化, 2000年と2011年. 日本ベントス学会誌 (67): 1-8.
- 石田惣(2013.3) 住吉つなぎ貝とハイガイ. ns.59(3): 11-12.
- 石田惣(2013.3) 博物館標本から再現する明治から昭和前期の干潟環境-東京湾と大阪湾を中心に-. 第60回日本生態学会大会講演要旨: 328.
- 【昆虫研究室】**
- Itaru Kanazawa, Chien-Chih Chen\* and Yoshiro Hiyoshi\* (2012). A Chestnut Tiger, *Parantica sita nipponica* (Nymphalidae: Danaeinae) marked in Japan and recaptured in China in 2006. News of the Lepidopterists' Society 54(2): 38-39.
- Tadauchi, O.\*, C. Fujii\* and I. Kanazawa (2012) Overview of the quake's effects on the Entomological Society in Japan. In The impacts of the Japan 3.11 earthquake and disaster on entomologists, research, and society. American Entomologist 58(3): 142-144.
- 金沢至・アサギマダラを調べる会(2012.5) 30年でわかってきたアサギマダラの越冬地. ns.58(5): 6.
- 清水裕行\*・金沢 至・西川喜朗\*(2012.7) 毒グモ騒動の真実-セアカゴケグモの侵入と拡散. 全国農村教育協会.
- 金沢至(2012.9) アゲハ・モンシロチョウの飼育とチャック付ポリ袋-小学校理科-. 日本昆虫学会 第72回大会講演要旨: 94.
- 大塚公雄\*・村上豊\*・金沢至(2012.9) 高校における課題研究・卒業研究と博物館施設. 日本昆虫学会

- 第72回大会講演要旨：94.
- 金沢至 (2012.10) 2011年アサギマダラ調査成果報告. 日本鱗翅学会第59回大会講演要旨：18.
- 金沢至・清水裕行\*・西川喜朗\* (2012.11) セアカゴケグモの分布拡大と咬傷事例の増加. 第24回日本環境動物昆虫学会年次大会講演要旨：36.
- 金沢至・清水裕行\*・西川喜朗\* (2012.12) セアカゴケグモの分布拡大と咬傷例の増加. ns.58(12)：154-156.
- 金沢至 (2013.2) オオミノガはどこに？プロジェクトU調査レポート. ns.59(2)：21.
- 初宿成彦 (2012.5) 肉食か？草食か？Loupe (109)：1. シニア自然大学校.
- 初宿成彦 (2012.7) 昆虫化石から日本列島の氷河時代の気候を推定する. ns.58(7)：7.
- 初宿成彦 (2012.7) 世界に誇れる都市生物学の新しいバイブル「いのちの森・生物多様性公園をめざして～大阪都心・韮公園の自然と歴史～」. ns.58(7)：11.
- 初宿成彦 (2012.8) しばらくは偶数年が多い？韮公園セミのぬけがらしらべ2011の結果. ns.58(8)：8.
- 初宿成彦 (2012.10) 大阪市における36年間のクマゼミ発生量変動の推定. 昆虫 (ニューシリーズ) 15(4)：205-211.
- 初宿成彦 (2012.12) 本の紹介「日本のネクイハムシ」. ns.58(12)：7.
- Vieira LC\*, Lamb AB\*, Shiyake S, Salom SM\*, Kok LT\* (2012.3) Seasonal Abundance and Synchrony between *Laricobius osakensis* (Coleoptera: Derodontidae) and its Prey, *Adelges tsugae* (Hemiptera: Adelgidae), in Japan. *Annals of the Entomological Society of America* 106(2)：249-257.
- 松本吏樹郎 (2012.2) 小難しい学芸員のやさしい小咄 英語でハチは？ ns.58(2)：9.
- 松本吏樹郎 (2012.4) 大阪のアルゼンチンアリ. ns.58(4)：7-8,16.
- 松本吏樹郎 (2012.5) このハチを探せ！4 ウマノオバチ. ns.58(5)：7.
- 松本吏樹郎 (2012.6) このハチを探せ！5 タイワンタケクマバチ～大阪にもやってくるのか？～. ns.58(6)：8.
- 松本吏樹郎 (2012.6) ルリモンハナバチ. ns.58(7)：1.
- 松本吏樹郎 (2012.7) おすすめ、長居公園のハチ・ウォッチング. ns.58(7)：2-4,12.
- 松本吏樹郎 (共著) (2012.7) ハチまるごと！図鑑 大阪市立自然史博物館第43回特別展「のぞいてみようハチの世界」解説書, 136pp.
- 松本吏樹郎 (2012.8) ヒメホソアシナガバチの女王. ns.58(8)：1,15.
- 松本吏樹郎 (2012.9) コガタスズメバチに寄生したメスから出てきたスズメバチネジレバネの幼虫. ns.58(9)：1,12.
- 松本吏樹郎 (2012.9) スズメバチあれこれ. ns.58(9)：2-5.
- 松本吏樹郎・高須賀圭三\* (2012.9) 日本産 *Acrodactyla* 属の分類・系統・寄主操作 (ヒメバチ科, クモヒメバチ群). 日本昆虫学会第72回大会 (町田) 講演要旨：77.
- 高須賀圭三\*・松本吏樹郎 (2012.9) ギンメッキゴミグモに寄生するニールセンクモヒメバチ *Reclinervellus nielsenii* の寄主操作. 日本昆虫学会第72回大会 (町田) 講演要旨：77.
- 高須賀圭三\*・中田兼介\*・松本吏樹郎・前籐薫\* (2012.11) ゴミグモ類に寄生する *Reclinervellus* spp. の寄主操作. 日本動物行動学会第31回大会 (奈良) 講演要旨：80.
- Pham, Nhi Thi\*, Broad, Gavin R., Matsumoto, Rikio, Bohme, Wolfgang\* (2012) First record of the genus *Acrodactyla* Haliday (Hymenoptera: Ichneumonidae: Pimplinae) from Vietnam, with descriptions of six new species. *Zootaxa* (3207)：40-53.
- 【植物研究室】**
- 河原栄\*・佐久間大輔・加藤克\*・赤石大輔\*・古畑徹\* (2012.4) 四高のきのこムラージュ第2報：皮膚ムラージュの祖土肥慶蔵ときのこムラージュの達人山越長七郎. 金沢大学資料館紀要 7：41-52.
- 佐久間大輔・橋屋誠\*・今村彰生\* (2012.5) 本郷次雄氏収集菌類標本の現状について. 日本菌学会第56回大会講演要旨集：A1.
- 佐久間大輔 (2012.5) 標本と記録から見るカエントケ *Hypocrea cornu-damae* Pat. の生態と分布 日本菌学会第56回大会講演要旨集：A17.
- 佐久間大輔・松下宏幸\* (2012.5) ホシアサガオの菌えい (菌こぶ). ns.58(5)：5,12.
- 長谷川匡弘 (2012.6) 小難しい学芸員のやさしい小咄. マルハナバチと雑木林の開花リレー. ns.58(6)：9-10.
- 長谷川匡弘・佐久間大輔他 (2012.7) ハチまるごと！図鑑. 大阪市立自然史博物館第43回特別展「のぞいてみようハチの世界」解説書136pp.
- 佐久間大輔 (2012.7) 自然史標本修復の経験を今後繋ぐために「東北大地震と自然史系博物館～被災自



- 然史標本の修復技法と博物館救援体制を考える研究集会」からの報告. ミュゼ (100) : 24-26.
- 佐久間大輔 (2012.7) 都市における「食」と生産地の「生物多様性」の2つの課題を結びつける教育実践研究. 月刊生涯学習 5 (7) : 10-11.
- 佐久間大輔・奥村英世\* (2012.8) 近畿地方で撮影されたホネタケ属. 日本菌学会ニュースレター 2012-3 : 1.
- 長谷川匡弘 (2012.8) 熱帯雨林の宝石 シタバチと花の生態学. ns.58(8) : 2-4.
- 佐久間大輔 (2012.9) 広域連携組織は博物館発展のパートナーとなり得るか: 西日本自然史系博物館ネットワークを例に (特集博物館を支え、博物館と協働する組織). 博物館研究 47(9) : 10-12.
- 昌山敦\*・村上太郎\*・佐久間大輔・紀雅美\*・山野哲夫\*・清水充\* (2012.11) 食中毒原因究明のための遺伝子解析によるキノコ鑑別食品. 衛生学雑誌 53(5) : 237-242.
- 長谷川匡弘・佐久間大輔 (2012.11) 自由研究支援事業～大阪市立自然史博物館の取り組み. 全科協ニュース 42(5) : 3-4
- 佐久間大輔 (2012.12) 特集これからのレッドデータブック-地域の生物多様性保全のツールとして- 生物多様性保全施策としてのレッドリスト. 地域自然史と保全 34(1) : 131-136.
- 佐久間大輔 (2012.12) 社会教育・生涯学習辞典 (分担執筆)
- 佐久間大輔 (2012.12) 親密さを保った小規模イベントを大人数で-インターネット配信技術を使った普及活動. 博物館これからの見せ方・伝え方記録集 : 31-35.
- 奥敬一\*・伊東宏樹\*・佐久間大輔・篠沢健太\*・深町加津枝\* (共訳) (2013.1) イギリスのカントリーサイド-人と自然の景観形成史. 昭和堂. 653p.
- 松井淳\*・吉岡真也\*・今村彰生\*・佐久間大輔・常俊容子\* (2013.3) 本山寺の森 (暖温帯針広混交林) における稚樹個体群の組成と更新. 日本生態学会第60回全国大会 (静岡) 講演要旨 : P 2-137.
- 佐久間大輔 (2013.3) 明治初期資料に見る里山ランドスケープ類型化の試み. 日本生態学会第60回全国大会 (静岡) 講演要旨 : H 3-29.
- 長谷川匡弘・楠瀬雄三\* (2013.3) 局所的分布種オオママコナの送粉昆虫と花形態の適応: ママコナ属におけるポリネーターを介した生態的種分化の可能性. 日本生態学会第60回全国大会 (静岡) 講演要旨 : P 2-198.
- 志賀隆\*・港翼\*・長谷川匡弘 (2013.3) どのような種や状態の博物館標本の種子が生きているのか? 日本生態学会第60回全国大会 (静岡) 講演要旨 : P 2-328.
- 佐久間大輔 (2013.3) 大上宇市「大阪附近ニ於ル菌類」にみる大正期大阪市街地のキノコ相と地方アマチュア研究の状況. 大阪市立自然史博物館研究報告 (67) : 11-20.
- 長谷川匡弘・岩坪美兼\*・鳴橋直弘\* (2013.3) バラ科アイノコヘイチゴの大阪府下での生育確認とその染色体数. 大阪市立自然史博物館研究報告 (67) : 21-25.
- Takuya Ito\*, Shingo Kaneko\*, Masashi Yokogawa, Gwan-Pil Song\*, Hyeok-Jae Choi\*, Yuji Isagi\* (2013) Isolation and characterization of microsatellite markers for *Hydrangea luteovenosa* (Hydrangeaceae), an endangered species in Korea. Korean Journal of Plant Taxonomy 43 (1) : 30-33.
- 前迫ゆり\*・野間直彦\*・金子有子\*・横川昌史・渡部俊太郎\*・東 義広\* (2013) 滋賀県犬上川流域におけるタブノキ林の多様性保全の必要性. 地域自然史と保全 34(2) : 165-179.
- 横川昌史・宇野公子\*・井上雅仁\*・高橋佳孝\* (2013) 阿蘇東外輪山の半自然草原における植物群集の開花フェノロジーと種ごとの生活史特性の関係. 鳥根県立三瓶自然館研究報告 (11) : 1-14.
- 横川昌史・井上雅仁\*・堤 道生\*・白川勝信\*・高橋佳孝\*・井鷲裕司\* (2013.3) 阿蘇東外輪山における樹林の伐採による草原再生に伴う植生の変化. 第60回日本生態学会大会講演要旨 : 342.
- 横川昌史・大滝典雄\*・高橋佳孝\* (2013.3) 伝統的な植物利用も絶滅の危機? -熊本県阿蘇地方における盆花の種多様性の減少と種組成の地域変異-. 日本植物分類学会第12回大会研究発表要旨集 : 51.

## 【地史研究室】

- 樽野博幸 (2013.3) 上町台地, 石川・西除川に沿った河岸段丘, 汐ノ宮火山岩, 河内長野の温泉. ミニガイドNo.25「大阪の地質見どころガイド」. 大阪市立自然史博物館 (共著)
- 樽野博幸・森勇一\* (2013.3) 三重県桑名市多度町より産出した脊椎動物化石. 桑名市多度力尾土地区画整理事業地内「三重県嘉例川火山灰層発掘調査報告書」, 多度力尾地区東海層群学術調査団.
- Tsukagoshi M. and Matsushashi Y.\* (2012.8) *Spirematospermum* from Japan and its phytogeography. 13th International Palynological Congress and 9th International Organization of

- Paleobotany Conference. Abstract : 532.
- Momohara A.\*, Tsukagoshi, M., Yamakawa, C.\*, Kitada M.\* and Nishiuchi, R.\* (2012.8) Natural vegetation and Neogene fossil sites in and around Nara, western Japan. A guidebook to the field excursion Post-2. 13th International Palynological Congress and 9th International Organization of Paleobotany Conference : 47.
- 塚腰 実 (2012.10) 小難しい学芸員のやさしい小咄. 木生シダの幹の化石－年輪のないプサロニウス－. ns.58(10) : 125,134-135.
- Ken Sawada\*, Hideto Nakamura\*, Takaaki Arai\*, Minoru Tsukagoshi (2012.11) Evaluation of paleoenvironment using terpenoid biomarkers in lignites and plant fossil from the Miocene Tokiguchi Porcelain Clay Formation at the Onada mine, Tajimi, central Japan. International Journal of Coal Geology (107) : 78-89.
- 塚腰 実 (2013.2) 果実と種子の見分け方. ns.59 (2) : 5-8.
- 塚腰 実 (2013.3) 泉南流紋岩類と和泉層群の不整合, 生駒山のはんれい岩. ミニガイドNo.25「大阪の地質見どころガイド」. 大阪市立自然史博物館 (共著).
- 川端清司 (2012.4~2012.6) 「上町断層」って何だろう? -地震と活断層- うえまち (NPO法人まち・すまいづくり発行 2012年5月号~2012年7月号連載)
- 川端清司 (2013.3) 河合マイロナイト, 花こう岩, 超丹波帯・丹波帯のメランジェ, 丹波帯の緑色岩・チャート, 摂津峡の超丹波帯. ミニガイドNo.25「大阪の地質見どころガイド」. 大阪市立自然史博物館 (共著).
- 【第四紀研究室】**
- 中条武司 (2012.3) 第四章 遺構と遺物の検討 第1節 恵美須遺跡第6層上部の海浜堆積物. 財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所編「大阪市浪速区恵美須遺跡発掘調査報告」: 77-79.
- 中条武司 (2012.6) 青森県東通村稲崎海岸に見られる大規模斜交層理. ns.58 (6) : 84.
- 中条武司・佐藤隆春\* (2012.7) 奈良県北部に分布する中新統室生火砕流堆積物非溶結相における再堆積過程. 堆積学研究71 (1) : 15-23.
- 趙 哲済\*・中条武司 (2012.8) 難波のさきの並び浜. 葦火27 (3) : 6-7.
- 中条武司・趙哲済\* (2012.8) 大阪平野西部恵美須遺跡における海浜堆積物と紀州街道の成立. 日本第四紀学会2012年大会 (埼玉) 講演要旨集 : 42-43.
- 佐藤隆春・中条武司・和田穰隆\*・鈴木桂子\* (2012.8) 中新世の室生火砕流堆積物. 地質学雑誌 (117) (補遺) : 53-69.
- 佐藤隆春・和田穰隆\*・鈴木桂子\*・中条武司 (2012.9) 奈良, 石仏凝灰岩層の層序と対比. 日本地質学会第119年学術大会 (大阪) 講演要旨 : 214.
- 趙 哲済\*・中条武司・辻本裕也\* (2012.9) 大阪海岸低地, 長柄砂州中部の地形と古環境の変遷. 日本地質学会第119年学術大会 (大阪) 講演要旨 : 171.
- 中条武司 (2012.11) 大雨のあとの干潟. ns.58 (11) : 142-143, 152.
- 中条武司・廣野哲朗\* (2013.2) 上町断層によって撓曲した大阪層群の貴重な露頭が消失の危機に. 日本地質学会News16 (2) : 11.
- 中条武司 (2013.3) 上町断層によって撓曲した大阪層群の貴重な露頭が消失の危機に!! . そくほう (地学団体研究会機関誌) 2013年3月号 : 3.
- 佐藤隆春・和田穰隆\*・中条武司・鈴木桂子\* (2013.3) 奈良市街地東部に分布する中部中新統の層序の再検討. 大阪市立自然史博物館研究報告 : 27-44.
- 中口讓\*・益田晴恵\*・中条武司・山中康平\*・里口保文\*・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ水質班・滋賀県立琵琶湖博物館みずはしかけ\* (2013.3) 淀川水系における化学成分の広域分布に関する調査報告. 大阪市立自然史博物館研究報告 (67) : 45-81.
- 中条武司 (2013.3) 大阪の地形と地質, 有馬-高槻構造線, 石川・西除川に沿った河岸段丘, 亀の瀬の地すべり, 二上山周辺の凝灰岩, 屯鶴峯, 豊国崎の和泉層群, コラム断層. ミニガイドNo.25「大阪の地質見どころガイド」. 大阪市立自然史博物館 (共著).
- 石井陽子 (2012.6) 大阪層群のピンク火山灰層. ns.58 (6) : 1-3, 12.
- 石井陽子 (2012.9) 軽石が軽いのはなぜだろう-続・火山ガラスのかたちのひみつ-. ns.58 (9) : 8.
- 石井陽子 (2012.9) 大阪平野南部, 泉北丘陵の大阪層群下部火山灰層序-光明池 火山灰層下位の結晶質火山灰層. 日本地質学会第119年学術大会 (大阪) 講演要旨集 : 237.
- 石井陽子 (2013.3) 大阪層群の海成粘土層, 大阪層群の火山灰層. ミニガイド25「大阪の地質見どころガイド」. 大阪市立自然史博物館 (共著).

## Ⅵ. 講演・館外活動・社会貢献など

報文一覧に含まれない講演などの館外活動をここに採録した。

波戸岡

日本魚類学会評議員

大阪市立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

金沢

金沢至（2012.12）マダラチョウ類の越冬地を求めて  
－台湾蘭嶼島と香港－. 日本昆虫学会近畿支部  
2012年度大会・日本鱗翅学会近畿支部146回例会  
（三田市）

金沢至・藤野適宏（2012.12）伊勢湾周辺移動昆虫調  
査・台湾蘭嶼島調査・香港調査の報告. 愛知アサ  
ギマダラの会（西尾市）

金沢至（2013.3）季節的に長距離を移動する昆虫の生  
活. 愛知県自然観察指導員連絡協議会総会（名古  
屋市）

金沢至（2013.3）大阪府のウラナミジャノメの現状.  
第3回関西・中国地区のチョウ類の保全を考える集  
い（神戸市）

日本昆虫学会評議員

日本昆虫学会電子化推進委員長

日本環境動物昆虫学会評議員

日本鱗翅学会近畿支部幹事

渡りチョウを調べる会HP・編集担当

大阪市立大学非常勤講師「生物学実験B」

大阪市立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

初宿

日本甲虫学会評議員

日本環境動物昆虫学会生物保護とアセスメント手法研  
究部会運営委員

松本

日本昆虫学会評議員

横川

横川昌史（2013.1）草原性絶滅危惧植物の現状とその  
保全について. 第2回実践教育推進センター自然  
共生・再生プロジェクト部講演会（福島市）

芦澤和也・大谷雅人・指村奈穂子・横川昌史  
（2013.3）自由集会「遺伝的多様性に配慮した希少  
生物の生息・生育域外保全」. 日本生態学会大会  
（静岡市）

横川昌史（2013.1）生態学データを用いた統計ソフト  
R講習会—ど素人が独習でいろいろできるようにな  
るまで. 第2回実践教育推進センター自然共生・  
再生プロジェクト部講演会（福島市）

川端

日本地質学会評議員・理事

地学団体研究会大阪支部運営委員

大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

塚腰

塚腰 実（2012.11）メタセコイア発見物語—三木先  
生が観察したこと—. 東京都立水元公園の企画展  
「三木先生とメタセコイア物語展」講演会（東京  
都）.

化石研究会運営委員

地学団体研究会大阪支部運営委員

大阪市立大学非常勤講師「大阪の自然」

愛媛大学非常勤講師 集中講義「古植物学」

中条

日本第四紀学会教育アウトリーチ委員会委員

地学団体研究会大阪支部委員

大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

## Ⅶ. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成24  
年度に受け入れた外部研究者は次表のようである。期  
間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

大塚公雄・村上豊・金沢至（2012）高校における課題  
研究・卒業研究と博物館施設. 日本昆虫学会第72  
回大会講演要旨：94.

奥田尚（2012）古墳石材の産地同定.古墳時代の考古  
学, 隣接科学と古墳時代研究：109-120, 同成社.

関川尚功・奥田尚（2012）天理市榊山古墳出土の土  
器・土製品. 橿原考古学研究所紀要考古学論攷第  
35冊：63-74. 奈良県立橿原考古学研究所.

奥田尚（2012）三吉陵墓参考地の葺石石材の石種とそ  
の採石地. 書陵部紀要（63）（陵墓篇）：96-101. 宮  
内庁書陵部.

大和大峯研究グループ（奥田尚参加）（2012）紀伊山  
地中央部の四万十帯. 地学団体研究会専報（59）：  
15-24. 地学団体研究会.

大和大峯研究グループ（奥田尚参加）（2012）紀伊山  
地中央部における秩父帯と四万十帯の地質関係.

- 地学団体研究会専報 (59) : 283-292. 地学団体研究会.  
佐藤隆春・中条武司・和田穰隆・鈴木桂子 (2012)  
中新世の室生火砕流堆積物. 地質学雑誌 118(補  
遺) : 53-69.
- 佐藤隆春・和田穰隆・中条武司・鈴木桂子 (2013) 奈  
良市街地東部に分布する中部中新統の層序の再検  
討. 大阪市立自然史博物館研究報告 (67) : 65-82.
- 佐藤隆春・八尾昭・山本俊哉 (2012) 中新世中期,  
熊野酸性火成岩類の火山豆石を含む凝灰岩から産出  
した放散虫化石. 地球科学 66(4) : 117-127.
- 佐藤隆春 (2012) 室生火砕流堆積物を噴出したマグ  
マ. 日本鉱物科学会年会講演要旨集 : 193.
- 佐藤隆春・八尾昭 (2012) 大台コールドロンの火道に  
含まれる海成層ブロック. 日本火山学会講演予稿  
集2012年度秋季大会 : 154.
- 佐藤隆春・八尾昭 (2012) カルデラ火山の火道を充填  
する海成堆積物と溶結凝灰岩中新世の大台コールド  
ロンでの例. 地学団体研究会第66回総会 (長野)  
講演要旨集・巡検案内書 : 80.
- 佐藤隆春・樽野博幸 (2012) マッコウクジラ脳油組織  
埋設砂場での陥没現象とカルデラモデル. 地学団  
体研究会第66回総会 (長野) 講演要旨集・巡検案内  
書 : 81.
- 佐藤隆春・鈴木桂子・中条武司・和田穰隆 (2012) 奈  
良, 石仏凝灰岩層の層序と対比. 日本地質学会第  
119年学術大会講演要旨 : 214.
- 大和大峯研究グループ (岩橋豊彦・佐藤浩一・佐藤隆  
春・竹内靖夫・南浦育弘・八尾昭) (2012) 紀伊山  
地中央部の四万十帯. 地団研専報 紀伊半島にお  
ける四万十付加体研究の新展開 (59) : 15-23.
- 大和大峯研究グループ (岩橋豊彦・佐藤浩一・佐藤隆  
春・竹内靖夫・南浦育弘・八尾昭) (2012) 紀伊山  
地中央部における秩父帯と四万十帯の地質関係.  
地団研専報 紀伊半島における四万十付加体研究の  
新展開 (59) : 283-391.
- 佐藤隆春・田結庄良昭 (2012) 住民とともに震災復興  
を考える : 阪神・淡路大震災から18年の被災地.  
地学教育と科学運動 (67) : 11-22.
- 中条武司・佐藤隆春 (2012) 奈良県北部に分布する中  
新統室生火砕流堆積物非溶結相における再堆積過  
程. 堆積学研究71 (1) : 15-23.
- 清水裕行・金沢至・西川喜朗 (2012) 毒グモ騒動の真  
実—セアカゴケグモの侵入と拡散. 全国農村教育  
協会.
- 金沢至・清水裕行・西川喜朗 (2012) セアカゴケグモ  
の分布拡大と咬傷事例の増加. 第24回日本環境動  
物昆虫学会年次大会講演要旨 : 36.
- 金沢至・清水裕行・西川喜朗 (2012) セアカゴケグモ  
の分布拡大と咬傷例の増加. ns.58(12) : 154-156.
- 菅森義晃・小泉奈緒子 (2012) 超丹波帯国崎コンプ  
レックスの苦鉄質岩類の化学的特徴. 人と自然  
(23) : 129-135.
- 菅森義晃・小泉奈緒子・竹村静夫 (2012) 兵庫県南東  
部, 川西—猪名川地域の超丹波帯と丹波帯. 地質  
学雑誌118 (補遺) : 21-36.
- 菅森義晃 (2012) 福井県小浜市片江鼻の超丹波帯—丹  
波帯境界. 日本地質学会, 編集, 「日本の構造地  
質百選」, 朝倉書店 : 14.
- 菅森義晃 (2012) 図3 海洋プレート層序と付加  
体. 尾方隆之, 編集, 「島々のジオツアー—伊江  
島が語る地球の営み—」, 琉球列島ジオサイト研  
究会・本部半島ジオパーク推進協議会 : 7.
- 菅森義晃 (2012) コラム1 【放散虫—革命をもたらし  
た小さな化石】. 尾方隆之, 編集, 「島々のジオ  
ツアー—伊江島が語る地球の営み—」, 琉球列島  
ジオサイト研究会・本部半島ジオパーク推進協議  
会 : 5.
- 菅森義晃 (2012) 案内者報告 (B班 兵庫県南東部,  
川西—猪名川地域の超丹波帯と丹波帯). 日本地  
質学会News 15 (11) : 14.
- 菅森義晃 (2012) 兵庫県但東地域の“古生層”から産出  
した放散虫化石とその年代. 日本地質学会第119年  
学術大会講演要旨 : 236.
- 菅森義晃 (2012) 古生代の地層は山陰海岸ジオパー  
クに存在する—古生代のプランクトン化石の発見  
—. 第3回山陰海岸ジオパーク学術奨励研究事業  
成果発表会要旨集 : 6.
- 石渡明・菅森義晃 (2012) 兵庫県川西市の超丹波帯か  
ら含蛇紋岩礫岩の発見 : ペルム紀前弧域に大江山  
オフィオライトが露出?. 日本地球惑星科学連合  
2012年大会予稿集 : G119-002.
- Suzuki, T., Bogorodsky, S. V. and Randall, J. E.  
(2012) Gobiid fishes of the genus *Bryaninops* from  
the Red Sea, with description of two new species  
and two new records. Zootaxa (3170) : 1-17.
- Greenfield, D. W. and Suzuki, T. (2012) *Eviota*  
*atriventrtris*, a New Goby Previously Misidentified as  
*Eviota pellucida* Larson (Teleostei : Gobiidae) .  
Zootaxa (3197) : 55-62.
- Suzuki, T., Yano, K. and Senou, H. (2012) *Gobiodon*  
*winterbottomi*, a new goby (Actinopterygii :  
Perciformes : Gobiidae) from Iriomote-jima  
Island, the Ryukyu Islands, Japan. Bulletin of the  
National Museum of Nature and Science, Series A

(Zoology) , Supplement 6, pp. 59-65.

Suzuki, T., Sakaue J. and Senou, H. (2012) Two new species of the gobiid fish genus *Trimma* (Actinopterygii : Perciformes : Gobiidae) from Japan and Palau. Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology) , Supplement 6, pp. 67-77.

Shibukawa, K., Suzuki T. and Senou, H. (2012) Review of the shrimp-associated goby genus *Lotilia* (Actinopterygii : Perciformes : Gobiidae) , with description of a new species from the West Pacific. Zootaxa (3362) : 54-64.

Chen, I-S., Suzuki, T. and Shao, K.-T. (2012) A new deepwater goby of the genus *Discordipinna* Hoesel & Fourmanoir, 1978 (Teleostei : Gobiidae) from Kumejima of the Ryukyus, Japan. Zootaxa (3367) : 274-280.

石井実・平井規央・坂本佳子・天満奈央・天満和久 (2012.10) ヒメシロチョウの生活史と行動. 日本鱗翅学会第59回大会講演要旨集 : 35.

平井規央・天満和久・市川顕彦・河合正人・坂井誠・初宿成彦・長島聖大・平田慎一郎・平松和也・松本吏樹郎・宮武頼夫・山本哲央・鈴木真裕 (2013.3) 昆虫類における大阪府レッドリスト見直しの概要と新たなレッド種. 関西自然保護機構 (KONC) 2013年大会ポスター発表講演要旨 : 6.

天満和久・石井実・平井規央・石田惣・佐久間大輔・中条武司・和田岳・上原一彦・梅原徹・平田慎一郎・道盛正樹 (2013.3) 大阪府レッドリスト改訂に向けた新たな取り組み. 関西自然保護機構 (KONC) 2013年大会ポスター発表講演要旨 : 7.

天満和久 (2013.3) 大阪府のギフチョウ. 第3回関西・中国地区のチョウ類の保全を考える集い要旨 : 8-9.

長谷川匡弘・岩坪美兼・鳴橋直弘 (2013.3) バラ科アイノコヘビイチゴの大阪府下での生育確認とその染色体数. 大阪市立自然史博物館研究報告 (67) : 21-25.

濱田信夫 (2012.10) 壁を汚染するカビの栄養特性. 環境管理技術 30 (5) : 213-220.

林寿一 (2012) シンデレラフシギノモリノオナガシジミのカリマンタン (ボルネオ) からの記録. やどりが (233) : 47.

林寿一 (2012) フィリピン撮影紀行ー自分が記載した蝶たちを探してー. やどりが (235) : 34-39.

表 1. 平成24年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
安藤 洋子	外来研究員	本人	佐久間大輔
石井 久夫	外来研究員	本人	中条 武司 石田 惣
石田 路子	外来研究員	本人	石田 惣
市毛 勝義	外来研究員	本人	松本吏樹郎
稲本 雄太	外来研究員	本人	金沢 至
今村 彰生	外来研究員	本人	佐久間大輔
大石 久志	外来研究員	本人	松本吏樹郎
大谷 道夫	外来研究員	本人	山西 良平
大塚 公雄	外来研究員	本人	金沢 至
奥田 尚	外来研究員	本人	川端 清司
小郷 一三	外来研究員	本人	山西 良平
佐藤 隆春	外来研究員	本人	中条 武司 川端 清司
篠川 貴司	外来研究員	本人	石田 惣
清水 裕行	外来研究員	本人	金沢 至
菅森 義晃	外来研究員	本人	川端 清司
鈴木 寿之	外来研究員	本人	波戸岡清峰
高田 陽子	外来研究員	本人	波戸岡清峰
田村美美子	外来研究員	本人	金沢 至
天満 和久	外来研究員	本人	金沢 至
長江真紀子	外来研究員	本人	石田 惣
鳴橋 直弘	外来研究員	本人	志賀 隆
西澤真樹子	外来研究員	本人	和田 岳
花崎 勝司	外来研究員	本人	波戸岡清峰
浜田 信夫	外来研究員	本人	佐久間大輔
林 勇夫	外来研究員	本人	山西 良平
林 寿一	外来研究員	本人	金沢 至
秀瀬みのり	外来研究員	芥川緑地資料館 ・山本忠雄館長	金沢 至
細川 正富	外来研究員	本人	波戸岡清峰
前田 哲弥	外来研究員	本人	佐久間大輔
松江実千代	外来研究員	本人	塚腰 実
丸井 英幹	外来研究員	本人	長谷川匡弘
道盛 正樹	外来研究員	本人	佐久間大輔
名部みち代	外来研究員	本人	佐久間大輔
吉田 浩史	外来研究員	本人	松本吏樹郎
米澤 里美	外来研究員	本人	和田 岳
渡部 哲也	外来研究員	本人	石田 惣

# 資料収集保管事業

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は冷凍燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、研究・展示活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なものについては広く標本情報を公開している。

24年度に寄贈を受けた主なコレクションは以下の通りである。田辺湾他の貝類および海岸生物（700点）、*Leipsuropus*属タイプ（9点）、ベトナムとボルネオ産の直翅類（458点）、ハネカクシ科完模式標本（22点）、中国産ネクイハムシのパラタイプ（4点）、日本産ハネカクシ完模式標本（4点）、モンシロチョウ属の標本（1,812点）、日本産植物標本および植物専門書籍類（一式）、近畿産菌類等（300点）、兵庫県産植物標本（608点）、日本産鉱物コレクション（229点）など。平成24年度末の総資料数は約151万点である。

## I. 寄贈および交換標本

### ■動物研究室

愛知県のツグミ	1点	竹内 秀代氏
和歌山県のオオルリ	1点	中村 進氏
埼玉県のシジュウカラ	1点	齋藤 伸彦氏
広島県のカワセミ	1点	小川 淳氏
河南町のフクロウ	1点	森 ひとみ氏
貝塚市のテン	1点	岩崎 拓氏
浪速区の鳥ほか	3点	中村 恵昭氏
京都府のシマセンニュウ	1点	奥田 幸男氏
千早赤阪村のコウモリ的一种	1点	横山 太氏
茨木市のシマヘビ	1点	小林 芳樹氏
奈良県のキセキレイ	1点	前田 露氏
箕面市のツバメ	1点	香川万里子氏
枚方市のメジロ	1点	石川新三郎氏
沖縄県のシロハラクイナ	1点	西澤真樹子氏
茨木市のコゲラ	1点	大矢 樹氏
滋賀県のコジュケイ	1点	藤本 貴司氏
池田氏のアオバト	1点	西本 安宏氏
兵庫県のタヌキ	1点	米澤 里美氏
兵庫県のセンダイムシクイ	1点	道盛 有香氏
大和川水系の鯉脚類他	540点	
プロジェクトYカブトエビ班		
守口市のカワウ	1点	嶋崎 拓氏
岩手県のタヌキ	1点	宮野 真一氏
滋賀県のアライグマ	1点	林 和典氏
能勢町のアライグマ	4点	上條 健一氏

京都府立大学のダチョウ	1点	足立 和英氏
河内長野市のシロハラ	1点	佐藤 隆春氏
松原氏のシジュウカラ	1点	六車 恭子氏
北海道のハシブトガラス	1点	中村真樹子氏
天王寺区のマミジロ	1点	岩崎 佳子氏
フェレット	1点	奈良崎 泉氏
三重県のノゴマ	1点	新保 満子氏
千葉県のヒバリ・スズメ	2点	浅井真紀子氏
河内長野市のカルガモ	1点	佐藤 隆春氏
堺市のハシボソガラス	1点	浦野 信孝氏
堺市のノウサギ	1点	横島 彪氏
富田林市のバン	1点	岩崎 佳子氏
西表島の鳥類	83点	
		環境省西表野生生物保護センター
奈良県のキジ	1点	河原 和子氏
守口市のヤマシギ	1点	
		山中 浩一・入江 栄治氏
河内長野市のウグイス	1点	佐藤 隆春氏
貝塚市のヌートリア	1点	
		貝塚市立自然遊学館
オーストラリアの鯉脚類	3点	田村芙美子氏
田辺湾他の貝類および海岸生物	700点	大垣 俊一氏
周防灘の海岸動物	21点	
		大阪市立自然史博物館友の会周防灘合宿参加者
愛媛県の実産無脊椎動物	97点	
		大阪市立自然史博物館友の会燧灘合宿参加者
島根県のアナグマ	1点	藤田 宏之氏
滋賀県のハクビシン	1点	阿部 勇治氏
三重県のカワウ他	5点	宮越 和美氏
北海道のカラス類	2点	中村真樹子氏
河南町のシロハラ	1点	北村 公一氏
豊中市のフクイマメシジミ	1点	近藤 高貴氏
天王寺動物園のライオン・エミュー	2点	天王寺動物園
能勢町のハクビシン	1点	上條 健一氏
茨木市のハシブトガラス	1点	佐竹倫太郎氏
三重県のスナメリ	1点	宮越 和美氏
天王寺動物園のキリン	1点	天王寺動物園
奈良県のイタチ・スズメ	2点	石井 久夫氏
東住吉区のカワラヒワ	1点	五月女草子氏
和歌山県のテン	1点	矢田部典子氏
奈良県のタヌキ	1点	河原 和子氏
吹田市のネコ・ムクドリ	2点	大野 理恵氏
三重県のミズナギドリ類	5点	宮越 和美氏
ダチョウ	1点	
		遊らんど板内運営組合
日本海のミットゲホウキボシ	4点	木暮 陽一氏
大分県のコウベモグラ	1点	丹生 忠嗣氏

京都府のスズメ他	3点	植田 光弘氏	兵庫県のハクセキレイ	1点	井内 由美氏
兵庫県のイタチ	1点	大須賀丕出子氏	阿倍野区のツグミ	1点	下村 晴美氏
和歌山県のイタチ	1点	矢田部典子氏	千葉県のムクドリ他	2点	浅井眞紀子氏
能勢町のハシブトガラス	1点	上條 健一氏	河内長野市のシロハラ	1点	佐藤 隆春氏
北海道のカラス他	7点	中村眞樹子氏	神奈川県のオナガ・カルガモ	2点	岩佐 果林氏
青森県のニホンザル	1点	平田 和彦氏	兵庫県のイタチ	1点	井内 由美氏
奈良県他のミミズ類	14点	田村美美子氏	天王寺動物園のダチョウ	1点	天王寺動物園
和歌山県のヤマガラ	1点	熊代 直生氏	五月山動物園のマーラ	1点	五月山動物園
奈良県のタヌキ	1点	石井 久夫氏	長野県のニホンザル	1点	後藤 光章氏
京都府のキジバト	2点	辻井 陽子氏	富山県のツキノワグマ他	3点	西尾和三郎氏
四条畷市のハイタカ・シロハラ	2点	西畑 敬一氏	北海道のアライグマ	1点	野見山朋秀氏
吹田市のヒヨドリ	1点	関野 亮子氏	滋賀県のアライグマ	1点	林 和典氏
兵庫県のシロハラ	1点	宮川五十雄氏	美原町のアライグマ	1点	浦野 信孝氏
東住吉区のドバト	1点	小原もも乃氏	三重県のキツネ	1点	運天 政元氏
和歌山県のドバト	1点	矢田部典子氏	北区のヤマシギ	1点	積水ハウス
阪南市のアオサギ	1点	三宅 壽一氏	三重県のカワウ他	4点	宮越 和美氏
豊中市のハシブトガラス	1点	植本 拓治氏	三重県のスズガモ他	12点	宮越 和美氏
北海道のハシボソガラス・メジロ	2点	中村眞樹子氏	和泉市のタヌキ	1点	奥村 隆司氏
堺市のバン	1点	下湯瀬夏生氏	奈良県のヒヨドリ	1点	丸山健一郎氏
三重県のウミスズメ	1点	宮越 和美氏	千葉県のシロハラ	1点	吉岡 啓子氏
淡路島のシロハラミズナギドリ	1点	米澤 里美氏	三重県のハイロミズナギドリ他	4点	宮越 和美氏
枚方市のキビタキ	1点	深江 隆志氏	千早赤阪村のヤマドリ	1点	森山 義博氏
天王寺動物園のツキノワグマ他	7点	天王寺動物園	鹿児島県のオシドリ	1点	高山真由美氏
柏原市のハシブトガラス	1点	丸山健一郎氏	泉大津市のカミツキガメ	1点	
藤井寺市のハシブトガラス	1点	井関 浩光氏			環境省近畿地方環境事務所
北海道のカラス	3点	中村眞樹子氏	長居のタヌキ・ハシブトガラス	2点	西澤真樹子氏
北海道のアライグマ	1点	野見山朋秀氏	三重県のスナメリ	1点	宮越 和美氏
能勢町のハクビシン	1点	上條 健一氏	山口県のクキイタダキ	1点	沖田 絵麻氏
兵庫県のノウサギ	1点	大須賀丕出子氏	天王寺区のクロツグミ	1点	宮崎 智美氏
東住吉区のタヌキ	1点	三好奈保子氏	大阪狭山市のノゴマ	1点	松下 宏幸氏
泉佐野市のゴイサギ	1点	飯田 政治氏	北区のアオバト	1点	小山 栄氏
シチメンチョウ他	4点	浦野 信孝氏	堺市のイカルチドリ	1点	木村 寛氏
富山県のヤマドリ	1点	河野 芳美氏	四条畷市のホトトギス他	2点	西畑 敬一氏
北区のシロハラ	1点	久保 ユカ氏	千早赤阪村のマミジロ	1点	森山 義博氏
宮城県のタヌキ	1点	西澤真樹子氏	住吉区のキンカチョウ	1点	北田 晴子・華氏
藤井寺市のタヌキ他	3点	井関 浩光氏	奈良県のシロハラ	1点	河合 正人氏
堺市のタヌキ	1点	奥田喜代子氏	箕面市のカイウサギ	1点	秋田 正雄氏
和歌山県のタヌキ	1点	矢田部典子氏	和歌山県のテン	1点	麻野 浩氏
滋賀県のイノシシ	1点	阿部 勇治氏	羽曳野市のタヌキ	1点	井関 浩光氏
和泉市のゴイサギ	1点	浦野 信孝氏	長居のタヌキ	2点	長居 植物園
青森県の無脊椎動物	17点		北海道のアライグマ	1点	野見山朋秀氏
大阪市立自然史博物館友の会下北合宿参加者			浪速区のノネコ	1点	鎌田 智也氏
天王寺動物園のキリン	1点	天王寺動物園	大分県のイノシシ	1点	丹生 忠嗣氏
北海道のヒガラ・シジュウカラ	2点	中村眞樹子氏	兵庫県のハシボソガラス	1点	運天 政元氏
兵庫県のコブハクチョウ他	2点	高津 一男氏	長居のアカハラ	1点	
住吉区のマガモ	1点	鳥山 和子氏			宮崎 息吹・穰・明子・真氏
平野区のトラツグミ	1点	鳥居本正義氏	北区のツグミ	1点	池田 裕計氏

資料収集保管事業

長野県のニホンザル	1点	後藤 光章氏	石川のウキゴリ	2点	小林 春平・智氏
兵庫県のシロハラ	1点	光浪喜美子氏	甲子園浜のハゼ類	2点	東山 直美氏
日本産アナジャコ類	971点	三枝 誠行氏	大和川のギギ	2点	松吉 敬一氏
大阪湾の無脊椎動物	3点	有山 啓之氏	シロオビイソハゼ <i>Eviota atriventris</i> のパラタイプ	4点	
住吉区のメジロ	1点	渡邊 泰代氏			
三浦市の無脊椎動物	110点				David W. Greenfield氏
		大阪湾海岸生物研究会	伊予西条のニクハゼ	1点	渡部 哲也氏
大阪湾他の貝類	686点	松村 勲氏	大台ヶ原のアカザ	2点	筒井 喜隆氏
能勢町のタヌキ	1点	上條 健一氏	大阪湾のワカウナギ他	3点	辻村 浩隆氏
奈良県のアライグマ	1点	牛田 博氏	伊勢湾のタツノオトシゴ	1点	佐藤 治子・洋子氏
羽曳野市のタヌキ	1点	井関 浩光氏	銚子沖のギンアナゴ	3点	(株)シバショウ
和歌山県のタヌキ	1点	矢田部典子氏	和歌山県のニセクロホシフエダイ他	3点	長縄 朋子氏
奈良県のアライグマ	1点	河原 風花氏	福井県のハゼ類	3点	松井 彰子氏
三重県のアライグマ	1点	新保 満子氏	栄小学校の剥製	191点	
長野県のアナグマ	1点	宮崎 学氏			大阪市立栄小学校・大阪市教育委員会
兵庫県のシジュウカラ	1点	東山 大毅氏	羽曳野市のヒヨドリ	1点	小川 信夫氏
阪南市のウミアイサ	1点	三宅 壽一氏	浪速区のヒヨドリ	1点	中村 恵昭氏
堺市のゴイサギ・シロハラ	2点	今城香代子氏	住吉区のムクドリ	1点	大野 理恵氏
東住吉区のカルガモ	1点	奥田 幸男氏	茨木市のツグミ	1点	浜地 星希氏
北海道のオオアシタガリネズミ	1点	中村 祐子氏	此花区のキビタキ	1点	石田 幸子氏
和歌山県のヒミズ	1点		都島区のオオバン	1点	奥田 幸江・幸男氏
		西田 安則・寺田 雅章氏	阿倍野区のドバト	1点	下村 晴美氏
千葉県のハツカネズミ	1点	浅井眞紀子氏	長居のシロハラ・キジバト	2点	岡出 朋子氏
宮城県のアカネズミ	4点				■昆虫研究室
		西澤真樹子・松浦 宜弘氏	ベトナムとボルネオ産の直翅類	458点	富永 修氏
兵庫県のアブラコウモリ	4点	澤田 義弘氏	インド産ハネカクシ完模式標本	2点	伊藤 建夫氏
奈良県のヒメヒミズ	1点		海外産甲虫	1,100点	春沢圭太郎氏
		石田 路子・惣・滯氏	日本産キジラミ	12点 (交換)	
池田氏のコウベモグラ	1点	今城香代子氏			Hyonchung Choe氏
枚方市のネズミ類・ヒミズ	17点	稲森 郁子氏	ハネカクシ科完模式標本	22点	伊藤 建夫氏
鹿児島県のベニガイ	1点	岩坪 幸子氏	近畿地方産昆虫など	2,182点	宮本 彰氏
ロシアのシジミ類	1点	石井 久夫氏	モンシロチョウ属の標本	1,812点	藤森 信一氏
<i>Leipsuropus</i> 属タイプ	9点	有山 啓之氏	ベトナム・マダガスカル産昆虫	376点	富永 修氏
住之江区のクロベンケイガニ	1点	小林 智氏	関西地方産昆虫	97点	市川 顕彦氏
東京湾の貝類	264点		中国産ネクイハムシパラタイプ	4点	梁・曾田貞滋氏
		風呂田利夫・多々良有紀氏	中国産ハネカクシタイプシリーズ	4点	林 靖彦氏
天王寺区のキジバト	1点	井関 浩光氏	シンガポール産膜翅類	3点	林 靖彦氏
京都府のキジバト	2点		日本産昆虫	2,170点	富永 修氏
		植田 光弘・田淵 章氏	大阪市内産ユウレイヒメマキムシ	4点	杉 義明氏
河南町のスズメ	1点	森 ひとみ氏	日本産甲虫類	690点	春沢圭太郎氏
池田氏のヒヨドリ他	1点	高田 公代氏	ベトナム産昆虫	1859点	富永 修氏
浪速区のムクドリ	1点	鎌田 智也氏	マダガスカル産昆虫	360点	富永 修氏
大阪湾のイダゴ	1点	西座 真二氏	クマゼミ生木産卵痕	1点	村瀬ますみ氏
新潟県のツノメガニ	1点	高田 宜武氏	三重県産キノカワゴミシパラタイプ	2点	森田 誠司氏
河内長野市のヒヨドリ	1点	佐藤 隆春氏	日本産ハネカクシ完模式標本	4点	伊藤 建夫氏
五月動物園のベネットアカクビワラビー	1点	五月山動物園	高槻市産ジゴクダニダグマガムシ	2点	北山 健司氏
堺市のヒヨドリ	1点	岩坪 幸子氏	マイヅルヒメテントウタイプシリーズ	5点	水野 弘造氏



尼崎市の昆虫	176点	大宮 文彦氏
日本産昆虫	168点	内田 正吉氏
日本産キジラミ	12点 (交換)	井上 広光氏
日本産甲虫類	360点	春沢圭太郎氏
日本産昆虫	710点	西尾 伸一氏
日本産バツタ類	107点	内田 正吉氏

### ■植物研究室

寄贈および交換 (\*) 標本。

大阪府産樹木標本	284点	政田 栄治氏
兵庫県産植物標本	608点	頌栄短期大学*
大阪市内産ドクゼリ標本	1点	楠井 晴雄氏
大阪市及び兵庫県産植物標本	157点	藤井 俊夫氏
メダケ果実標本	3点	松本 啓志氏
大阪市および大東市産イヌフグリ標本	2点	

富永 則子氏・西畑 敬一氏

近畿地方産植物標本	111点	兵庫県立人と自然の博物館*
-----------	------	---------------

近畿地方植物標本	287点	平野 弘二氏
三重県産植物標本	447点	市川 正人氏
大阪府産エンシュウムヨウラン	1点	福永 祐一氏
近畿地方植物標本	88点	梅原 徹氏
大阪府シダ植物標本	一式	辻井 謙一氏
日本産植物標本	一式	桑原 正二氏
植物専門書籍類	一式	桑原 正二氏
近畿産菌類等	300点	関西菌類談話会
大阪府産菌類	5点	出合 文子氏
京都府産菌類	30点	小寺 祐三氏
京都府産菌類	50点	今村 彰生氏
大阪府産冬虫夏草	7点	坂根 健氏
菌類関連文献	50点	天野 典英氏

### ■地史研究室

ブラジル産魚化石	1点	清川 鶴恵氏
ネパール産岩塩	1点	宮内 眞津氏
日本各地の化石コレクション	一式	井上 雅裕氏
日本産鉱物コレクション	229点	藤岡 弘斎氏

### ■第四紀研究室

大阪市内ボーリング資料	18件	都市整備局
-------------	-----	-------

## II. 館員による資料収集

### ■動物研究室

担当学芸員は、波戸岡…H、和田…W、石田…I と略記する。

大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産魚類を採集	(4、5、3月、H)
愛媛県四国中央市・西条市で魚類を採集	(4～5月、H)

京都府亀岡市で淡水魚類を採集	(7月、H)
山口県下関市他で魚類を採集	(8月、H)
神奈川県三浦市で海産魚類を採集	(9月、H)
瀬戸内海斎灘沿岸で岩礁性魚類を採集	(10月、H)
別府湾沿岸で沿岸性魚類を採集	(10月、H)
瀬戸内海安芸灘から備讃瀬戸で底棲動物を採集	(11月、H)
広島県江田島で岩礁性魚類を採集	(3月、H)
大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産無脊椎動物を採集	(4～6、8、3月、I)
愛媛県四国中央市・西条市で海産無脊椎動物を採集	(4～5月、I)
和歌山県白浜町で海産無脊椎動物を採集	(6月、I)
京都府亀岡市で無脊椎動物を採集	(6～7月、I)
青森県三沢市・六ヶ所村・東通村・むつ市・大間村で無脊椎動物を採集	(8月、I)
山口県下関市他で無脊椎動物を採集	(8月、I)
神奈川県三浦市で無脊椎動物を採集	(9月、I)
アメリカ合衆国フィラデルフィア・シカゴで無脊椎動物を採集	(9～10月、I)
大分県大分市他で無脊椎動物を採集	(10月、I)
大阪府河内長野市で陸産貝類を採集	(11月、I)
大阪府能勢町で淡水貝類を採集	(11月、I)
兵庫県洲本市由良で海産無脊椎動物を採集	(12月、I)
静岡県焼津市で無脊椎動物を採集	(3月、I)
大阪市他で陸産無脊椎動物を採集	(4～3月、I)

### ■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員(金沢…K、初宿…S、松本…Mと略記)が行った出張は次の通り。調査研究や資料収集のほか、普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。

4月9日	池田市五月山	昆虫全般 (M)
4月13日	四條畷市室池	昆虫全般 (M)
4月13・14日	高槻市上牧～島本町水瀬	テントウムシ (S)
4月21日	住吉区住吉公園	都市の昆虫 (S)
4月22日・5月19・20日	和歌山県紀美野町	昆虫全般 (S)
5月1日	永源寺・愛知川	昆虫全般 (S)
5月6日	奈良県大和郡山市矢田町	昆虫全般 (M)
5月8日	此花区舞洲	都市の昆虫 (S)
5月17日	大正区千島公園	都市の昆虫 (S)
5月18日	四條畷市室池	昆虫全般 (M)
5月20日	愛知県豊田市	タケクマバチ (M)
5月21日	四條畷市室池	ケブカハナバチ (M)
5月27日	此花区常吉	アルゼンチンアリ (M)

## 資料収集保管事業

5月29日・31日・6月3・4日	京都府八幡市木津川	移動昆虫 (K)
	昆虫全般 (S)	
5月30日・6月3日	堺市大泉緑地	昆虫全般 (K)
5月30日	中央区中之島・東淀川区柴島	都市の昆虫 (S)
6月1日	京都市京大上賀茂演習林	昆虫全般 (S)
6月6日	琵琶湖	昆虫全般 (S)
6月10・17日	八尾市高安地区	昆虫全般 (K)
6月11日	大津市南部	昆虫全般 (S)
6月24日	滋賀県野洲川・愛知川	キジラミなど (S)
6月28日	兵庫県淡路島諭鶴羽山	アサギマダラ (K)
7月6日・8日	亀岡市	昆虫全般 (S)
7月11日	北区扇町公園	昆虫全般 (S)
7月30日	住吉区住吉公園・住吉大社	昆虫全般 (S)
8月1日	奈良県明日香村甘檜丘	昆虫全般 (M)
8月4日	滋賀県大津市びわ湖バレイ	アサギマダラ (K)
8月6日～14日	アメリカ・アラスカ州	昆虫全般 (S)
8月7日	奈良県奈良市高円山	昆虫全般 (M)
8月13日	鳥取県鳥取市扇ノ山	アサギマダラ (K)
8月13日	高知県黒潮市・愛媛県愛南町高茂岬	海浜性昆虫 (M)
8月19日	愛知県田原市伊良湖岬	移動昆虫 (K)
8月22～24日	熊本県相良村	昆虫全般 (M)
9月2日	京都市伏見区	昆虫全般 (M)
9月3～7日	礼文島・サロベツ原野	昆虫全般 (S)
9月4～6日	長野県松本市安曇乗鞍高原・王滝村御岳	昆虫全般 (M)
9月9日	鞆公園	セミのぬけがら (S)
9月19日	愛知県田原市伊良湖岬	移動昆虫 (K)
9月22日	藤井寺市道明寺	バッタ (K)
9月28日・10月2日	住吉区住吉公園	都市の昆虫 (S)
10月3日	枚方市岡淀川河川敷	昆虫全般 (M)
10月7日	阪南市男里川河口	昆虫全般 (M)
10月8日	藤井寺市道明寺	バッタ (K・M)
10月14日	愛知県田原市伊良湖岬	
10月15日	藤井寺市道明寺	オンブバッタ (M)
10月17日	住之江公園	都市の昆虫 (S)
10月28日～11月7日	丸沼高原・志賀高原ほか	コメツガのカサアブラムシと天敵甲虫 (S)
11月4日	吹田市万博公園	昆虫全般 (M)
11月8日	此花区常吉	オンブバッタ (M)
11月18日	東大阪市枚岡公園	昆虫全般 (M)
11月19日	愛知県田原市伊良湖岬	移動昆虫 (K)
11月28日	福井県敦賀市気比松原	ウスバカゲロウ (M)
11月29日	須磨の浦公園	ガ類 (M)
1月11日	奈良県明日香村甘檜丘	昆虫全般 (M)
1月13日	東大阪市枚岡公園	越冬昆虫 (M)
1月20日	奈良県大和郡山市矢田町	昆虫全般 (M)
2月14日	枚方市岡淀川河川敷	昆虫全般 (M)
2月22日	京都府八幡市	越冬昆虫 (S)
2月25日	京都府八幡市三川合流	昆虫全般 (M)
3月20日	住之江公園	都市の昆虫 (S)
3月25日	石川県羽咋市千里浜	ウスバカゲロウ (M)

### ■植物研究室

調査研究の他、野外観察会の機会等を利用した資料収集のうち、以下に主なものを記す。担当学芸員は、佐久間…S、長谷川…H、横川…Yと略記する。

4月4日	大阪市大正区	植物一般 (H)
4月19日	京都市西京区小塩山	カタクリ、植物一般 (H)
5月11・12日	京都府南丹市美山町芦生	菌類 (S)
5月18日	高槻市鶴殿	植物一般 (H)
5月30日	奈良県吉野郡上北山村大台ヶ原	菌類 (S)
6月15日	京都市西京区小塩山	カタクリ (H)
6月25日	京都府木津川流域	植物一般 (H)
7月15日	箕面市箕面公園	菌類 (S)
8月14・15日	長野県佐久市荒船山、南牧村本沢温	ママコナ属 (H)
8月19日	奈良県橿原市橿原神宮	菌類 (S)
8月20・23日	北海道遠軽町薬師山、滝上公園周辺	ママコナ属 (H)
8月9日	京都府宮津市上世屋	菌類 (S)
9月9日	大津市大萱 龍谷大学	菌類 (S)
9月14日	和歌山県田辺市龍神山	

		ママコナ属 (H)
9月15日	奈良県吉野郡上北山村大台ヶ原	菌類 (S)
9月18日	京都府木津川流域	植物一般 (H)
9月19日	大阪市西成区天下茶屋	湿地植物 (H,S)
9月20・21日	和歌山県白浜市、すさみ町	ママコナ属 (H)
9月21～23日	岐阜県高山市日和田高原	菌類 (S)
9月29日～10月1日	新潟県十日町市美人林	菌類 (S)
10月3・4日	和歌山県串本市、古座川町	ママコナ属 (H)
10月15～17日	和歌山県串本市、古座川町	ママコナ属 (H)
10月24～26日	和歌山県串本市、古座川町	ママコナ属 (H)
10月28日	京都府立植物園	菌類 (S)
11月4日	堺市大泉緑地	菌類 (S)
11月4日	和歌山県串本市	ママコナ属、植物一般 (H)
11月15日	兵庫県加古川市加古川	フジバカマ、植物一般 (H)
11月17日	京都府宮津市上世屋	菌類 (S)
11月25日	兵庫県加古川市加古川	フジバカマ、植物一般 (H)
12月2日	京都府木津川流域	植物一般 (H)
3月12日	滋賀県多賀町・東近江市	植物一般 (Y)

#### ■地史研究室

担当者名：樽野…T、川端…K、塚腰…Gと略記する。

7月16日	京都大文字山産	熱変成岩 (T)
9月1日	三重県伊賀市	中新世・鮮新世植物化石 (G)
10月21日	愛媛県松山市	中新世植物化石 (G)
3月15～17日	長崎市茂木町	中新世植物化石 (G)

#### ■第四紀研究室

担当学芸員は、石井…I、中条武司…Nと略記する。

4月6日	愛媛県四国中央市	海浜砂礫 (N)
5月27日	青森県むつ市	湖浜砂 (N)
10月12日	大阪市内遺跡	地層はぎ取り標本 (N)

### Ⅲ. 業務委託による収集

業務名：大阪湾南東岸岩礁帯藻類相調査業務委託

業務概要：大阪湾南東岸の岩礁帯4ヶ所において、早春期の藻類相を調査するとともに、証拠標本を作製した。

調査水域：大阪府泉南郡岬町（長崎海岸、豊国崎）、和歌山県和歌山市加太（城ヶ崎、田倉崎）の計4地点の岩礁帯（潮間帯から潮下帯上部）

調査時期：2013年2月～3月

### Ⅳ. 資料数

#### ■動物研究室（平成24年度末）

海綿動物	132点
刺胞動物・有櫛動物	692点
扁形・紐形動物	391点
触手動物	141点
環形動物	5,614点
甲殻類	15,588点
軟体動物	34,363点
棘皮動物	2,605点
原索動物	465点
その他無脊椎動物	1,027点
魚類	38,905点
両生類	22,043点
爬虫類	7,893点
鳥類	6,860点
哺乳類	2,590点

(計) 139,309点

#### ■昆虫研究室（平成24年度末、未登録標本を含む）

標本総数 937,136点

#### 日本産昆虫

カワゲラ目	461
カゲロウ目	10,181
トンボ目	18,546
カマキリ目	388
直翅目	13,326
ナナフシ目	453
ハサミムシ目	524

## 資料収集保管事業

ガロアムシ目	99
ゴキブリ目	516
シロアリ目	93
シロアリモドキ目	25
チャテテムシ目	335
アザミウマ目	24
同翅類（カメムシなど）	14,550
異翅類（セミなど）	29,544
脈翅目	1,648
シリアゲムシ目	1,665
トビケラ目	2,269
蛾（ガ）	65,502
蝶（チョウ）	76,383
甲虫目	305,930
ハエ目	45,845
ハチ目	44,311
その他（各目）	16,983
クモなど	16,402
<hr/>	
計	666,003
<hr/>	
外国産昆虫	
<hr/>	
蝶（チョウ）	83,106
蛾（ガ）	7,727
ハチ目	5,151
ハエ目	3,169
甲虫	126,602
脈翅目	108
同翅類（セミなど）	6,141
異翅類（カメムシなど）	2,099
直翅型昆虫	6,161
トンボ目	1,317
カワゲラ目	66
その他（各目）	3,117
クモなど	1,581
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション	12,439
韓国産昆虫コレクション	1,506
アフガニスタンの昆虫	6,143
<hr/>	
計	271,133

### ■植物研究室（平成24年度末、未登録標本を含む）

種子・シダ植物さく葉標本	271,454
蘚類標本	35,920
苔類標本	23,230
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	16,950
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
<hr/>	
（計）	369,741

### ■地史研究室（平成24年度末、登録済標本数）

岩石	1,275点
鉱物	2,815点
脊椎動物化石	1,715点
古生代無脊椎動物化石	1,370点
中生代無脊椎動物化石	3,090点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
放散虫化石	135点
古生代植物化石	185点
中生代植物化石	367点
第三紀植物化石	3,741点
<hr/>	
（計）	32,534点

### ■第四紀研究室（平成24年度末、登録済標本数）

人類遺物	29点
植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941（種）
現生シダ植物胞子	362（種）
無脊椎動物化石	5,564点
大阪市内ボーリング資料	1,655（件）
<hr/>	
（計）	36,639点（件・種）

## V. 自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への応対に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成24年度（2012年度）も、新しく受け入れたものについて引き続きおこなっている。

平成24年末までにデータ入力をおこなった電子出版物を含む図書は、1,414部で、入力済み収蔵数は14,822部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成24年度に3,032冊、平成24年度末現在の累計175,423冊である。

### 1. 個人・機関からの受贈（登録済みの分のみ。交換分は除く、敬称略）

- 個人**：宮武頼夫、富田寿男、かとうようこ、相原安津夫、長尾武、吉田譲、鈴木慎悟、岡本素治、岡部和比古、石田裕也、李峰雨、大屋崇、伊藤ふくお、野村穰、早川貞臣、伊藤秀樹、谷田一三、政田栄治、奥沢康正、三沢博志、Craig Reid、岡本正豊、横関秀行、佐藤隆春、西尾伸一、瀧端真理子、宇陀章、三上誠太、浜島繁隆、小林禧樹、市川顕彦、浅川満彦、浜田信夫、遠山弘法、瀬戸剛
- 民間団体、出版社、企業など**：小学館、日本生命財団、妙國寺、大阪経済法科大学出版部、松籟社、全国農村教育協会、東海大学出版会、千島土地株式会社、ポプラ社、石川きのこ会、鞆公園自然研究会、琵琶湖を戻す会、築地書館
- 政府機関及び自治体および関連団体、大学、研究所など**：環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室、国立科学博物館、大阪大学総合学術博物館、リニア・鉄道館、日本鳥類学

会、鈴鹿市、環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室、和歌山県自然環境室、沖縄美ら海水族館、大阪市立大学、大阪大学総合学術博物館、玉野市、JT生命誌研究館、交通文化振興財団、交通博物館、公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所、関西地盤情報活用協議会、広島県環境県民局自然環境課

### 2. 購入等によるもの

#### ●図書購入費による購入（登録済みの分のみ）

平成24年度 288冊

#### ●消耗品費による購入

国内7誌

[平成24年度購入雑誌]

国内：科学、遺伝、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋。

#### ●学会への加入による収集

16学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会（日本応用動物昆虫学会誌、Applied Entomology and Zoology）

日本動物学会（動物学雑誌）

日本生態学会（Ecological Research, 日本生態学会誌）

日本生物地理学会（Biogeography, 日本生物地理学会会報）

日本衛生動物学会（衛生動物）

日本魚類学会（Ichthyological Research, 魚類学雑誌）

日本遺伝学会（遺伝学雑誌）

日本藻類学会（The Japanese Journal of Phycology, 藻類）

日本陸水学会（Limnology, 陸水学雑誌）

日本地質学会（地質学雑誌）

日本古生物学会（Paleontological Research）

日本地学研究会（地学研究）

日本博物館協会（博物館研究）

全国科学博物館協議会（全科協ニュース）

国際トンボ学会（ODONATOLOGICA）

日本地球惑星科学連合（Japan Geoscience Letters）

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

### 3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行（当館編集）Nature Studyと交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。

#### ■研究報告など出版物の配布

2012年度の配布は以下の通り。

	国内		国外	
研究報告66号	476ヶ所	488冊	407ヶ所	410冊
自然史研究	第3巻12号・13号		173カ所	176冊
収蔵資料目録	第44集			
	244ヶ所	255冊	53ヶ所	54冊
展示解説	第43回特別展解説書			
ミニガイド	No.25			
	273ヶ所287冊			
館報 37号	655ヶ所	699冊	11ヶ所	11冊

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列がこれを補っている。常設展示室としては、旧来の博物館建物（以下本館）にナウマン・ホールならびに第1～第5展示室があり、平成13年4月にオープンした「花と緑と自然の情報センター（略称：情報センター）」1階には、地域自然誌展示室がある。特別展示は情報センター2階のネイチャー・ホールで開催している。特別陳列はネイチャー・ホールまたは本館2階のイベント・スペースで開催している。

## I. 常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的に身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。本館入口のナウマン・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかがわってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、象徴的に展示している。

第1展示室「身近な自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを、述べている。第4展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示している。締めくくりの第5展示室では、「生き物のくらし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活とどのようにつながって、どんな環境でくらししているのかを展示している。

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという、市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、学芸員による相談コーナーが、情報検索コーナーに隣接した場所に設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

平成24年度には、下記の常設展示の補修を行った。

## ■第2展示室「和泉山脈—大阪の白亜紀」

展示ケース内に貼られていたクロスが、黒変していたため張り替えた。

## II. 特別展

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で開催してきた。13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し、共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。

### (1) 当館が主催した特別展

#### ■第43回特別展「のぞいてみようハチの世界」

概要・写真は巻頭カラーページに掲載。

**会 期**：平成24年7月28日（土）～10月14日（日）  
（69日間、9月30日の台風による臨時休館を含む）

**会 場**：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール

**主 催**：大阪市立自然史博物館、特定非営利活動法人大阪自然史センター

**後 援**：日本昆虫学会

**協 力**：伊丹市昆虫館、千葉県立中央博物館、富山市科学博物館、西日本ハチ研究会、京都産業大学ミツバチ産業科学研究センター、（株）山田養蜂場、（株）アリス館

**観 覧 料**：大人500円、高校生・大学生300円（30人以上団体割引あり）中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方、大阪市内在住の65歳以上の方は無料。

**入 場 者**：27,087人。有料大人7,376（27.2%）・有料高大生1,521名（5.6%）、合計8,897名（32.8%）であった。中学生以下11,793名（43.5%）、その他無料入場者（高齢者等）6,397名であった。中学生以下の入館者のうち41.6%は団体入館者であり、小学校等の秋季遠足での観覧が大部分を占める。これを除くと有料の大人入館者の割合が比較的高く、子どもばかりではなく大人にも多数来館してもらえた。アンケートによれば、大阪市内55.8%、市外44.2%である。1日の最多入場者は10月12日（金、最終日前々日）の1,652人であった。

**キッズマップ・パネル**：子どもに展示の見どころを、楽しく、分かりやすく伝えるために、キッズマップ（A4判両面刷り）、クイズを作成し配布した。子どもたちの興味を引きやすいように、イラストをふんだ

## 展 覧 事 業

んに使用し、平易な言葉で表現した。子供のみならず、大人の来館者も手に取ったり、親子でマップを見ながら、話をしている姿が目立った。子どもたちの見学への手がかりとなった。

**展示見学ワークシート**：多くの中学生や高校生に、課題意識を持ちながら展示を見学してもらうために展示見学ワークシート（A3判両面刷り）を作成し、中学や高校に配布した。

**展示解説書**：展示同様に、ハチとはどんな虫なのかを容易に理解できる「ハチの入門書」を意図して作成した。興味を持ってもらえるように、136ページオールカラーとし、写真とイラストを多用することにより、行動や形の面白さが伝わるように工夫した。ストーリーも展示に沿ったもので、写真や図等も展示物が多く掲載され、特別展展示解説書という名前通りのものとなっている。

**連 携**：大阪市内の図書館14館で、会期前～会期中にミニ展示を行った。

### ●関連行事

#### ・「びっくり！ドッキリ！ムシのもよう」

**案 内 文**：ハチのからだのしましまもよう、みんなに「キ・ケ・ン！」を知らせているんだって。いろいろなむしのもようをかんさつして、あっとおどろくもようをかんがえよう。

**開 催 日**：7/21（土）、22（日）、9/29（土）、30（日）  
**会 場**：本館講堂前（7月）、ネイチャーホールワークショップスペース（9月）

**時 間**：11：00～、11：30～、12：00～、13：30～、14：00～、14：30～、15：00～（1回約30分のプログラム）

**対 象**：だれでも参加可（未就学児童は要付き添い）

**参 加 者**：173名

できた作品は希望者は会場内のワークショップスペース壁面に展示。場の雰囲気盛り上げにもつながった。

#### ・「ミツバチのおくりもの～てづくりろうそく～」

**案 内 文**：ミツバチの「ろう」をつかって、ろうそくをつくるよ。「ろう」ってなあに？ハチはどんなふうに「ろう」をつくるの？ハチのからだのふしぎをハカセに聞いたなら、手でこねこねして、ろうそくを作ってみよう。

**開 催 日**：8/4（土）、5（日）、25（土）、26（日）、9/8（土）、9（日）

**会 場**：ネイチャーホールワークショップスペース  
**時 間**：11：00～、13：30～、15：30～（1回約60分のプログラム）

**対 象**：小・中学生

**参 加 者**：254名

ミツバチの暮らしと人との関わりについて知り、ミツロウを実際に手で触れてその性質を知ることができるプログラムとして実施した。

#### ・「かいて・あつめてハチずかん」

**案 内 文**：きれいなハチ、大きなハチ、ヘンなハチ・・・、いろいろなハチがいっぱい。あなたのお気に入りのハチが、きっと見つかるよ！すてきなハチをかいてあつめて、ものしりカードをはさんだら、小さなずかんのできあがり！

**開 催 日**：8/11（土）、12（日）、18（土）、19（日）

**会 場**：ネイチャーホールワークショップスペース

**時 間**：11：00～、11：40～、13：40～、14：20～、15：00～

**対 象**：だれでも参加可（未就学児童は要付き添い）

**参 加 者**：338名

スケッチをすることでハチをじっくりと見る機会ができ、面白い形や、色などハチの多様性に気づく機会となった。

#### ・特別展講演会「スズメバチはヤバイ!？」

スズメバチは危険な面ばかり強調されがちだが、地方によっては食用とされ、またその採集や飼育は地域の文化として根付いている。民族生物学が専門の講師に来て頂き海外の昆虫食文化も含めて、文化面での人とハチとの関わり合いについてお話頂いた。

**日 時**：7月29日（日）13：30～16：00

**場 所**：自然史博物館 講堂

**講 師**：野中健一（立教大学文学部 史学科超域文化学）

**参 加 者**：80名

#### ・自然史オープンセミナー・ハチシリーズ

特別展「のぞいてみようハチの世界」の開催にちなみ、博物館学芸員や館外の研究者が関連した内容を紹介した。

**日 時**：7月28日（土）15：00～16：30、8月18日（土）、9月22日（土）13：00～14：30

**場 所**：自然史博物館 集会室

**内 容**：括弧は参加者数

5月 「大阪にも来る？移入種タケクマバチ」

川添和英（名古屋市）（50名）

6月 「クモヒメバチの行動・生態・系統」

松本史樹郎（昆虫研究室）（45名）

7月 「ミツバチの社会生活と養蜂について」

高橋純一（京都産業大学）（60名）

#### ・野外観察会

展示だけでなく、実際のハチの暮らしにふれても



らおうと野外での観察会を企画した。ハチの中でも最も興味深く、接近しても安全な、狩りをするハチと外来種として問題になっているアルゼンチンアリを対象に選んだ。

プロジェクトU都市の自然の調査「アルゼンチンアリ」

移入種として問題になっているアルゼンチンアリとはどのようなアリなのか、移入・定着している地域で観察を行い、侵入地とそうでない場所のアリ相の比較を行った。

日 時：5月27日（日）10：00～15：00

場 所：大阪市北港

参 加 者：15名

・テーマ別自然観察会「狩りバチの観察」

キンモウアナバチの巨大コロニーで、獲物の運搬

の様子、営巣の様子を観察した。

日 時：8月12日（日）10：00～15：00

場 所：奈良市高畑町

参 加 者：20名

(2) 当館が共催した特別展

本年度は上記の主催展のほか、下記のような当館共催の特別展をおこなった。

■「新説・恐竜の成長」

会 期：平成24年3月10日（土）～6月3日（日）

75日間（うち平成24年度は56日間）

会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール

主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞大阪本社

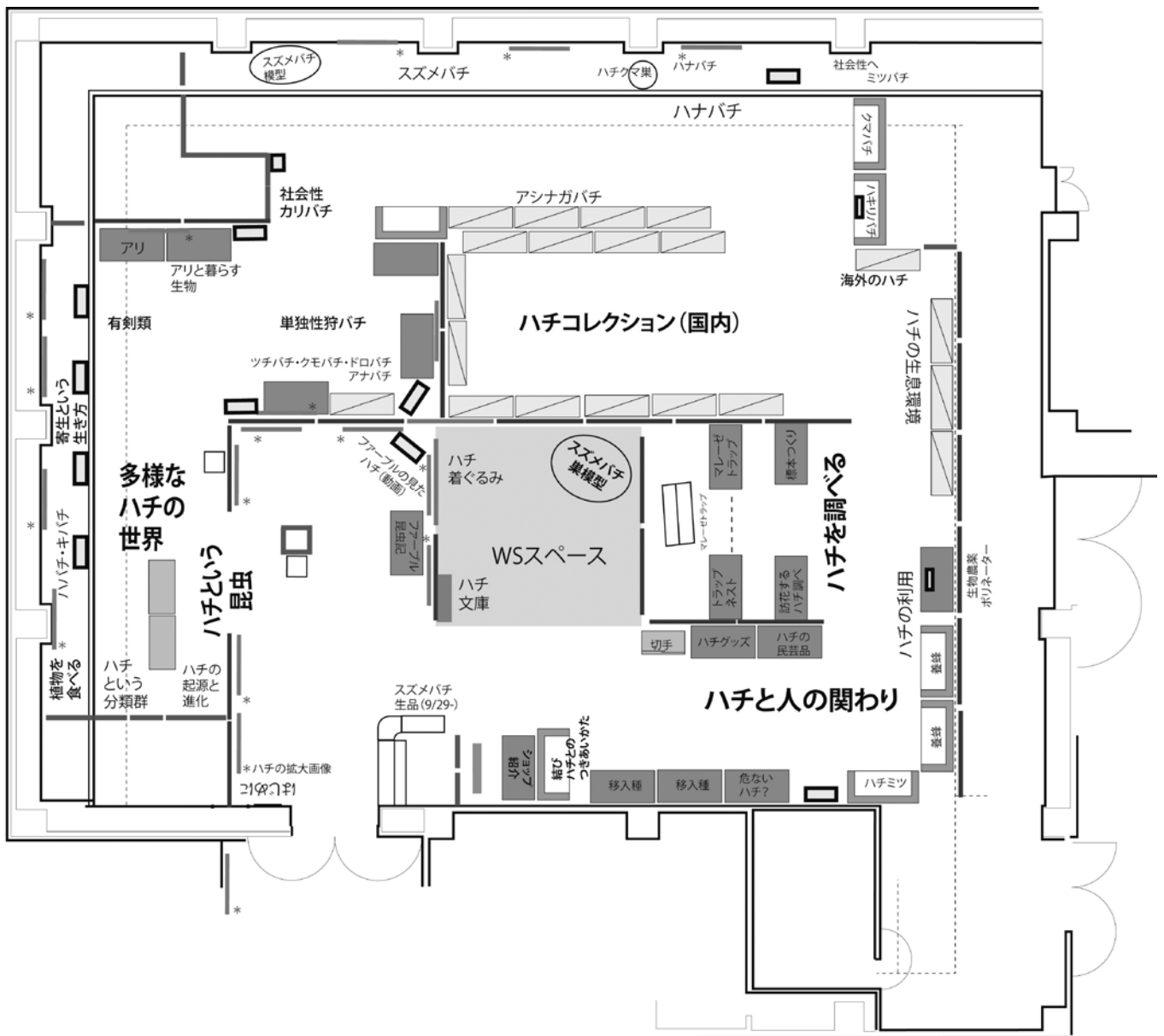


図1. 「のぞいてみようハチの世界」の配置図。\*は巨大ハチパネルの位置（4ページ参照）。

## 展 覧 事 業

**監 修**：モンタナ州立大学付属ロッキー博物館 42名（3回開催）  
**特別協力**：福井県立恐竜博物館、長居パークセンター  
**協 力**：三重県立博物館  
**観 覧 料**：大人1200円、高校生・大学生700円（前売り割引、30人以上団体割引あり）中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方は無料。  
**入 場 者**：152,183人。有料56,009人（37%）、無料入場者96,174人であった。1日の最多入場者は5月27日（日曜、最終日の1週間）の5,430人であった。

「新説・恐竜の成長」（原題：The Growth and Behavior of Dinosaurs）は、アメリカ・モンタナ州立大学付属ロッキー博物館の所蔵標本と最新の研究成果を軸に構成した展示である。成長過程を考察することができるトリケラトプスコレクション標本群、そして門外不出と言われていた「世界最大のティラノサウルス・レックスの実物頭骨化石」などで解説した。関連イベントも多数企画・実施し好評であった。

### ●関連行事

3月10日 ギャラリートーク 30名  
3月10日 映画「ジュラシックパーク」上映会with きょうりゅうハカセ 173名  
3月10日 読売新聞労働組合ナイトミュージアム 50名  
3月11日 「恐竜造形師・荒木一成さんと親子で恐竜模型をつくってみよう！」 56名（3回開催）  
3月16日 ギャラリートーク 30名  
3月17日 ギャラリートーク 50名  
3月31日 ワークショップ「恐竜の絵を描こう！」 40名  
3月31日 ナイトミュージアムwithお話し「恐竜博士になろう！」 40名  
4月1日 ワークショップ「恐竜の絵を描こう！」 40名  
4月6日 ギャラリートーク 30名  
4月7日 ギャラリートーク 40名  
4月11日 わいず倶楽部鑑賞会 60名  
4月21日 ヨリモキッズナイトミュージアム 60名  
5月4日 「木の実で自分だけの<恐竜>をつくろう！」 60名（3回開催）  
5月13日 第29回地球科学講演会「恐竜研究の最前線」 90名  
5月13日 きょうりゅう折り紙をつくろう！ 45名（3回開催）  
5月19日 ミニワークショップ「実演！はっぱのクリーニング」 180名（3回開催）  
5月26日 「おしえてハカセ！きょうりゅうニュース」 34名（3回開催）  
5月27日 「きょうりゅう折り紙をつくろう！」

5月27日 「おしえてハカセ！きょうりゅうニュース」 46名（3回開催）  
6月2日 「おしえてハカセ！きょうりゅうニュース」 44名（3回開催）  
6月3日 「おしえてハカセ！きょうりゅうニュース」 49名（3回開催）

### ■「発掘!モンゴル恐竜化石展」

**会 期**：平成24年11月23日（金・祝）～平成25年6月2日（日） 159日間（うち平成24年度は104日間）  
**会 場**：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール  
**主 催**：モンゴル科学アカデミー古生物学センター、大阪市立自然史博物館、林原自然科学博物館、読売新聞大阪本社  
**後 援**：在大阪モンゴル国総領事館  
**協 力**：国立科学博物館、福井県立恐竜博物館、名古屋科学館、ゴビサポートジャパン、岡山理科大学、長居パークセンター、大阪府公衆浴場業生活衛生同業組合

**運営協力**：ヒューマンディベロッパー

**観 覧 料**：大人1200円、高校生・大学生700円（前売り割引、30人以上団体割引あり）中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方は無料。

モンゴル・ゴビ砂漠は1920年代に、アメリカの調査隊が恐竜の卵の化石を発見したことから、世界でも有数の恐竜産地として知られるようになり、その後も続々と、世界を驚嘆させる化石が発見されてきた。この特別展で展示する標本は、日本とモンゴルの共同調査隊が発掘した標本をはじめ、ほとんどが“実物化石”で、日本初公開のものも多く含んでいる。300点以上の展示標本によって、イントロダクション、ゴビ各地の化石産地ごとの特徴、そして「恐竜という生き物をさぐる」の3コーナーによって紹介している。  
※関連行事など詳しくは館報39号（平成25年）に掲載する。

## Ⅲ. 特別陳列

特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行っているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

### ■「種子のデザイン旅するかたちin大阪市立自然史博物館」

**会 期**：平成24年7月14日（土）～9月2日（日）

**場 所**：自然史博物館 本館2階 イベントスペース  
**主 催**：大阪市立自然史博物館

当館の種子コレクションを用いてLIXILギャラリーで開催されていた「種子のデザイン旅するかたち」展は、名古屋・東京・大阪（本町）で開催され好評のうちに終了した。これを、改めて再構成して、来館者に鑑賞していただくべく、再展示した。

展示標本の大半を収集した岡本元学芸員（現きしわだ自然資料館館長）の監修のもとに当館標本100種以上を展示した。風・水流・動物など様々な運び手や自分で弾ける仕組み、火事の際に散布される種子など種子を遠くへ運ぶための仕組み、より芽生えやすい環境へ運ぶ不思議な生態が反映された種子の多彩な造形を多くの来場者に鑑賞してもらうことができた。

#### ■「地質情報展2012おおさか

ー過去から学ぼう大地のしくみー

**会 期**：平成24年9月15日（土）～17日（月・祝）  
**会 場**：花と緑と自然の情報センター 2階 アトリウムおよび自然史博物館ポーチ

**主 催**：独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター・一般社団法人日本地質学会・大阪市立自然史博物館

**協 力**：長居パークセンター

**概 要**：大阪府立大学（なかもずキャンパス）を会場として同じ日程で開催された日本地質学会大119年学術大会（大阪大会）の関連行事として、地質調査総合センターが中心となって開催した。大阪および周辺地域の地質をはじめとして、最新の地質学の成果や地震・津波・地盤災害の起こるしくみをわかりやすく体験的に展示・解説した。

#### 楽しく学ぶ！体験コーナー

「石割体験」、「地盤による地震の揺れかたの違いを実験」、「津波発生実験」、「自然の不思議：鳴り砂」・「ペットボトルで地盤の液状化実験」・「ポップアップカードを作ろう」、「深海底のマンガン団塊ひろい」など。

#### 見て・聞いて・学ぶ！展示と解説のコーナー

「大阪の地質紹介コーナー」、「地震と津波」、「復興支援」、「再生可能エネルギー」、「地質とふれあう」など。

**参 加 者**：3日間で延べ4,681名

#### ■ミニ企画展「100均☆自然史グッズ」

**会 期**：2012年9月29日（土）～11月11日（日）  
**会 場**：自然史博物館本館 2F イベントスペース

**主 催**：自然史博物館・特定非営利活動法人 西日本自然史系博物館ネットワーク

西日本自然史系博物館ネットワークで学芸員向けの技術研修として行なってきた3回にわたる100均グッズの活用研究会の集大成として、(1)観察、(2)採集、(3)標本の3テーマで学芸員たちの工夫を展示したもの。身近にある100均グッズを活用して、自然観察を道具作りの工夫から楽しんでしまう企画として、多くの市民の興味をひくものとなった。

#### ■「若者によるエコ・メッセージポスター優秀作品展」

**会 期**：2013年2月9日（土）～2月24日（日）  
**会 場**：大阪市立自然史博物館 本館2階 イベントスペース

**主 催**：地球環境関西フォーラム・大阪市立自然史博物館

**概 要**：地球環境関西フォーラムが行った公募事業「第9回若者によるエコ・メッセージポスターデザイン」の優秀作品14点を展示した。

## IV. 館外での展示

市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、また特別展の広報を兼ねて、小規模な移動展示を行なっている。

#### ■特別展「のぞいてみようハチの世界」の関連企画

大阪市立中央図書館で展示と講演会を、地域館で展示を行った。

**講 演 会**：5月26日（土）「ハチの不思議」

<b>展 示</b> ：5/18（金）～8/19（日）	中央図書館
4/1（日）～4/30（日）	浪速図書館
4/20（金）～6/20（水）	淀川図書館、旭図書館
5/1（火）～5/31（木）	平野図書館
6/22（金）～8/15（水）	此花図書館
6/22（金）～7/18（水）	東住吉図書館
7/1（日）～8/31（金）	島之内図書館
7/20（金）～9/19（水）	城東図書館
8/17（金）～10/17（水）	東成図書館
8/1（水）～9/30（日）	住之江図書館
9/1（土）～9/30（日）	北図書館
9/21（金）～10/17（水）	阿倍野図書館
10/2（火）～10/31（水）	東淀川図書館

#### ■「種子のデザイン旅するかたちinきしわだ」

前出のLIXILギャラリーでの展示をきしわだ自然資

## 展 覧 事 業

料館で開催したもの。当館は標本貸出による協力。

会 期：2012年12月22日（土）～2013年1月30日（水）

会 場：きしわだ自然資料館

### V. 「たんけんクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中正解4問以上の場合には、絵はがきまたは昆虫カードを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

問題のカードは各5問で、当初は10種類であった。平成16年7月からは、あらたに低学年（小学1～3年生）向けに4種類のカードを制作し配布を始め、従来のカードは4年生～中学生向けとした。

さらに平成17年7月以降の土・日曜日には、専任スタッフによるカードの配布を開始した。その際カードに自由に書き込みできる用紙を添付し、毎月テーマを決めて参加者に絵を描いてもらい、その絵を館内に掲示するなどした。

平成18年3月からは名称を「たんけんクイズ」にあらためた。平成24年度の春には、第5展示室の問題を入れるなど、改訂を行った。

### VI. その他

- (1) 「関西文化の日」の11月10日（土）ならびに11日（日）を無料開放とした。
- (2) 2011年～2012年度に開催した「新説恐竜の成長展」で使用したコンプレッサーからの水漏れのため、ネイチャーホールの床の一部が破損していたので、これを補修した。
- (3) 「家族でお出かけ節電キャンペーン」として、7月28日（土）～8月31日（金）に特別展観覧料を割引料金（大人：450円、高大生：270円）とした。

## I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からも講師を招いている（\*\*印）、また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満たし、よりきめの細かい普及教育活動を行うために、ボランティアによる補助スタッフを野外行事に導入している（\*印）。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事は、こうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

2007年度から、野外観察会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪自然史センターとの共催で実施している。自然史センターとの連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体制の拡充、より充実した教材の提供を行うことが可能になり、行事の質の向上につながるものと考えている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。なお、各種特別展に関連して実施した普及行事はここでは略記するか、省略した。行事の詳細は展覧事業30ページの各特別展関連事業の項を参照のこと。

### ■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

昨年に引き続き定員を超過している行事もあるが、自然史センターとの共催に伴い外部講師を増員したことにより、昨年より抽選率を緩和した行事もある。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑のいきもの」*、**	高槻市	
4月22日	申込221名	雨天中止
「海べのしぜん」*、**	岬町長崎海岸	
5月20日	申込292名	参加者203名
「はじめてのキノコ」*、**	東大阪市	
7月1日		雨天中止

「ツバメのねぐら」* 奈良市		
8月11日	申込170名	参加者88名
「バッタのオリンピック」**	藤井寺市石川～大和川	
10月8日	申込145名	参加者96名
「化石さがし」	泉佐野市	
12月2日	申込356名（当選157名）	参加者128名
6テーマ	4回実施	延べ参加者数515名

### ■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。都市の自然を調査することを目的としたプロジェクトUが2011年度より開始されており、それと関連して、行事の実施場所も都市公園が中心となった。

「大泉緑地の自然」	堺市北区	
6月3日	申込49名	参加者38名
「亀岡の水辺の生きもの」	亀岡市	
7月8日	申込67名	参加者50名
「万博公園」	吹田市	
10月28日	申込67名	雨天中止
3テーマ	2回実施	のべ参加者数88名

### ■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象をしぼって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多くさらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。

「テントウムシ」*		
4月14日	申込44名（当選31名）	参加者13名
「はじめてのバードウォッチング ～春の渡り鳥を見つけよう！～」		
4月29日	申込110名（当選82名）	参加者62名
「都市で繁殖する鳥」		
5月19日	申込24名（当選24名）	参加者12名
「箕面の地質観察」*		
5月27日	申込66名（当選66名）	参加者39名
「高槻のカエル探し」*		
6月24日	申込151名（当選87名）	参加者63名
「キタフナムシ」*		
7月1日	申込16名（当選16名）	雨天中止
「夏のキノコ」		
7月16日		参加者70名
「狩りバチの観察」		
8月12日	申込34名（当選34名）	参加者20名

## 普及教育事業

### 「秋のきのこ」

9月17日 参加者39名

### 「アカマツ林のキノコ」

10月8日 参加者20名

### 「秋のきのこ観察」

10月14日 参加者60名

### 「タヌキのため糞さがし」

10月20日 参加者14名

### 「大阪層群の時代にあった植物」\*

11月4日 申込57名(当選57名) 参加者41名

### 「淀川のカモの大群」

12月9日 申込32名(当選32名) 参加者21名

### 「大阪層群の地層と植物化石」

3月10日 申込64名(当選25名) 参加者23名  
15テーマ 14回実施 のべ参加者数497名

### 「ホネの標本の作りかた」\*

8月12日 申込76名(当選42名) 参加者32名

### 「昆虫標本の作りかた(落選者向け)」\*

8月18日 申込16名(当選16名) 参加者16名

### 「樹脂包埋標本の作製」\*

10月28日・11月25日 参加者10名

### 「解剖で学ぶイカ・タコの体のづくり」\*

2月3日 申込22名(当選22名) 参加者18名

### 「果実と種子」

2月17日 申込16名(当選16名) 参加者15名

### 「魚のからだ」

2月24日 申込14名(当選14名) 参加者12名

### 「タコを解剖してみよう」

3月16日 申込44名(当選20名) 参加者15名  
10テーマ 10回実施 のべ参加者数181名

## ■プロジェクトU都市の自然の調査

2011年度から都市の自然の調査プロジェクト(プロジェクトU)が始まった。これは市民参加で都市の自然を調べる企画で、2014年の夏の特別展を目指して取りまとめを行う。調査の研修もしくは、調査の一環としての観察会を実施した。

### 「ハナバチ班調査 都市公園の花と昆虫」

4月28日 参加者24名

6月30日 参加者24名

9月29日 参加者13名

### 「植物班調査 長居公園の植物」

4月14日 参加者19名

5月19日 参加者22名

6月16日 参加者21名

### 「アリ班調査 アルゼンチンアリ」

5月27日 参加者15名

### 「地形班調査 長居公園周辺の坂から見る平野の成り立ち」

3月16日 参加者41名

4テーマ 8回実施 のべ参加者数179名

## ■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行なえない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

### 「鳥の調査の勉強会」

4月7日 申込8名(当選8名) 参加者5名

### 「大阪層群の火山灰層」\*

4月22日 申込19名(当選19名) 参加者19名

### 「昆虫標本の作りかた」

8月4日 申込117名(当選56名) 参加者39名

## ■長居植物園案内

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察も取り入れて行っている。参加者が多いため、このような観察の手引きには、補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。6、1、2月に他分野の学芸員とのコラボレーションによるスペシャル編の行事実施も行った。

4月7日\* 参加者68名

5月5日\* 参加者81名

6月2日(植物と昆虫)\* 参加者68名

7月7日\* 参加者53名

8月4日\* 参加者40名

9月1日\* 参加者46名

10月6日\* 参加者71名

11月3日\* 参加者55名

12月1日\* 参加者56名

1月5日(木の実と鳥)\* 参加者94名

2月2日(球果)\* 参加者71名

3月2日\* 参加者96名

12回実施 のべ参加者数799名

## ■長居植物園案内 動物・昆虫編

季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらいたいがある。原則として毎月第4土曜日に開催した。普及行事の中では初・中級向け。

### 「春の渡り鳥」\*

4月28日 参加者52名

「大池の生き物」	
5月26日	参加者35名
「初夏の昆虫」	
6月23日	参加者39名
「夏の昆虫」	
7月28日	参加者38名
「残暑と昆虫たち」	
8月25日	参加者29名
「秋の渡り鳥」*	
9月22日	参加者51名
「ダンゴムシ・ワラジムシ」*	
10月27日	参加者55名
「秋の羽根拾い」*	
11月24日	参加者36名
「冬越しの昆虫」	
12月22日	雨天中止
「木の実を食べる鳥」*	
1月26日	参加者50名
「冬の羽根拾い」	
2月23日	参加者39名
「花に来る鳥」*	
3月23日	参加者62名
	11回実施 のべ参加者数486名

### ■自然史オープンセミナー

自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。当館学芸員が自らの調査・研究の成果に基づいて行ったほか、外部講師も招いた。当館集会室で原則として毎月第3土曜日の午後1時～2時30分に開催。特別展に関連して夏季はハチに関するセミナーを3回実施した。

「瀬戸内海・燧灘の干潟ってどんどころ？」	
4月21日	参加者40名
「植物の学名と標本の利用」(内貴章世氏、志賀隆氏)	
5月19日	参加者48名
「大阪の都市の自然」	
6月16日	参加者43名
「大阪にもやってくる?移入種タイワンタケクマバチ」(川添和英氏)	
7月28日	参加者50名
「クモヒメバチの自然史」	
8月18日	参加者45名
「ミツバチの社会生活と養蜂について」(高橋純一氏)	
9月22日	参加者60名
「大阪湾の健康(環境)診断」(中西敬氏)	
「大阪湾の流れと水質」(入江政安氏)	
大阪湾シリーズ第1回	
10月20日	参加者49名

「大阪湾の歴史散歩」(上月康則氏)	
「大阪湾の生き物・なにわの漁業」(日下部敬之氏)	
大阪湾シリーズ第2回	
11月17日	参加者39名
「大阪湾の再生に向けた取り組み-尼崎の事例を中心に」(山中亮一氏)	
「大阪湾の再生に向けた取り組み-堺浜の事例を中心に」(大塚耕司氏)	
「これからの大阪湾(討議を含めて)」(矢持進氏)	
大阪湾シリーズ第3回	
12月15日	参加者33名
「菌類生態学講座」	
1月19日	参加者69名
「阿蘇の半自然草原と絶滅危惧植物の保全」	
2月16日	参加者43名
「都市平野の坂・上がったたり下がったり」	
3月16日	参加者44名
	12回実施 のべ参加者数563名

### ■ジオラボ

普段はくわしく観察するチャンスが少ない化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう行事。当日の来館者に気軽に参加してもらえよう、展示室内や展示室に隣接した場所で行っている。普及行事の中では初・中級向け。

「中生代に栄えた植物-キカデオイデアの化石」*	
4月14日	参加者27名
「プランクトンの化石」*	
5月12日	参加者28名
「火山ガラスの形のなぞ」*	
6月9日	参加者22名
「海の砂をのぞいてみよう」*	
7月14日	参加者28名
「海の砂をのぞいてみよう」*	
8月11日	参加者38名
「ボーリング資料を使って地質断面図を描く」*	
9月8日	参加者18名
「ボーリング資料を使って地質断面図を描く」*	
10月13日	参加者21名
「防災地図を作ってみよう」*	
12月8日	参加者20名
「断層・褶曲のモデル実験」*	
1月12日	参加者26名
「火山にチャレンジ」*	
2月9日	参加者51名
「幹の化石」*	
3月9日	参加者30名
	11回実施 のべ参加者数309名

## 普及教育事業

### ■夏休み自由研究相談会\*

夏休みに自然をテーマとした自由研究に取り組みたいが、方法がわからない、対象を決めかねている、といった悩みをもつ小・中・高校生に、学芸員がアドバイスをを行う行事。できるだけ事前申込を呼びかけたが、当日参加も受け付けた。2012年度は自由研究の展示を博物館で実施することとし、その募集も行った。

日 時：7月22日（日）  
場 所：自然史博物館 ミュージアムサービスセンター  
相談件数：34件（事前申込28件、当日受付6件）

### ■標本の名前をしらべようー標本同定会ー\*\*

児童生徒が夏休みに採集して作成した標本の名前を教える行事。自然物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。ただし、子供だけでなく、大人の参加者も多い。館外から多数の専門家の参加を得て、毎年8月下旬に実施している。

日 時：8月26日（日）  
件 数：82件  
参加者数：115名

なお本事業の効果を高めるため、夏休みの始めに「夏休み自由研究相談会」（7月22日）も開催している。

### ■音楽と自然のひろば

ファミリー層を主体とした市民に、自然に触れ、親しんでもらう機会を作ることを目的として、大阪市音楽団による演奏と自然史博物館学芸員のミニトークの実施を企画した。大阪市における文化施策と教育の連携事業として実施した。

「春のおでかけコンサート2012」  
日 時：4月15日（土）  
会 場：博物館本館 玄関ポーチ  
参 加 者：1300名

「音楽と自然のひろば2012・秋」  
日 時：10月6日（土）  
会 場：博物館本館 玄関ポーチ  
参 加 者：450名

### ■講演会・シンポジウム

学会などと共催した講演会やシンポジウムを開催し、多数の市民に聴講いただき、好評を得た。特別展講演会と友の会総会招待講演は、それぞれ別項に記した。

1. 東日本大震災と自然史系博物館 被災自然史標本の修復技法と博物館救援体制を考える研究集会  
4月30日（月・祝） 100名

2. 日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト公開シンポジウム  
5月6日（日） 50名
3. 第29回地球科学講演会「恐竜研究の最前線」  
5月13日（日） 91名
4. 大阪湾外来種勉強会  
～第5回大阪湾生き物一斉調査の実施に向けて～  
5月26日（土） 60名
5. 大阪湾Years2012-2013キックオフ【大阪湾セミナー】<そうだったのか！意外と知らない大阪湾のあらたな実像>  
6月24日（日） 100名
6. 大阪生物多様性保全ネットワーク キックオフミーティングーこれからのレッドデータブックのかたちー  
6月30日（土） 100名
7. 環境問題講演会「大阪の自然と私たちの生活」  
11月24日（土） 64名  
11月25日（日） 29名
8. 最新動向探究！「生物多様性2013～Rio+20からCOP11、そして・・・？」  
1月20日（日） 43名
9. 講演会「北の大地のコウモリたち」  
2月3日（日） 62名
10. 日本菌学会ミニシンポジウム「顕微鏡の基礎と応用」  
3月16日（土） 74名

### ■はくぶつかん・たんけん隊\*

小学生～中学生を対象とした裏方（実験室や収蔵庫など）を中心とする館内見学。普段は見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味を育てることをねらいとしている。本年度は13日は午後の部、14日は午前・午後の部を設け、合計3回実施した。また、参加者の家族（保護者・未就学児）向けに、参加者とは別枠でバックヤードショートツアーを行った。

1月13日（日）～14日（月・祝）  
申込146名 参加者114名

### ■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談（1999年2月20日）を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒にの行事には参加しないと



の指摘を受けた。

それらをふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始している。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

#### 部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

#### ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2013年3月31日現在の部員数は84名。

#### 2012年度の活動内容

当初は、2ヶ月に1度のペースでの行事を学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加した。

「ミーティング」*	4月5日	36名
「黄鉄鉱探し」*	5月13日	13名
「磯観察」*	6月17日	14名
「オオサンショウウオ・プラナリア探し」*	7月29日	26名
「ミーティング」*	8月10日	12名
「キノコ狩り」*	9月2日	13名
「男里川河口辺りで浜遊び」*	10月7日	9名
「ミーティング」*	11月3日	9名
「大文字山で岩石・鉱物を見よう」*	11月4日	7名
「化石探し」*	12月16日	13名
「河原で生きものさがし」*	1月4日	13名
「琵琶湖の水鳥・猛禽さがし」	2月3日	8名
「磯観察」	3月28日	16名
企画13回 実施13回 参加者数のべ189名		

#### ■ビオトープ

バックヤードを利用して、ビオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか、継続的に調査している。ビオトープ作りに関心のある方、自然に興味がある方、体を動かすことが好きな方など、一緒に作業や調査をする方を募集して行った。原則として毎月第3土曜日に実施した。

4月21日	参加者36名
5月19日	参加者41名
6月16日	雨天中止
7月21日	参加者25名
8月18日	参加者38名

9月15日	参加者21名
10月20日	参加者18名
11月17日	雨天中止
12月15日	雨天中止
1月19日	参加者30名
2月16日	参加者28名
3月16日	参加者20名

9回実施 のべ参加者人数257名

#### ■子ども向けワークショップ

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくために、子ども向けワークショップを2005年度から実施している。テーマは常設展示に関わるものや、特別展関連のものなどから、ワークショップスタッフと担当学芸員で決定している。

2007年度より、行事をより円滑に進めるために、18歳以上の学生からサポートスタッフを15～20名募集し、研修を実施したうえで、2ヶ月に1回程度プログラムに参加してもらっている（年間登録制）。サポートスタッフには、学芸員やワークショップスタッフと共にオリジナルプログラムを製作、3月の「はくぶつかん子どもまつり」において実施してもらった。

特別展関連行事として実施したワークショップについての詳細は展覧事業30ページからの各特別展の関連行事の項を参照のこと。

#### 「クジラスタンプラリー」

4月29日・5月3日 参加者1,147名

#### 「おしえてハカセ！きょうりゅうニュース」

5月26・27日・6月2・3日 参加者173名

#### 「実演！はっぱの化石クリーニング」

5月19日・6月9日 参加者296名

#### 「なき声だあれ？」

7月14・15・16日 参加者76名

#### 「びっくり！どっきり！ムシのもよう」

7月21・22日・9月29日 参加者173名

#### 「ミツバチのおくりもの～てづくりろうそく」

8月4・5・25・26日・9月8・9日 参加者254名

#### 「かいて・あつめてハチずかん」

8月11・12・18・19日・10月6・7・8日  
参加者499名

#### 「しってるものみつけ！」

10月27・28日 参加者54名

#### 「くねくね・タコイカ」

11月24日・25日・12月15日・16日 参加者122名

#### 「はりはり化石はりえ～東北編」

12月9日・1月13日 参加者110名

## 普及教育事業

「海そうおしばカード」

3月2日 参加者39名

「はくぶつかん子どもまつり」

3月23・24日 参加者198名  
37回実施 のべ参加者数3,141名（特別展関連含む）

## Ⅱ. 教員・観察会指導者向け支援プログラム

2002年度からの学校完全週5日制への移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みがはじまったことから、学校教育関係者による博物館など社会教育施設の利用が高まってきている。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員対象の「総合学習向け研修プログラム」を企画した。また、対象は学校教員に限らず、教員を目指す大学生、自然観察指導員などに門戸を広げて実施している。

「植物園案内・春の遠足下見編」

4月6・10日 参加者53名

「火山灰野外編」

5月20日 申込10名 参加者8名

「火山灰室内編」

7月1日 申込11名 参加者9名

8月5日 申込6名 参加者5名

「学校の地下の地層」

8月7日 申込9名 参加者9名

「ホネを使った授業を考える」\*

8月15日 申込12名 参加者10名

「教員のための博物館の日」

8月17日 参加者114名

「博学連携ワークショップ」

2月23日 参加者48名

7テーマ 9回実施 のべ参加者数256名

## Ⅲ. 博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下の15大学、のべ26名の学生を受け入れた。

### 一般実習コース

夏期：9月5日～9月9日 11名

菅原有真（九州大学）、後藤和美（滋賀県立大学）、小西祐宇・角田真穂（大阪府立大学）、成田勇樹（岡山理科大学）、渡邊祥太・牧本彰太（京都橘大学）、田谷以生（近畿大学）、高田和佳（神戸大学）、久野由紀子（奈良女子大学）、岡 由子（酪農学園大学）

秋期：10月17日～21日 12名

森国はるか（高知県立大学）、山本麻夢（京都教育大学）、長曾利久・大久保勇士（龍谷大学）、長岡愛理（滋賀県立大学）、中野慶衣・山崎茉紀・竹西利栄子（追手門学院大学）、中村 智（大阪府立大学）、内藤 武・原田竣也（神戸大学）、中村有花（大阪芸術大学）

### 普及教育専攻コース

冬期：1月12日～14・26～27日 3名

中島悠貴（北海道大学）、中野修一・小野晋太郎（近畿大学）

## Ⅳ. 各種研修

### ■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入している。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよき理解者である「友の会」に委託し、会員の中から募集を行なっている。行事实施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となっており、当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

## Ⅴ. 学校教育への対応

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問とは別に、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしなが

ら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

### 1. 体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当するスタッフ1名を配置している。スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM（Teachers-Museum）委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

### 2. 連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

#### <児童・生徒向け事業>

##### ・博物館マップ・ワークシートの配布

見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の2種類、ワークシートは小学校低学年・高学年、中学校の3種類がある。特別展「新説・恐竜の成長」、「のぞいてみようハチの世界」では、中学生・高校生向けのワークシートを作成し、春夏の課題として学校へと案内した。

##### ・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）と質問対応

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、学芸員レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、先生からの要望を基に、先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施している。児童・生徒が博物館に来られない事情がある場合は、学芸員が外向いて授業を行っている（長居植物園は除く）。

2012年度は保育所・幼稚園 1件、小学校 5件、中学校 4件、高校 9件、大学 2件 合計21件の授業を行った。

2012年度の授業例：「セミの解剖実習」、「大阪で見つかる化石」、「流れる川の水の動き」、「虫の体」、「電子顕微鏡を使ったイヌの毛の観察」など。

##### ・職場体験学習・就業体験（インターンシップ）の受け入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2012年度は、大阪府内の中学校5件（8人）を受け入れた。ほか、学芸員の仕事に関しての生徒からのインタビューを受けた。

#### <先生向け事業>

##### ・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。

春の下見集中時に合わせ、隣接する長居植物園の教員向け案内行事を行い、遠足で来るときの植物観察の参考にしてもらえるようにしている（40ページ参照）。

下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

##### ・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載している。

2012年度は、博物館の出版物等書籍16件、ビデオ・CD-ROM・DVD32件、紙芝居26件、標本キット18件の貸し出しを行った。

##### 貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、博物館叢書シリーズ、「ナガスケ」紙芝居セットなど。

ビデオ・CD-ROM・DVD：蝶・蛾の世界、昆虫の化石、都市の自然など。

標本キット：川原の石ころ、セミ、テントウムシ、ドングリ、ホネキット（肉食・草食動物の頭骨、アライグマの全身骨格）など。

##### ・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目指している大学生、総合的な学習の時間に関わる活動をされている方、自然観察会の指導している方を対象に研修を行っている。2012年度は9回開催した（40ページ参照）。これら以外に、幼保小中学校の先生を対象とした9件の教員研修を行った。また、大阪府と大阪市の新任教員研修の一環として、社会体験の受け入れを2件6名行った。

・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク (Teachers-Museum Network)

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク (Teachers-Museum Network) をつくっている。118名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を4回発行した。

<その他>

・教員のための博物館の日in大阪市立自然史博物館の実施

国立科学博物館が全国的に進めている事業である「教員のための博物館の日」を8月17日に行った。講演会や、ガイドツアー・体験型のプログラムなどさまざまな教員向け研修を実施した(図3)。大阪市・大阪府の研修の一つとして、大阪教育大学が実施するコアサイエンスティチャーの授業としても位置づけ、また、他館(海遊館、天王寺動物園、国立科学博物館など)からもブース出展してもらい、114名の参加があった。



図3. 学芸員と一緒に歩く解説ツアー1:植物コース

プログラム 学芸員と一緒に歩く解説ツアー1:植物コース「長居植物園で学ぶ日本の樹林型」(図3)、学芸員と一緒に歩く解説ツアー2:昆虫コース「特別展『のぞいてみようハチの世界』で学ぶ食物連鎖、都市平野で起こる地震被害、セミのぬけがらで環境学習、ホネ見て考える肉食動物と草食動物、ミツバチのおくりもの〜てづくりろうそく〜など。

※教員のための博物館の日は一般財団法人全国科学博物館振興財団の平成24年度全国科学博物館活動助成を受けて実施した。

・「博学連携ワークショップ」の実施

博物館関係者の学校教育関係者が集まって博学連携について考える「博学連携ワークショップ」を2月23日に行った。参加者は48名。兵庫県立考古博物館、滋賀県立近代美術館、大阪市立自然史博物館、旭山動物園での博学連携の事例紹介や、自然史博物館内をさまざまな教科・単元で活用する方法を考えるワークショップを班に分かれて行った。

当日の成果物は、館内で掲示し、下見で来館する教員に見てもらうことにした。また、報告書を作成し、印刷及びウェブでの公開を行った。

※博学連携ワークショップは、一般財団法人全国科学博物館振興財団の平成24年度全国科学博物館活動助成を受けて実施した。

・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2012年度の大阪府の高校の生徒生物研究発表会を博物館で実施した。

・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科、中学校の社会科(地理・歴史・公民)・理科(第2分野)の指導要領における学習内容と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。

・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の国会1階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンターがあり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談に応じたり、貸出資料(標本キット、ビデオ・CD-ROM・DVDなど)、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

VI. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1~12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

博物館主催行事とは別に、2012年度に友の会は48回の行事を実施し、延べ2,333名の参加があった。

### ■庶務報告

1. 2012年度の友の会会員数は1692名（1年会員1425名、4月会員83名、半年会員73名、10月会員57名、賛助会員54名であった。

※2012年度賛助会員（五十音順、敬称略）

浅井 彪、麻野 浩、浅葉 清、安部みき子、石井久夫、石田美禰子、猪野 守、浦野動物病院、大岩 誠、大久保幸子、大宮文彦、加藤江理子、河崎紗織、川端優太、隈部恵子、小郷一三、後藤圭一郎、小林美佐子、小山 栄、佐々木万里子、佐竹敦司、白川勝正、高橋明子、高橋弘志、田上善浩、瀧川久子、田代 貢、田邊一三、田村美美子、土屋慶丞、寺田雅章、時枝奉之、内貴章世、仲谷義司、西尾秀雄、西川喜朗、西田良司、西村静代、丹波三千代、野村典子、樋渡諦児、正木信行、益田晴恵、松下宏幸、宮城達雄、三宅則子、宮武頼夫、本村明彦、山下良寛、山西良平、和田岳、匿名3名

2. 5回の定例評議員会を開催し、友の会の事業、庶務などについて審議した。
3. 事業ワーキンググループで8回の事業に関する議論を行い、評議員会に提案を諮った。事業ワーキンググループ委員は評議員だけでなく、一般会員からも募っている。

### ■事業報告

1. 印刷物の刊行：Nature Study誌58巻1号（通巻692号）～12号（通巻703号）を発行した。また2月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。
2. 大阪自然史フェスティバル2012（11月10日～11日）に出展し、ビオトープ案内とシュロ工作コーナーの開催、友の会の紹介、入会の案内を行った。
3. 行事を48回実施した。延べ2,333名の参加があった。

#### (1) 友の会総会2012

1月29日（日） 220名

#### (2) 月例ハイキング（12回733名）

1月15日（日）冬姿の昆虫さがし 90名  
 2月19日（日）平城宮跡をくまなく歩く 63名  
 3月18日（日）大和葛城山山麓の地形と早春の生きもの 69名  
 4月15日（日）万博公園の生きものさがし 96名  
 5月13日（日）矢田丘陵で花とハナバチさがし 58名

6月17日（日）生駒山系高安地区の里山を歩こう 49名

7月15日（日）金剛山 51名

8月18日（土）ウミホテルを見よう 47名

10月21日（日）橿原神宮の森と畝傍山 85名

11月18日（日）山辺の道 65名

12月16日（日）河内長野天見 60名

#### (3) 友の会秋まつり

9月23日（日）なめてみようハチミツの世界 118名

#### (4) 友の会限定！収蔵庫見学ツアー

2月11日（土） 40名

2月12日（日） 46名

#### (5) 友の会の夕べ

7月28日（土） 90名

#### (6) 友の会合宿

5月3日（木・祝）～5日（土・祝）  
 瀬戸内海燧灘の干潟めぐり 53名

5月19日（土）～20日（日）  
 昆虫合宿「和歌山県みさと」 29名

8月3日（金）～5日（日）下北半島 47名

#### (7) 朝公園のセミのぬけがらしらべ

9月9日（日） 150名

#### (8) 博物館に泊まろう！自然史ナイトミュージアム

10月6日（土）・7日（日） 115名

#### (9) シカを探しながらナイトハイク

6月30日（土）・7月1日（日） 雨天中止

#### (10) 長居公園のタヌキ観察会

10月27日（土） 49名

#### (11) 海の向こうの見聞録

1月7日（土）「海の向こうの見聞録発表会」 81名

「友の会懇親会」 99名

#### (12) 裏庭ビオトープの日（7回198名）

1月21日（土） 雨天中止

2月18日（土） 19名

3月17日（土） 雨天中止

4月21日（土） 36名

5月19日（土） 41名

6月16日（土） 雨天中止

7月21日（土） 25名

8月18日（土） 38名

9月15日（土） 21名

10月20日（土） 18名

11月17日（土） 雨天中止

## 普及教育事業

12月15日（土）	雨天中止
(13) 鳥類フィールドセミナー（9回218名）	
1月21日（土）	26名
2月18日（土）	28名
3月17日（土）	20名
4月21日（土）	34名
5月12日（土）	29名
7月21日（土）	22名
9月22日（土・祝）	25名
11月17日（土）	15名
12月1日（土）	19名
(14) その他	
「加太・城ヶ崎の海藻を食べよう！」	
3月25日（日）	雨天中止
「大台ヶ原の自然をみよう」	
6月4日（月）	47名

### ■役員（2012年度）

会 長：西川喜朗

副 会 長：谷田一三、山西良平

評 議 員：板本瑤子、稲本雄太、浦野信孝、河合正人、橘高加奈子、小林春平、高田みちよ、田代 貢、鍋島靖信、西澤真樹子、花岡皆子、弘岡拓人、藤江隼平、堀田 満、道盛正樹、三宅規子、宮崎智美、村井貴史、森康貴、山崎俊哉、米澤里美

会計監査：加納康嗣、左木山祝一

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。

## <体制>

定例では月1回、必要に応じて臨時に、学芸課（5名）と総務課（3名）の広報担当が集まり、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる。特別展の広報に関しては、特別展担当者も出席している。学芸課のメンバーの1名は普及活動全体を把握している学芸課の普及担当が毎年交代で参加している。

## <広報の種類（項目、媒体）>

定期的な博物館行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館および大阪市、様々なメディアのホームページに情報を掲載している。
プレス発表	大阪市の情報公開室を通して市政記者クラブと大阪科学・大学記者クラブ等へ、特別展の開催を発表している。
写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
交通広告	特別展では大阪市営地下鉄に吊り広告を掲出している。また大阪市営地下鉄の駅構内にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	博物館内：今月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センターの階段に大型看板を掲出し、特別展・本館への誘導を行っている。
	公園内：博物館周辺にイベントの案内などを掲出している。掲示箇所：地下鉄長居駅出口、公園内の掲示板、花と緑と自然の情報センター出入り口の看板、長居公園地下駐車場。また、特別展の際にはのぼりを80本製作し、長居公園や周辺商店街に掲出し、長居公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。

	<p>情報センター西門・南門・入口：表示が無く、これらの入口から自然史博物館へ入館できることが市民にわかりにくいいため、特別展の会期以外はスチール看板を利用して、自然史博物館の表示と申し込み不要のイベントを掲示することにした。</p> <p>最寄り駅：特別展の際には、地下鉄長居駅の他にJR長居駅、JR鶴ヶ丘駅の改札口付近に、B1ポスターを掲出している。</p>
他施設の情報の提供	博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している
ゆとりとみどり振興局文化部の広報	文化部の博物館群担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。大阪市動画サイト、携帯サイト、いちょう並木、毎日新聞「満載イベント」編など
大阪市博物館協会内の共同広報	指定管理者である大阪市博物館協会と管理委託されている大阪歴史博物館・大阪城天守閣・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市文化財研究所・大阪市立自然史博物館の6施設で共同広報を行っている。大阪歴史博物館の特別展の館内掲示など。

## <広報先>

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
学校・社会教育施設	チラシ類は、大阪市内・府下を中心に、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市立の学校には通郵便を活用している。特別展等、広範囲に広報する場合は、日帰り圏内まで送付範囲を拡大する。
地元小学校への広報	イベントの種類によっては、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。東住吉区・住吉区の2区の場合、阿倍野区を加えて3区の場合、全区の場合など、イベントの規模によって範囲を変えている。

大阪府内の高校への広報	大阪府高校生物教育研究会と大阪府高校生物地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会（東住吉区、住吉区、阿倍野区）へ特別展のチラシの掲出依頼、内覧会招待の案内を行っている。また、地元の商店へは、ポスターの掲示依頼などを行っている。

<2012年度の広報状況>

印刷物の発送先（学校以外）	件数：大阪市内176件、大阪府内193件、その他の府県379件。施設種類：博物館、大学、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集会学習施設など
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしい自然観察会春・秋（40,000枚）、ワークショップ4回（120,000枚）、地球科学講演会（15,000枚）、特別展「のぞいてみよう ハチの世界」（ポスターB2 1,500枚、B3 5,800枚、チラシ 60,000枚）、地質情報展（B2 500枚、チラシ 47,000枚）、大阪自然史フェスティバル（ポスターB2 1,370枚、チラシ 65,000枚）、毎月の催し物案内（1,700枚）
情報提供しているメディア関係	約194社（特別展関係100、行事情報94）
特別展プレス発表の送信先	市政記者クラブ21社、大阪科学・大学記者クラブ17社、大阪市内区役所広報24区
テレビ放送（特別展以外）	4/15（日）朝日放送「キャスト」音楽と自然のひろば 10/10（水）読売テレビ「かんさい情報ネットTEN!」若一光司のミステリーファイル・ナガスクジラ骨格標本 9/25（火）毎日放送「VOICE」大阪層群 12/14（金）朝日放送「探偵!ナイトスクープ」この石は隕石? 1/23（水）読売テレビ「す・またん&ZIP」街から消え行くモノ、ミノムシ 3/22（金）関西テレビ「よ〜いドン!」発見! 関西ワーカー など、9件

新聞報道（特別展以外）	4/21（土）産経新聞「語り継ぐ淀川」直接触れて芽生える愛着 4/30（月）日本経済新聞「東北標本レスキューシンポジウム」 7/1（日）読売新聞「悠遊タイム」昆虫館苦手にチョウ戦・観察会に参加 8/6（月）読売新聞「科学MONDAY」3種だった大阪湾のフナムシ 8/17（金）大阪日日新聞「教員のための博物館in大阪市立自然史博物館」 9/1（土）日経新聞「科学少年育てる標本同定会」 9/6（木）朝日新聞「大阪・靱公園セミ4種集計」 8/28（火）朝日新聞「関西遺産」ナガスケ 8/29（水）読売新聞「食材から大阪の生態系考えよう」 11/23（金・祝）大阪日日新聞「空前のダンゴムシブーム」 など、18件
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<特別展の広報>

■特別展「新説・恐竜の成長」

—世界最大のティラノサウルス実物頭骨化石日本初公開—  
 会 期：2012年3月10日（土）～6月3日（日）  
 プレス発表：2012年1月6日  
 内 覧 会：2012年3月9日  
 プレス内覧会：12社（NHK、読売テレビ、朝日放送、読売新聞、産経新聞、大阪日日新聞、ラジオ関西など）  
 一般内覧会：250名（地元町内会関係者、友の会会員、招待者）  
 広 報 媒 体：106の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ8、ラジオ2

■第43回特別展「のぞいてみようハチの世界～かわいい?こわい?おもしろい!」

会 期：2012年7月28日（土）～10月14日（日）  
 プレス発表：2012年5月16日  
 内 覧 会：2012年7月27日  
 プレス内覧会：5社（産経新聞、ラジオ関西、読売ライブなど）  
 一般内覧会：107名（地元町内会関係者、友の会会員、招待者）  
 広 報 媒 体：71の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ1、ラジオ5。  
 特 記 事 項：2万人目の来場者に記念品を差し上げた（図4）。





図4. 2万人目の来場者

■特別展「発掘！モンゴル恐竜化石展」

～ゴビ砂漠の恐竜化石はなぜ古生物学者を惹きつけてやまないのか？～

会 期：2012年11月23日（金祝）～2013年6月2日（日）

プレス発表：2012年10月10日

内 覧 会：2012年11月22日

プレス内覧会：12社（NHK、読売新聞、大阪日日新聞、e o光テレビ、ベイコム地元ニュース、読売ファミリーなど）

一般内覧会：300名（地元町内会関係者、友の会会員、招待者）

■「発掘！モンゴル恐竜化石展」×「大相撲大阪場所」  
タイアップ企画

横綱 白鵬関、日馬富士関ご来場記念イベント

日 程：2013年3月2日（土）

プレス発表：2013年2月22日（金）

取 材：10社（読売新聞、共同通信、大阪日日新聞、報知新聞、サンケイスポーツ、ベースボールマガジン社など）

特 記 事 項：長期に渡る特別展のため、広報強化のため春休み前に企画を実施した。

\*は館外研究者、[No. ]は当館業績番号。

## ■研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

第67号、2013年3月31日発行、81ページ。

伊藤 昇\*：アジア産Oxcentrus属の4新種（鞘翅目：オサムシ科：ゴモクムシ族）（英文）. 1-10. [No.436]（英文）

佐久間大輔：給大上宇市「大阪附近ニ於ル菌類」にみる大正期大阪市街地のキノコ相と. 11-18. [No.437]

長谷川匡弘・岩坪美兼\*・鳴橋直弘\*：バラ科アイノコヘビイチゴの大阪府下での生育確認とその染色体数. 19-25. [No.438]

佐藤隆春\*・和田穰隆\*・中条武司・鈴木桂子\*：淀川水系における化学成分の広域分布に関する調査報告. 27-44. [No.439]

中口 讓\*・益田晴恵\*・中条武司・山中康平\*・里口保文\*・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ水質班・滋賀県立琵琶湖博物館みずはしかけ：奈良市街地東部に分布する中部中新統の層序の再検討. 45-81. [No.440]

## ■自然史研究 (SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History)

第3巻第14号、2013年1月31日発行、12ページ。

加納康嗣\*・阿部好男\*・奥田和夫\*・アサギマダラを調べる会：三重県名張市における5年間のアサギマダラ定点飛来調査報告（2006～2010年）. 225-236. [No.435]

## ■収蔵資料目録

第45集「大阪市立自然史博物館所蔵双翅目目録（1）」B5版、全100ページ、2013年3月31日発行。

## ■常設展解説書

ミニガイドNo.25「大阪の地質見どころガイド」一般市民向け、A5版、本文40ページ（総カラー）、平成25年3月29日発行、500円。

## ■特別展解説書

第43回特別展「のぞいてみようハチの世界」解説書「ハチまるごと！図鑑」一般市民向け、A5縦版、本文136ページ（総カラー）、平成24年7月28日発行、1000円。

自然史博物館の5項目にわたるミッションと中期目標の中には以下のような項目がある。

## 〔ミッション3〕

地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努めます。

博物館活動のパートナーとなるNPOやアマチュアを大切にし、自然愛好家の層を厚くしていきます。

### (中期的目標)

- ・学校・地域との連携事業など市民との交流をNPOと協働して進めます。
- ・アマチュア研究活動や、地域での自然体験活動を支援します。このために博物館も地域で実施する観察会を充実させます。
- ・地域の文化財行政・自然保護行政に積極的に貢献します。

## 〔ミッション4〕

他の機関との連携を進め、ノウハウの交流に努めます。

広域のネットワークや学術連携、協働でのプロモーションにより、より高度な博物館活動を目指します。

### (中期的目標)

- ・西日本自然史系博物館ネットワークを中心とした他の博物館との連携・交流や共同事業を強めます。
- ・研究・教育において大学など高等教育機関との連携を進めます。
- ・大阪市の博物館群や長居植物園などとの連携を進めます。

いずれも、大阪市立自然史博物館が「地域の自然の情報拠点」として機能するために欠くことのできない項目であり、連携によって多様な相乗効果を生んでいくことを挙げるができる。

ミッション3に関連して、学校教育、地域、アマチュアとの連携の要になっているのが、大阪自然史センターとのパートナーシップである。自然史センターは 関西自然保護機構と合流を果たし、自然科学的な面からの自然環境保全への取り組みを強めている。このため、関西各地で自然環境の保全や保護に取り組む団体 などとの連携を強化した。学校教育面では今年度は大阪府高校生物教育研究会との自然史センター・博物館との連携を強化してきたところである。

西日本自然史系博物館ネットワークとの連携はGBIF関連の自然誌情報発信事業を中心に、多様な展

開を見せている。

研究・教育においての大学など高等教育機関との連携については、既に各種団体との協力の事例については普及教育事業に、共同研究については調査研究事業に記されている。大阪市の博物館群・長居植物園との連携についてもミュージアムウィークスの開催をはじめとして、多様な展開を見せている。これらの各項目については以下に改めて記載する。

## 環境行政など

### ■大阪生物多様性保全ネットワーク

「大阪府内における生き物情報を共有・一元化し、効果的かつ効率的に府民へ情報発信・普及啓発を実施することを目的に、生物多様性について知見を有する団体と行政によるネットワーク組織」として大阪府・市・堺市・大阪府立大学・大阪府環境農林水産研究所・大阪自然史センター・関西自然保護機構などとともに参画し、大阪府の保全のための配慮を要する生物種のリスト(レッドリスト)の改定案についての調査・協議・普及教育事業(6月30日キックオフミーティング、11月12日生物多様性協働フォーラム いずれも当館講堂にて)などを行った。別途、同ネットワークの事務局を務める大阪自然史センターから2012年度事業報告書が刊行されている。

## 学校教育など

大阪市教育センター・大阪府教育センター・大阪教育大学・国立科学博物館などと連携した「教員のための博物館の日」の取り組みについては42ページに詳述した。

大阪府内の高校との生物教育研究会、地学教育研究会との連携については42ページに記述した。このほか、大阪市立東高校、大阪府立三国ヶ丘高校、大阪府立高津高校などスーパーサイエンスハイスクール事業を介した連携にも取り組んでいる。

大阪市立大学と大阪市博物館協会のパートナーシップ協定に基づく連携として今年度から「博物館経営論」「博物館展示学」「資料保存」など博物館学関係科目へ学芸員が出講している。

このほか、一般的な学校教育との連携については40～42ページを参照。

## 西日本自然史系博物館ネットワーク

西日本自然史系博物館ネットワークは、学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人

## 連携（ネットワーク）

である。会員も150名を越し、西日本の自然史系博物館の安定なネットワーク組織として活動している。当館も中核となる加盟館として連携し以下のような共同事業をおこなった。自然史系博物館における収蔵品データ整備事業・研究会、企業との共催による生物多様性協働フォーラムの開催、自然史標本救済に関するネットワーク、博物館展示リニューアルに関するワークショップ、プラスチックネーション標本作成講座、収蔵庫総合防除の講座、100円ショップグッズ講座と展示、大型プリンタ活用ワークショップ、赤ちゃん連れ来館者対応を考える研究会、小さいとこサミット。

2011年の東日本大震災に関しては、被災自然史標本の修復技法や博物館救援体制を考える研究集会を開き、今後の対策について考えた。(2012.1.1.～2012.12.31)

### 大阪の博物館群など

#### ■国際博物館の日協賛シンポジウム

平成24年5月28日（月）に大阪歴史博物館にてシンポジウム「博物館これからのみせ方・つたえ方」を主に博物館関係者を対象として開催した。当館からはLED照明導入の事例紹介を行うとともに、「親密さを保った小規模イベントを大人数で一インターネット配信技術を使った普及活動」と題して平成23年度に実施したUSTREAMを活用した事業「うまいもんから考える自然の恵み大都市大阪からの生物多様性」について佐久間学芸員が紹介を行った。参加者57名。この日の講演録は大阪市博物館協会により発行され、<http://www.ocmo.jp/education/232/>で公開されている。

#### ■ミュージアムウィークス2012

大阪市の博物館施設が協働で行っている広報キャンペーン。今年度は近代美術館心齋橋展示室の「ザ・大阪ベストアート展」にちなみ、展示中の作品・資料から、来場者に「あなただけのお気に入りを選んで」投票してもらい、参加型キャンペーンとした。当館では第5展示室の体験型展示の評価を尋ねた。第1位は「ドングリコロコロ生き残りコースター」であった。2位：ウサギ島の環境収容力シミュレータ、3位：シカのつながりシアターとなり、同時にたくさんの感想をいただいた。これらの結果は改めてまとめ、報告する予定である。

#### ■ミュージアム連続講座

今年度の連続講座は「食」というテーマを設定し、当館の担当会では天王寺動物園今西氏による動物園での動物の食と、和田学芸員による鳥や獣の食のコラボ

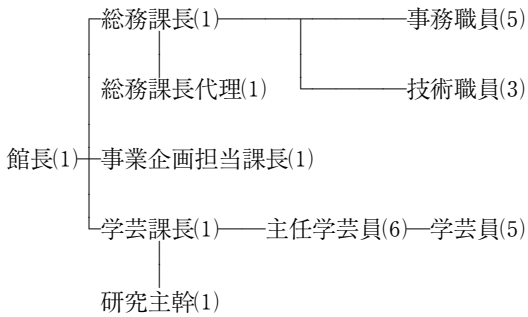
レーション企画となった。参加者70名、おおむね好評であった。

## I. 沿革

- 昭和24年11月8日 - 自然科学博物館開設準備委員会設置
- 昭和25年4月1日 - 自然科学博物館費予算に計上
- 昭和25年11月10日 - 市立美術館2階廊下にて展示開設
- 昭和27年4月17日 - 博物館相当施設に指定
- 昭和27年6月2日 - 大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
- 昭和27年7月10日 - 博物館法第10条により登録(第2号)
- 昭和27年10月1日 - 筒井嘉隆 館長に就任(39. 7. 4 退任)
- 昭和32年6月7日 - 市立美術館より西区靱2丁目(元靱小学校校舎改造)に移転
- 昭和33年1月13日 - 開館
- 昭和34年 - 新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
- 昭和39年 - 日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定(文部省)
- 昭和39年8月1日 - 筒井嘉隆 館長に就任(非常勤嘱託 - 40. 7. 31退任)
- 昭和40年8月1日 - 千地万造 館長に就任(58. 6. 1 退任)
- 昭和42年 - 大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
- 昭和44年8月 - 新館建設のための基本構想審議委員会組織
- 昭和45年4月 - 自然史博物館建設委員会組織
- 昭和47年1月21日 - 自然史博物館建設工事着工
- 昭和48年3月31日 - 自然史博物館建設工事竣工
- 昭和48年4月1日 - 旧館閉館
- 昭和48年7月 - 新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結(竣工49年3月)
- 昭和49年4月1日 - 大阪市立自然史博物館条例公布
- 昭和49年4月26日 - 自然史博物館開館式挙行
- 昭和49年4月27日 - 開館
- 昭和51年8月19日 - 文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
- 昭和58年7月1日 - 千地万造 館長に就任(非常勤嘱託 - 61. 3. 31退任)
- 昭和59年6月 - 常設展更新基本計画案策定
- 昭和60年3月 - 常設展更新計画書策定
- 昭和61年3月31日 - 常設展更新業務完成
- 昭和61年4月1日 - 新装開館
- 昭和61年4月1日 - 小川房人 館長に就任(兼務 - 2. 3. 31定年退職)
- 昭和61年4月1日 - 千地万造 顧問に就任(非常勤嘱託 - 2. 3. 31退任)
- 平成2年4月1日 - 小川房人 館長に就任(非常勤嘱託 - 3. 3. 31退任)
- 平成2年度 - 文化施設整備構想調査
- 平成3年4月1日 - 小川房人 顧問に就任(非常勤嘱託 - 5. 3. 31退任)
- 柴田保彦 館長兼学芸課長に就任(4. 3. 31定年退職)
- 平成3・4年度 - 自然史博物館整備構想調査事業 21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
- 平成4年4月1日 - 柴田保彦 館長に就任(非常勤嘱託 - 7. 3. 31定年退職)
- 平成7年4月1日 - 宮武頼夫 館長に就任(9. 3. 31 定年退職)
- 平成7年度 - 自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
- 平成8年度 - 展示更新基本計画及び(仮称)花と緑と自然の情報センター設計検討
- 平成9年4月1日 - 宮武頼夫 館長に就任(嘱託 - 10. 3. 31退任)
- 平成9年度 - 展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
- 平成10年4月1日 - 那須孝悌 館長に就任(13. 3. 31 定年退職)
- 平成10年12月 - 花と緑と自然の情報センター建築工事着工
- 平成13年3月 - 花と緑と自然の情報センター竣工
- 平成13年4月1日 - 那須孝悌 館長に就任(非常勤嘱託)
- 平成13年4月27日 - 花と緑と自然の情報センター開館式挙行  
花と緑と自然の情報センター開館
- 平成17年4月1日 - 山西良平 館長に就任
- 平成18年3月1日 - 本館エントランス及びポーチリニューアルオープン
- 平成18年4月1日 - (財)大阪市文化財協会が指定管理者となる
- 平成19年3月24日 - 第5展示室一部リニューアルオープン
- 平成20年4月26日 - 第5展示室全面リニューアルオープン
- 平成22年4月1日 - 財団統合により(財)大阪市博物館協会が指定管理者となる
- 平成24年3月 - 本館・大阪の自然誌コーナー・ネイチャーホールの展示照明等LED化

**Ⅱ. 組 織**

■職員数（平成24年4月1日現在） 計25名



■職員名簿（平成24年4月1日現在）

職 名	氏 名	職 種	氏 名
館 長	山西 良平	学 芸 課 長	川端 清司
総 務 課 長	小川 悦生	研 究 主 幹	樽野 博幸
事業企画担当課長	西田 麗子	主任学芸員	金沢 至
総務課長代理	能美 和幸	〃	波戸岡清峰
事 務 職 員	木野 美奈	〃	塚腰 実
〃	加藤由紀子	〃	初宿 成彦
〃	釋 知恵子	〃	佐久間大輔
〃	松岡 由布	〃	和田 岳
〃	長縄 朋子	学芸員(四紀)	石井 陽子
技 術 職 員	西嶋 正博	学芸員(四紀)	中条 武司
〃	植村 政光	学芸員(昆虫)	松本吏樹郎
〃	中林 一己	学芸員(動物)	石田 惣
		学芸員(植物)	長谷川匡弘

■人事異動

平成24年4月1日 小川 悦生 総務課長に採用  
 和田 岳 主任学芸員に就任  
 中林 一己 技術職員に採用  
 4月30日 能美 和幸 退職  
 11月1日 横川 昌史 学芸員新規採用  
 平成25年3月31日 樽野 博幸 退職  
 西田 麗子 退職

**Ⅲ. 庶務日誌**

■平成24年度 博物館関係者来訪

- 24. 7. 24 韓国・釜山広域市海洋自然史博物館  
博物館の展示、施設及び運営状況、資料収集
- 24. 11. 23 モンゴル科学アカデミー古生物学センター  
林原自然科学博物館  
特別展「発掘！モンゴル恐竜化石展」  
開会式

■館長受嘱委員

- 全国科学博物館協議会 理事  
平成19年4月1日～平成26年3月31日
- 国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所 淀川環境委員会委員  
平成20年4月1日～平成25年3月31日
- 財団法人 大阪科学技術センター 評議員  
平成21年4月1日～平成28年6月
- 財団法人 日本博物館協会 理事  
平成20年6月10日～平成25年3月31日
- 兵庫県立人と自然の博物館 協議会委員  
平成19年10月8日～平成25年10月7日
- 独立行政法人 国立科学博物館 評議員  
平成21年4月1日～平成25年3月31日

## Ⅳ 決算

■平成22年度～平成24年度

(単位 千円)

区分	事 項	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
収  入	入 館 料 ほ か	31,842	28,046	32,245	
		常 設 展 観 覧 料	12,254	13,530	15,849
		特 別 展 観 覧 料	19,041	14,211	16,041
		施 設 使 用 料	547	305	355
	雑	収	2,733	2,958	3,829
		図 録 販 売 収 入 等	1,242	1,075	1,730
		そ の 他	1,491	1,883	2,099
	合 計		34,575	31,004	36,074
	支  出	展 覧 事 業	23,850	21,522	21,599
			常 設 展 覧 事 業	2,088	1,978
特 別 展 覧 事 業			21,762	19,544	19,204
調 査 研 究 事 業		9,867	14,185	8,236	
資 料 収 集 保 管 事 業		4,342	5,222	2,504	
普 及 教 育 事 業		5,289	4,947	4,848	
充 実 活 性 化 事 業		3,289	2,486	2,140	
施 設 管 理 費		99,581	103,622	109,511	
一 般 維 持 管 理 費 等		203,155	188,789	190,543	
合 計		349,373	340,773	339,381	

V. 入館者数 (平成24年度)

■本館常設展入館者数

区分 月	有 料					無 料								計	開館 日数
	個 人		団 体		有料計	団 体					個 人		無料計		
	大人	高校生 大学生	大人	高校生 大学生		幼・保 育園等	小学生	中学生	特別支援 学校等	団体 引率者	中学生 以 下	優待・招 待・その他			
(24) 4	18,982	621	143	157	19,903	175	4,006	6	13	281	6,062	4,639	15,182	35,085	26
5	22,259	855	201	190	23,505	1,573	11,564	840	410	1,201	7,412	5,877	28,877	52,382	27
6	6,504	380	209	2	7,095	536	877	721	78	210	2,761	2,681	7,864	14,959	26
7	2,919	382	105	51	3,457	536	27	53	0	67	2,987	1,102	4,772	8,229	26
8	5,320	1,370	224	67	6,981	63	0	257	0	92	5,539	2,108	8,059	15,040	28
9	4,076	227	67	10	4,380	86	534	241	0	80	2,793	1,296	5,030	9,410	25
10	2,925	227	256	216	3,624	1,524	10,190	163	159	1,018	2,133	1,406	16,593	20,217	26
11	3,627	175	122	112	4,036	1,966	2,643	675	73	487	1,737	13,228	20,809	24,845	26
12	5,439	306	681	61	6,487	184	46	488	6	49	1,969	1,567	4,309	10,796	23
(25) 1	6,408	344	38	1	6,791	45	62	140	0	46	2,475	1,588	4,356	11,147	23
2	6,394	401	25	0	6,820	446	21	511	52	116	2,709	1,569	5,424	12,244	24
3	11,695	715	1,047	2	13,459	610	98	268	38	183	5,172	2,998	9,367	22,826	27
計	96,548	6,003	3,118	869	106,538	7,744	30,068	4,363	829	3,830	43,749	40,059	130,642	237,180	307

■無料団体観覧内訳 (平成24年度)

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼 稚 園 ・ 保 育 所	90	4,700	54	3,044	144	7,744
小 学 校	129	10,343	229	19,725	358	30,068
中 学 校	43	1,810	63	2,553	106	4,363
特 別 支 援 学 校 ・ 他	15	334	15	291	30	625
福 祉 施 設	19	142	6	62	25	204
団 体 引 率 者		1,642		2,188		3,830
計	296	18,971	367	27,863	663	46,834



■特別展入館者数（平成11年度～平成24年度）

区分 年度	個人				団体			合計	開催期間	日数	タイトル
	大人	高校生 大学生	優待・ 他無料	中学生 以下無料	大人	高校生 大学生	中学生以下 他無料				
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8.7～10.11	56	海をわたった蝶と蛾
12	7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7.20～9.24	58	干潟の自然
13	957	45	6,808	5,996	479	0	7,468	21,753	4.27～5.27	28	50周年だよ！標本集合！！
	4,668	172	6,669	1,917	0	0	0	13,426	6.9～7.22	38	牧野富太郎と植物画展
	1,839	171	5,623	4,024	16	0	351	12,024	8.4～9.24	45	レッドデータ生物
	2,848	224	7,120	4,097	331	0	4,841	19,461	10.6～11.25	48	からだ・ふしぎ発見
	4,568	56	9,390	16,351	174	0	1,441	31,980	12.8～1.20	31	親子で遊ぶ木とのふれあいワールド
14	840	23	2,406	3,013	6	0	28	6,316	3.16～3.31	14	世界の蝶と甲虫
	2,526	98	7,113	8,271	0	0	1,867	19,875	4.31～5.12	36	世界の蝶と甲虫
	1,354	244	2,857	5,203	33	38	149	9,878	7.6～9.1	50	化石からたどる植物の進化
15	6,741	792	12,531	4,694	1,337	777	301	27,173	9.14～11.4	45	目で見る「がん」展
	4,028	228	5,995	8,252	1	30	8	18,542	7.19～8.31	50	日本鳥の巣図鑑
16	4,686	37	7,776	23,784	66	0	1,902	38,251	11.29～2.1	49	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2
	1,593	76	5,463	3,240	0	0	4,101	14,473	4.1～5.30	44	いきもの図鑑 牧野四子吉の世界
17	2,052	90	3,752	9,844	0	0	72	15,810	7.17～9.5	44	貝ーその魅力とふしぎ
	959	87	3,361	9,038	0	0	0	13,445	7.16～9.4	44	ナチュラリスト展
18	103,419	5,203	81,640	28,497	280	51	24,834	243,924	10.8～11.27	45	恐竜博
19	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～9.18	45	大和川展
	8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7.7～9.2	51	世界一のセミ展
	31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
20	8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3.15～3.31	14	ようこそ恐竜ラボへ！
	28,882	1,000	18,491	39,120	153	0	18,387	106,033	4.1～6.29	79	ようこそ恐竜ラボへ！
	30,389	6,218	18,560	18,708	2	59	564	74,500	7.19～9.21	56	ダーウィン展
21	1,887	357	4,103	1,414	19	152	2,226	10,158	10.25～12.7	38	地震展
	4,069	221	4,532	3,360	217	0	9,298	21,697	4.18～5.31	38	世界のチョウと甲虫展
	1,584	120	17,567	14,801	12	99	292	34,475	7.4～8.30	50	ホネホネたんけん隊
	4,920	529	3,938	2,153	143	0	4,921	16,604	9.19～11.3	39	きのこのヒミツ展
22	12,413	697	4,907	14,608	7	0	32	32,664	3.20～3.31	10	大恐竜展
	48,600	2,904	20,381	49,034	205	124	20,836	142,084	4.1～5.30	52	大恐竜展
23	1,405	1,262	3,535	2,724	92	0	1,264	10,282	7.24～10.8	58	みんなでつくる淀川大図鑑展
	11,864	2,237	5,140	10,625	56	42	195	30,159	7.2～8.28	50	来て！見て！感激！大化石展
	22,864	1,700	15,048	25,108	14	102	16,035	80,871	9.10～11.27	67	OCEAN！海はモンスターでいっぱい
24	14,179	527	7,745	17,057	1	31	719	40,259	3.10～3.31	19	新説・恐竜の成長
	39,844	1,215	13,101	38,459	110	102	19,093	111,924	4.1～6.3	56	新説・恐竜の成長
	7,353	1,489	6,005	6,885	23	32	5,300	27,087	7.28～10.14	68	のぞいてみよう ハチの世界
	25,519	1,330	8,524	22,317	48	114	3,256	61,108	11.23～3.31	104	モンゴル恐竜化石展

VI. 貸室の利用状況

■講堂 平成24年度 13件

年月日	団体名	使用目的	人数
24. 4. 14	NPO法人地球環境大学	地球環境大学2012講座	150
24. 5. 12	NPO法人地球環境大学	地球環境大学2012講座	150
24. 6. 9	NPO法人地球環境大学	地球環境大学2012講座	150
24. 7. 4	NPO法人高齢者大学校	自然不思議発見 授業	60
24. 7. 14	NPO法人地球環境大学	地球環境大学2012講座	150
24. 9. 8	NPO法人地球環境大学	地球環境大学2012講座	150
24. 9. 22	いであ(株)	第5回大阪湾生き物一斉調査結果発表会	100
24. 10. 13	NPO法人地球環境大学	地球環境大学2012講座	150
24. 10. 20	大阪市保健所	大阪ヘルスジャンボリー	250
24. 11. 24 - 25	財団法人 大阪市環境事業協会	環境問題講演会「大阪の自然と私たちの生活」	266
25. 1. 20	NPO法人大阪府民環境会議	Rio + 20報告会	50
25. 3. 8	公益財団法人平野区画整理記念会館	住民大学講座「歴史が語る災害と復興」	50
25. 3. 16	日本菌学会	学術シンポジウム	60

**Ⅶ. 施 設**

**自然史博物館本館**

■所在地 大阪市東住吉区长居公園1番23号

■敷地面積 6,743.68㎡

■建築面積 4,392.67㎡

■延床面積 7,066.01㎡

■構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造  
地下1階、地上3階

■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	2,427.48㎡	(天井の高さ)
ナウマンホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第5展示室	360.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本制作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本制作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
旧第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第2収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
旧第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m (平均)	
ミュージアムサービスセンター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	
旧実習室	96.76㎡	2.70m	
(管理用施設)	計	907.49㎡	
館長室	36.54㎡	2.70m	
1階部屋	18.27㎡	2.70m	
事務室	83.34㎡	2.70m	
応接室	29.54㎡	2.70m	

休憩室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
自家発電電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベータ	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

■階数別面積

地階……………	855.07㎡	3階……………	550.95㎡
1階……………	3,178.35㎡	屋階……………	76.93㎡
2階……………	2,404.71㎡		

■各室定員

講堂……………	266人	集会室……………	48人
会議室……………	22人	旧実習室……………	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地階……………	3人		

■工 期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■総事業費

10億1,000万円	
(建設工事費)	7億9,500万円
・本体工事(株竹中工務店)	4億9,200万円
・付帯工事	3億 300万円
(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費 ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費)	1億5,000万円
・第1展示室ディスプレイ(株日展)	2,200万円
・第2展示室ディスプレイ(株乃村工芸社)	2,500万円

・第3展示室ディスプレイ (株丹青社)	2,100万円
・オリエンテーションホールディスプレイ (株電電広告)	600万円
・展示品購入費	3,200万円
・庁用器具、調査、研究用機器、 資料保管用物品等	4,400万円
<b>■国庫補助金・起債</b>	
・国庫補助金	3,000万円 (47. 10. 13付交付決定)
・起債	3億8,762万円 (47. 8. 25付交付決定)

花と緑と自然の情報センター

■所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■敷地面積 1,203.81㎡

■建築面積 1,203.81㎡

■延床面積 5,000.00㎡

■構造 鉄骨鉄筋コンクリート造  
地下1階、地上2階塔屋付建物

■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	1,403.76㎡	(天井の高さ)
大阪の自然誌		638.82㎡	4.20m
ネイチャーホール		764.95㎡	7.00m
(研究用施設)	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場(1)		47.99㎡	4.00m
準備室兼置場(2)		68.34㎡	4.00m
冷蔵庫室		21.99㎡	5.00m
資料前処理室		20.14㎡	4.00m
一般収蔵庫		748.34㎡	5.00m
特別収蔵庫		688.22㎡	5.00m
液浸収蔵庫		323.48㎡	5.00m
前室(1)		36.80㎡	4.00m
前室(2)		16.20㎡	4.00m
(普及教育用施設)	計	256.08㎡	
自然の情報センター		111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m
実習室		105.75㎡	3.00m
(管理用施設)	計	937.36㎡	
総合監視センター		32.78㎡	5.60m
空調機械室		116.93㎡	6.50m
機械室		722.99㎡	5.60m
E V機械室		49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室		15.58㎡	3.00m
(共通部分)	計	431.30㎡	
地下1階廊下		28.74㎡	3.00m

1階廊下	48.30㎡	3.00m
1階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
2階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
プロムナード	28.00㎡	5.00m
2階便所	57.02㎡	2.50m
E V室	47.52㎡	2.90m
トラックヤード	88.13㎡	
階段	103.18㎡	
総計	5,000.00㎡	

■階数別面積

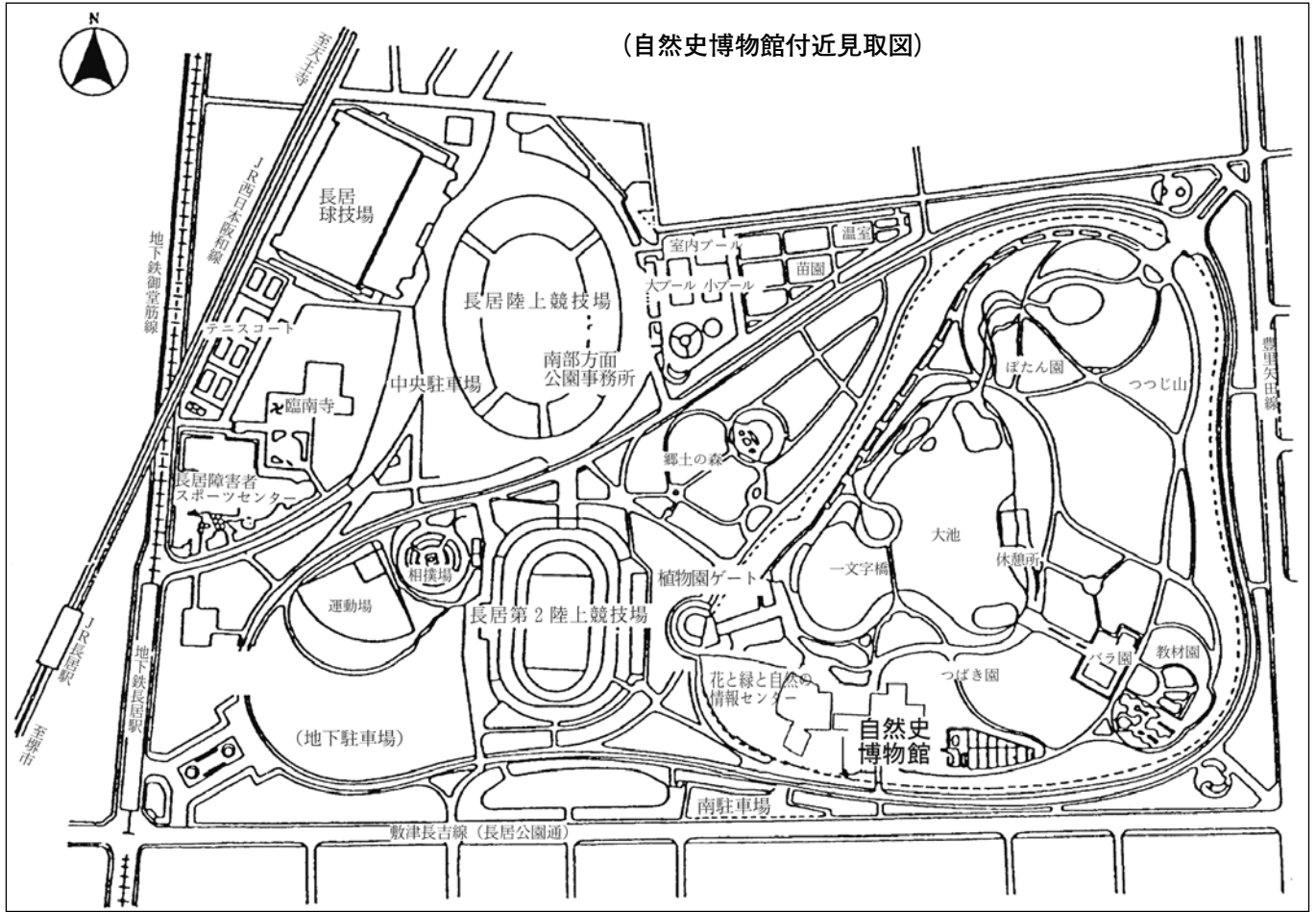
地階	2,754.07㎡
1階	1,203.81㎡
2階	993.04㎡
3階	49.08㎡

■工期 平成10年12月～平成13年3月

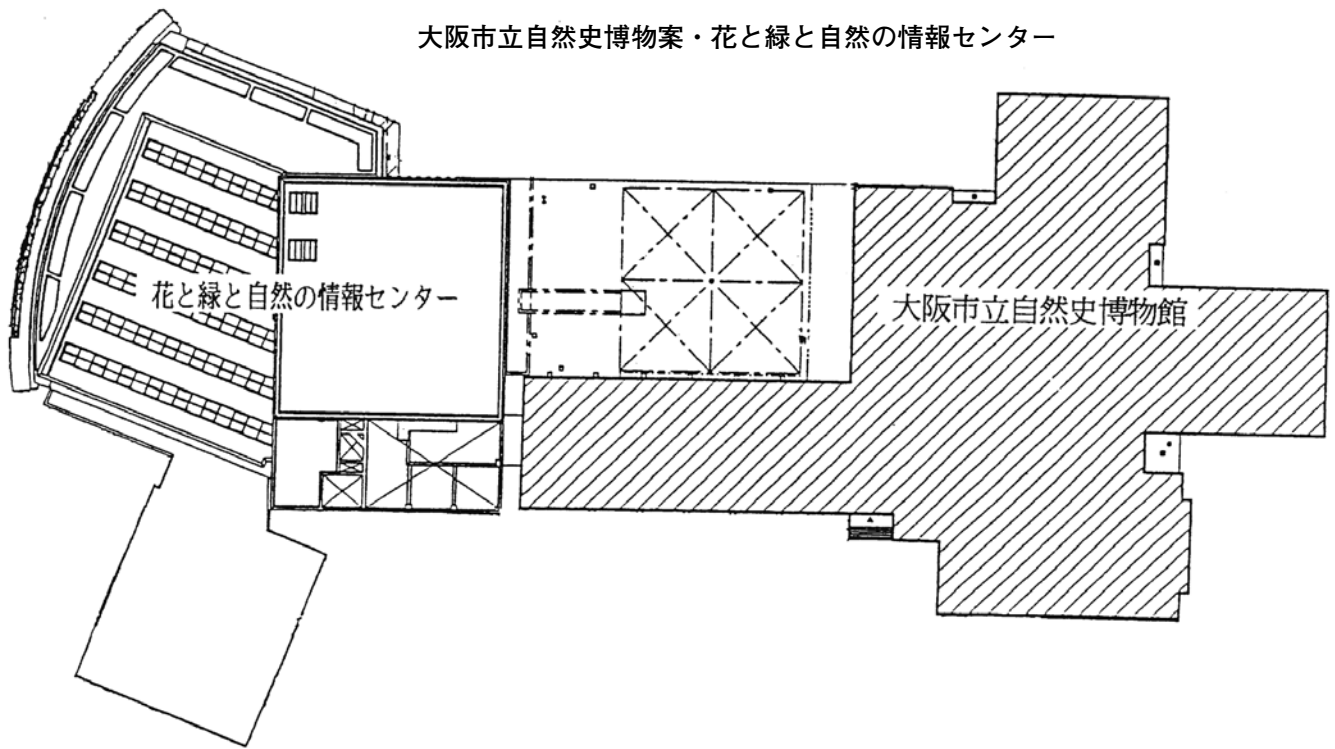
■総事業費	41億6,665万円
(建設工事費)	24億4,558万円
(設備工事費)	11億9,650万円
(設計監督委託料)	5,751万円
(外溝工事費他)	4億6,706万円

■起債等

・起債	34億7,477万3千円
・雑収(宝くじ協会)	3億6,001万7千円



大阪市立自然史博物案・花と緑と自然の情報センター

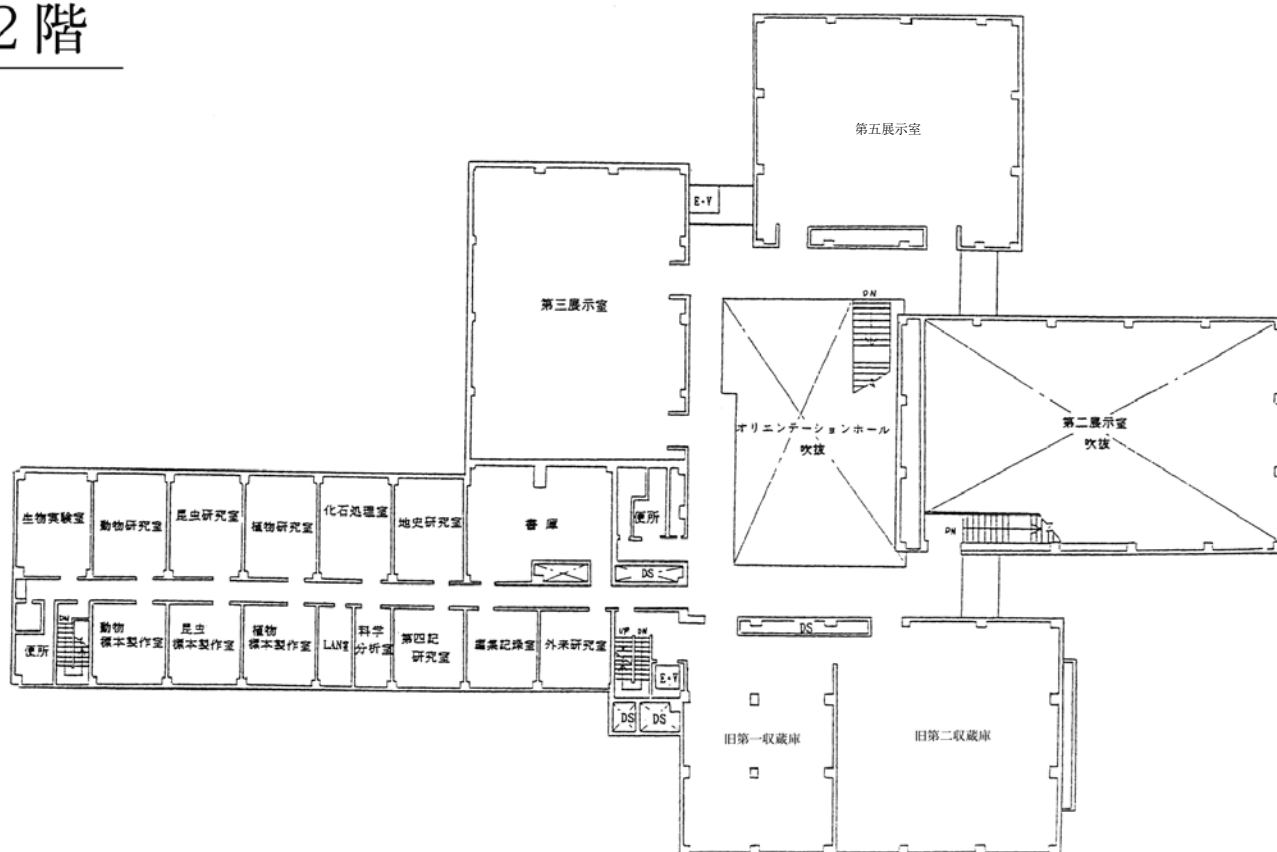


# 1階

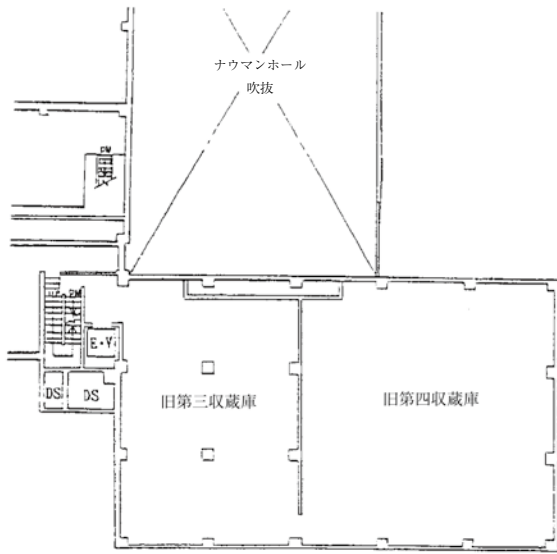
(自然史博物館本館)



# 2階



### 3階

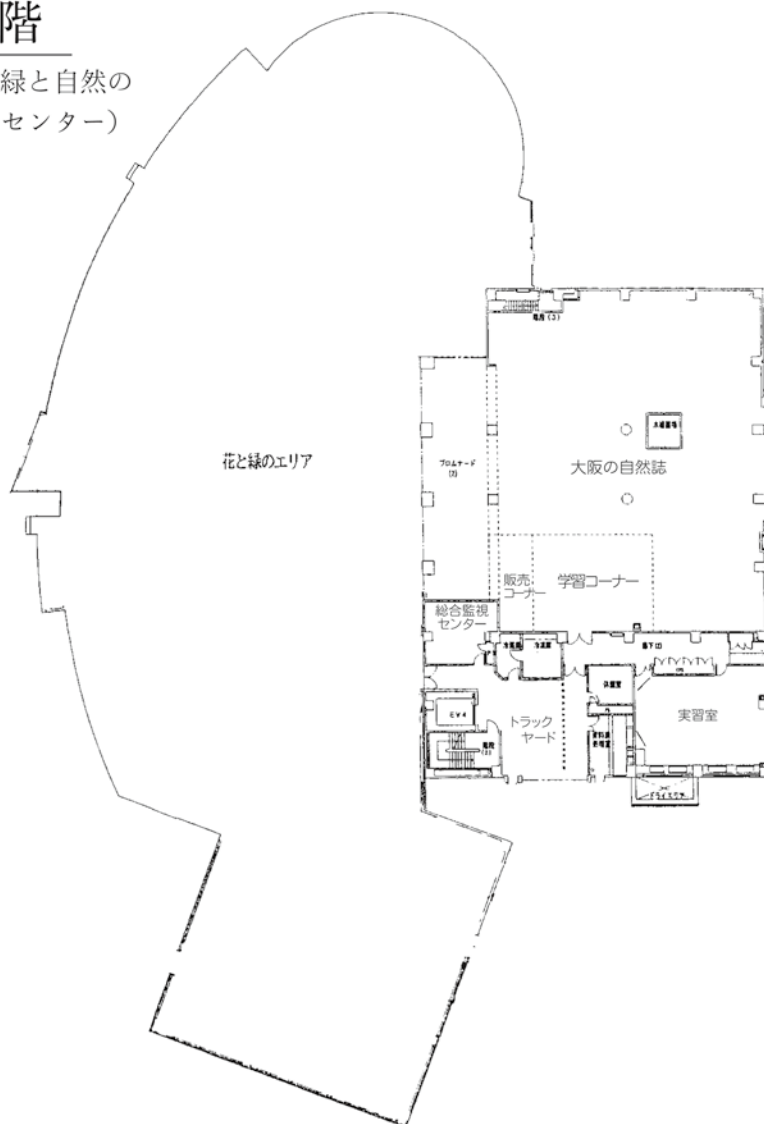


### 地下

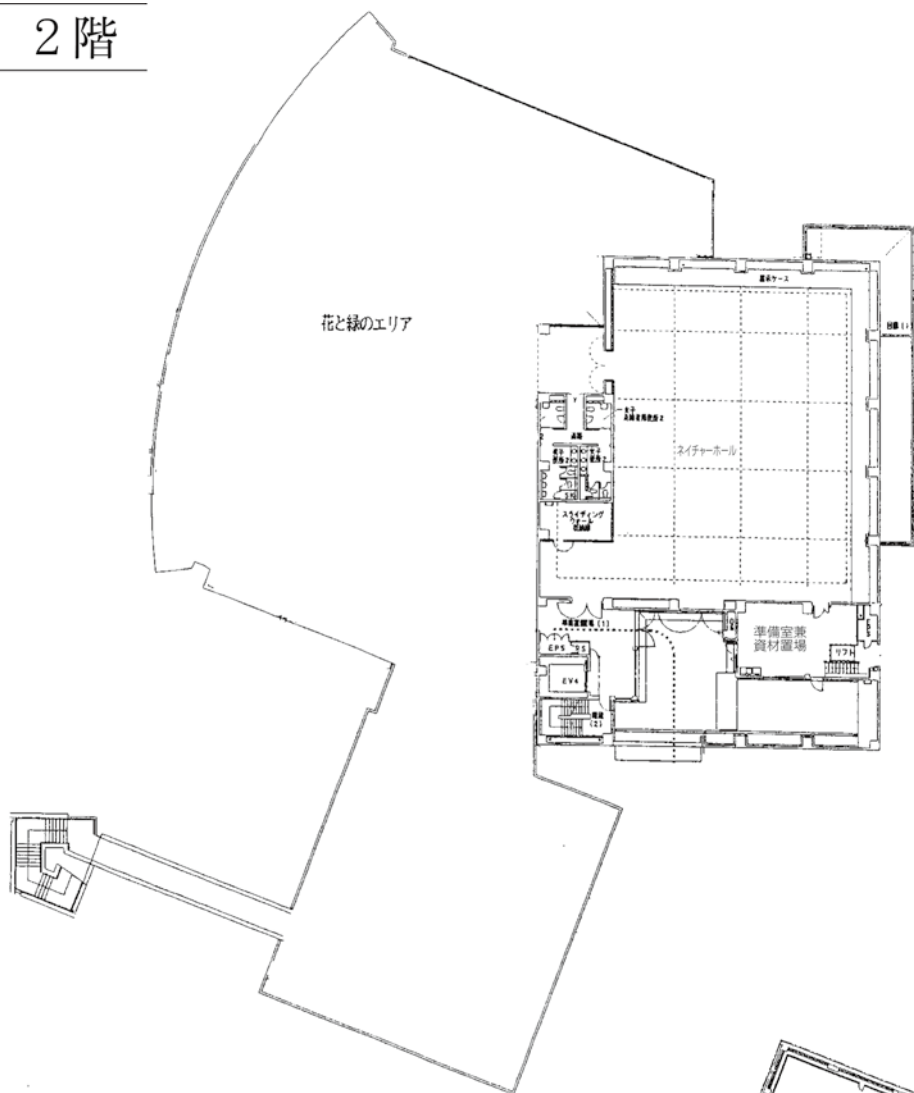


### 1階

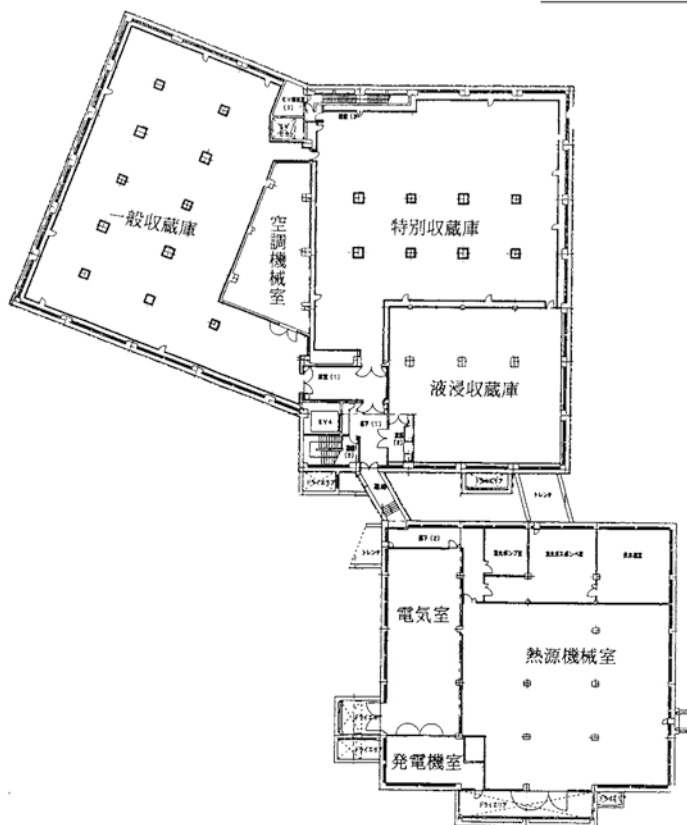
(花と緑と自然の  
情報センター)



2階



地下



○大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49. 4. 1  
最近改正 平21. 11. 26

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

（設置）

**第1条** 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

（目的）

**第2条** 博物館は、自然史に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

**第3条** 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 自然史に関する実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
- (2) 自然史に関する調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究を行うこと
- (3) 自然史に関する展覧会、講習会、実習会、研究集会等を開催すること
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導を行うこと
- (5) 市民の生涯学習の機会を提供すること
- (6) 博物館資料を貸し出し、及び交換すること
- (7) 他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

（博物館資料の寄贈又は寄託）

**第4条** 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

（休館日）

**第5条** 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、第15条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教

育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

（供用時間）

**第6条** 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午前9時30分から午後4時30分までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第6条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第6条第2項の規定により読み替えられた第5条第2項」と読み替えるものとする。

（使用の許可）

**第7条** 別表第1に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

（使用許可の制限）

**第8条** 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき
- (5) その他不相当と認めるとき

（使用許可の取消し等）

**第9条** 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第7条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

（意見の聴取）

**第10条** 指定管理者は、必要があると認めるときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定による求めがあったと



きは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(特別研究の許可)

**第11条** 博物館資料について、特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(貸出しの許可)

**第12条** 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(入館の制限)

**第13条** 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

(利用料金)

**第14条** 教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。

2 博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

3 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料（特別の展示に係るものを除く。）1人1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 特別の展示に係る観覧料 特別の展示ごとに教育委員会が定める額
- (3) 貸出料 その都度教育委員会が定める額

(4) 施設使用料 別表第1に掲げる金額（施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める額）

4 教育委員会は、前項の承認（貸出料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

5 指定管理者は、教育委員会規則で定める基準に従い、利用料金を減額し、又は免除することができる。

6 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

- (1) 災害その他施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
- (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
- (3) その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき

(管理の代行)

**第15条** 博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であって教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

**第16条** 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

**第17条** 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

- (1) 破産者で復権を得ないもの
- (2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消の日から2年を経過しないもの
- (3) その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうち、次のいずれかに該当する者があるもの

- ア 第1号に該当する者
- イ 禁錮<sup>ニ</sup>以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者
- ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

**第18条** 教育委員会は、第16条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの(以下「指定管理予定者」という。)として選定してはならない。

- (1) 住民の平等な利用が確保されること
- (2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること
- (3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

**第19条** 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。(業務の範囲)

**第20条** 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第3条の各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること
- (2) 建物及び設備の維持保全に関すること
- (3) その他博物館の管理に関すること

(施行の細目)

**第21条** この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則 (昭和49年4月2日施行、告示第120号)

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則 (昭和51年4月1日条例第61号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和55年11月27日条例第48号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和56年4月1日条例第53号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和61年4月1日条例第50号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成4年4月1日条例第58号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成7年3月16日条例第40号)

この条例は、平成7年5月1日から施行する。

附 則 (平成13年4月1日条例第62号、平成13年4月27日施行、告示第491号)

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則 (平成17年9月22日条例第109号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第343号)

この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第15条の次に6条を加える改正規定(第17条から第19条まで及び第20条前段に係る部分に限る。)は、公布の日から施行する。

附 則 (平成19年12月28日条例第106号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成21年11月26日条例第130号)

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第7条中第3号の次に1号を加える改正規定及び第9条の次に3条を加える改正規定(第10条に係る部分に限る。)は、平成22年1月1日から施行する。

2 この条例による改正後の大阪市立自然史博物館条例(以下「改正後の条例」という。)第14条第3項の規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、同項及び改正後の条例第14条第4項の規定の例により行うことができる。

**別表第1 (第7条、第14条関係)**

区 分	施設使用料
特別展示室	1室1日につき 32,000円
講 堂	1室1日につき 17,000円

**別表第2 (第14条関係)**

区 分	観 覧 料
高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

## ○大阪市立自然史博物館条例施行規則

制 定 平成18年3月31日

最近改正 平成22年3月26日

大阪市立自然史博物館規則（昭和49年大阪市教育委員会規則第12号）を次のように改正する。

（趣旨）

**第1条** この規則は、大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

（博物館資料の寄贈等の申出）

**第2条** 条例第4条の規定により大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）に条例第3条第1号の博物館資料（以下「博物館資料」という。）を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料（以下「寄託資料」という。）の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。

（寄託資料の取扱い）

**第3条** 寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。

2 寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。

（利用料金の納付時期）

**第4条** 条例第14条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ条例第5条第2項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）が定める日までに支払わなければならない。

（附属設備の利用料金）

**第5条** 条例第14条第3項の教育委員会規則で定める附属設備の種別及び金額は、別表のとおりとする。

（利用料金の減額又は免除）

**第6条** 条例第14条第5項の規定による利用料金の減免又は免除は、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、指定管理者がこれを行うことができる。

2 利用料金の減額及び免除は、次のとおりとする。

(1) 30人以上の団体で入場するときは、観覧料について次に掲げる額を減額する。

ア 30人以上50人未満の団体 観覧料の1割

イ 50人以上100人未満の団体 観覧料の2割

ウ 100人以上の団体 観覧料の3割

(2) 博物館の常設展示場に入場する者が大阪市立長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料について大阪市立長居植物園の入場料相当額を減額する。

(3) 前2号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、指定管理者は利用料金を減額又は免除することができる。

（指定申請の方法）

**第7条** 条例第16条第1項の規定による通知を受けた法人等（法人その他の団体をいう。以下同じ。）は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

(1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）

(2) 役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）の名簿及び履歴書

(3) 条例第16条第2項の規定による申請（以下「指定申請」という。）の日の属する事業年度の前3事業年度における財産目録及び貸借対照表（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあつては、その設立時における財産目録（法人以外の団体にあつては、これに相当する書類）とする。

(4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）

(5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類

(6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類

(7) 条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類

(8) 指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書

(9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

（資料の提出の要求等）

**第8条** 教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

（事業報告書の記載事項等）

**第9条** 地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第7項の事業報告書（以下「事業報告書」という。）には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者

# 庶 務

の代表者がこれに記名押印しなければならない。

- (1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先
- (2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること
- (3) 条例第20条各号に掲げる業務の実施状況
- (4) 博物館の利用者数その他の利用状況
- (5) 博物館の管理に要した経費等の収支の状況
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

2 指定管理者は、毎年度終了後（地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあっては、当該取消しの日後）2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

（損害賠償等）

**第10条** 博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補助執行）

**第11条** 市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助施行させることとした場合においては、第6条及び第12条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長（大阪市事務分掌条例第1条に掲げる局及び室の長をいう。）」と読み替えるものとする。  
（施行の細目）

**第12条** この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

## 附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 大阪市立自然史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則（平成17年大阪市教育委員会規則第27号）は、廃止する。

附 則（平成22年3月26日（教）規則第12号）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

別表（第5条関係）

区 分		使 用 料		
		午 前	午 後	全 日
特別展示室	冷 房 設 備			16,000円
	暖 房 設 備			16,000円
講堂	冷 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡 声 装 置	1式 午前、午後 各1回につき		1,800円
	マ イ ク	1本 午前、午後 各1回につき		500円
	ワ イ ヤ レ ス マ イ ク	1本 午前、午後 各1回につき		1,100円
	テ ー プ レ コ ー ダ ー	1台 午前、午後 各1回につき		900円
	ス ラ イ ド 映 写 機 （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		1,300円
	16 ミリ 映 写 機 （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		4,200円
	ビ デ オ 装 置	1式 午前、午後 各1回につき		2,200円
液 晶 プロ ジ ェ ク タ ー （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		1,900円	

## 備考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午までをいい、「午後」とは午後1時から午後5時（ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午後4時30分）までをいい、「全日」とは午前9時30分から午後5時（ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午後4時30分）までをいう。

## ○大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭和49年4月1日  
最近改正 平成22年4月1日

(目的)

**第1条** この要綱は大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市教育委員会条例第39号。以下「条例」という。）第14条の規定による大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）の観覧料、特別の展示に係る観覧料、貸出料及び使用料の減免に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(学校園等の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料)

**第2条** 保育所、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校（以下「学校園等」という。）の保育士又は教職員が、学校園等行事で園児、児童又は生徒を引率して博物館に入場しようとするときまた、その事前視察のときは、当該保育士又は教職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、学校園等の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに大阪市教育委員会（以下「教育委員会」という。）にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 学校園等の名称、住所及び代表者氏名
- (3) 入場者の予定人員
- (4) 引率責任者の氏名
- (5) その他教育委員会が必要と認める事項

(社会福祉施設の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料)

**第3条** 次の各号に掲げる法律に基づき設置された社会福祉施設の入所者及び入所者を引率した職員が博物館に入場しようとするときは、当該入所者及び入所者1名につき1名の職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 生活保護法（昭和25年法律第144号）
- (2) 児童福祉法（昭和22年法律第164号）
- (3) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）
- (4) 知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）
- (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）
- (6) 老人福祉法（昭和38年法律第133号）
- (7) 障害者自立支援法（平成17年法律第123号）

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、社会福祉施設の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 社会福祉施設の名称、所在地及び代表者氏名
- (3) 施設の設置根拠となる法律の名称
- (4) 入場者の予定人員
- (5) 引率責任者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

3 次の各号に掲げる法令の規定による手帳等の所持者及びその介護者が博物館に入場しようとするときは、当該所持者及び所持者1名につき1名の介護者の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 第1項第3号に掲げる法律の規定による身体障害者手帳
- (2) 第1項第5号に掲げる法律の規定による精神障害者保健福祉手帳
- (3) 知的障害者福祉法施行令（昭和35年政令103号）の規定による判定書
- (4) 原子爆弾被害者に対する援護に関する法律（平成6年法律第117号）の規定による被爆者健康手帳
- (5) 戦傷病者特別援護法（昭和38年法律第168号）の規定による戦傷病者手帳

(大阪市内在住者の観覧料の特例及び特別の展示に係る観覧料)

**第4条** 大阪市内在住の65歳以上の市民で本市発行の健康手帳又は敬老優待乗車証等を所持している者は、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。  
(大阪府施策による観覧料及び特別の展示に係る観覧料の特例)

**第5条** 大阪府が発行する以下のものを所持している者は、観覧料を免除する。

- (1) 民生委員・児童委員特別入場券
- (2) 青少年指導員証、青少年福祉委員証
- (3) 地域振興会・赤十字奉仕団特別入場券
- (4) 生涯学習推進員証
- (5) 大阪市立ミュージアム御招待証（ふるさと納税寄付者）
- (6) 成人の日記念事業施設招待券
- (7) 博物館・美術館・特別入場施設案内&パスの入場券（(財)大阪国際交流センター発行）

2 大阪府が発行する以下のものを所持している者は、特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 民生委員・児童委員特別入場券
- (2) 青少年指導員証、青少年福祉委員証
- (3) 地域振興会・赤十字奉仕団特別入場券
- (4) 生涯学習推進員証
- (5) 博物館・美術館・特別入場施設案内&パスの入場券（(財)大阪国際交流センター発行）

ただし、特別の展示に係る観覧料のうち博物館

## 庶 務

と他者との共催で特別な展示を行う場合は除く。

**第6条** 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、観覧料及び特別な展示に係る観覧料を免除することがある。

- (1) 市政に関する相互交流等のため、博物館を視察するとき
- (2) 団体観覧の事前調査のため、博物館を視察するとき
- (3) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の観覧料及び特別な展示に係る観覧料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 団体等の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
- (3) 視察の目的
- (4) 入場者の予定人員
- (5) 視察する者の代表者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

(貸出料)

**第7条** 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、館蔵品等の貸出料を免除することがある。

- (1) 博物館法に基づく登録博物館、博物館相当施設及び博物館類似施設に貸し出すとき
- (2) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に係ることを目的とするとき
- (3) 学校の教育又は研究所の研究に使用することを目的とするとき
- (4) 報告書又は学会誌等において学術調査又は研究の成果を公表することを目的として使用するとき
- (5) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の貸出料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 博物館資料の名称
- (2) 申請者の氏名及び住所（団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (3) 使用の目的
- (4) 貸出期間
- (5) その他教育委員会が必要と認める事項

(使用料)

**第8条** 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、規則別表第1及び規則別表2に規定する使用料を減額又は免除することがある。

(1) 指定管理者が実施する博物館の事業と関連を有する講演会、講習会その他で、教育委員会が学術振興又は普及教育等に資すると認める行事に使用するとき

(2) 博物館事業を行う指定管理者がNPO又は市民グループと連携を図る事業で、教育委員会が必要であると認める行事に使用するとき

(3) 博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第1条の規定に基づく博物館実習に使用するとき

(4) その他特別な事情により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用する日の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 使用の日時
- (2) 申請者の氏名及び住所（団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (3) 使用の目的
- (4) 使用する施設及び附属設備
- (5) 入館者の予定人員
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年10月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

決裁欄	課長	担当係長	係員
	課長	係長	係員

自然史博物館観覧料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育委員会  
教育長様

申請者 所在地  
名称  
代表者  
電話

下記により観覧いたしますので、観覧料を免除して下さるよう申請します。

記

観覧日時	平成 年 月 日 ( ) 時 分～	
観覧人員	児童・生徒 その他	
	引率者 介護者	
	合計	
申請理由	大阪市立自然史博物館条例第14条及び同規則第4条による。	

### ○博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館  
制定 平成7年2月1日  
改訂 平成13年4月1日  
改訂 平成23年1月1日

(目的)

1. この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づく、大学からの博物館実習生受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

(受入れの規制)

2. 受入れの時期は夏期（7月～9月）・秋期（10月～11月）・冬期（12月～1月）の期間中とし、一人当りの実習日数は5日以内で、当館が指定する。
3. 受入れ人数の総数は、年間30名程度とする。ただし、一大学について5名以内とする。
4. 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学または地学関係の教科を履修し（一般教養でも可）、その単位を取得している者に限る。

(実習の内容)

5. 実習の内容は、①一般実習コース、②普及教育専攻コースにわけて実施する。
  - ①一般実習コースは、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助など、博物館の事業全般についての内容とする。
  - ②普及教育専攻コースは、当館の特色である多様な普及行事の実施にあたって、企画・運営・まとめなどに参画する内容とする。

(受入れの願書)

6. 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係または博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期・コースおよび希望者名を記した内諾何文書を、当該年度の4月1日から当該年度の募集要項で指定する4月の期日までの間に、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。

なお、学生個人からの依頼は受付けない。

(受入れの諾否)

7. 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に諾否を回答する。

(その他)

8. 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室または学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。



○建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

大阪市立自然史博物館  
 制定 昭51. 12.  
 改正 昭54. 7.  
 最近改正 昭62. 12.

(目的)

1 この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(撮影等の規制)

- 2 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。
- 3 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

(撮影等の許可願)

4 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

(許可条件)

- 5 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。
  - (1) 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
  - (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
  - (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
  - (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
  - (5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。

(その他)

6 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

**テレビ・ラジオ等取材願**

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館館長 様

法人・団体名  
 所在地  
 電話番号  
 担当者 (印)

日時	平成 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分
場所	
目的	
参加人数	
番組名	
放送日時	平成 年 月 日 ( ) 時 分 ~
タイトル	

・取材をご希望される方は、上記該当箇所をご記入の上、日程は担当学芸員又は総務課の広報担当と打ち合わせをしてください。

・番組内容につきましては、基本情報確認のため、台本の段階で、総務課広報宛にFAX・メールでお送りください。放送いただいた場合は、お手数ですが、テープ・CD等を一部お送りください。

**写真撮影願**

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館館長 様

法人・団体名  
 所在地  
 電話番号  
 担当者 (印)

日時	平成 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分
撮影場所	
目的	
備考	

・写真撮影をご希望される方は、上記該当箇所をご記入の上、日程は担当学芸員又は総務課広報担当と打ち合わせをしてください。写真の使用は、記載いただいた目的のみとさせていただきます。他の使用はできませんので、ご了承ください。

## ○外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館  
制 定 平成12年4月1日  
最近改正 平成25年4月1日

(目的)

### 第1条

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という）の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び就業体験（インターンシップ）のための利用については別に定める。

(定義)

### 第2条

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

#### (1) 一時利用者

研究上の目的で、館内の設備及び収蔵資料を一時的に利用する者。

#### (2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者。

##### ・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、または学会で当該分野における研究実績が認められる者。

##### ・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行なおうとする者。

(期間)

### 第3条

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

#### (1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

#### (2) 研究生

研究計画に必要と認められる期間。

(手続き)

### 第4条

手続きについては次のとおりとする。

#### (1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員

(利用しようとする資料または設備を管理する学芸員) から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票（様式1）に記入する。

#### (2) 長期利用者

研究生を希望する者は、所属機関の長または指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書（様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付）を館長あてに提出する。

外来研究員を希望する者、及び機関に所属しない者については、直接の申請ができることとする（様式3）。

申込み期限は利用開始の前々月15日とする（外来研究員については前年度2月15日）。

(許諾)

### 第5条

前条の申し込みについての諾否は、研究履歴、研究実績、研究計画に基づき、館内の学芸員による選考委員会の審議を経て、館長が決定する。

(経費)

### 第6条

当館は、外部研究者の施設使用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については受入担当で協議の上、館長が決定する。

(報告)

### 第7条

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない（様式4）。報告書については電子ファイルの提出が望ましい。

(成果)

### 第8条

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物またはその複写物を館長に提出しなければならない。

(変更・中止)

### 第9条

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

(損害賠償)

### 第10条

外部研究者が当館に損害をかけた場合は、損害の一部または全部を賠償させることがある。

(資格の取消し)

**第11条**

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

付 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成25年2月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

様式1

No. \_\_\_\_\_

大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料  
一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一時的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利 用 日	平成 年 月 日		
目 的			
利用する設備・機器、 収蔵資料			
利 用 者	氏 名	所 属 また は 住 所	電話連絡先
担当学芸員名			

決	館 長	副 館 長	管理課長	学芸課長	庶務係長	係 員	学 芸 員
裁							

様式2

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(所属機関の長または指導教官)  
 所 属 機 関 \_\_\_\_\_  
 所 在 地 \_\_\_\_\_  
 電 話 \_\_\_\_\_  
 職 名 \_\_\_\_\_  
 氏 名 \_\_\_\_\_ 印  
 E-mail \_\_\_\_\_

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 (○で囲む)
研究者	所属部局(教室)、職名(学年)、電話連絡先、E-mail 氏 名 _____
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	
研究歴・ 所属学会	

様式3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(本人)  
 住 所 \_\_\_\_\_  
 電 話 \_\_\_\_\_  
 氏 名 \_\_\_\_\_ 印  
 E-mail \_\_\_\_\_

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 (○で囲む)
研究課題	
利用期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	
研究歴・ 所属学会	

様式4

大阪市立自然史博物館 長期利用研究成果報告書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(本人)  
 住 所 \_\_\_\_\_  
 電 話 \_\_\_\_\_  
 氏 名 \_\_\_\_\_

貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」に基づき、研究成果を下記の通り報告いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 (○で囲む)
研究課題	
利用期間	
実施結果	
公表された論文等 (書式は館報のリストにならう)	

## ○大阪市立自然史博物館科学研究費補助金等事務取扱要綱

平成25年4月1日制定

(趣旨)

**第1条** 大阪市立自然史博物館（以下「当館」という。）における文部科学省および独立行政法人日本学術振興会の科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金）（以下「科研費」という。）の取扱いについては、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）、科学研究費補助金取扱規程（昭和40年文部省告示第110号）、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業（科学研究費補助金）取扱要領（平成15年10月7日規程第17号）、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）取扱要領（平成23年4月28日規程第19号）に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

また、科研費と同じく外部委任経理金となる研究資金については、当該研究資金に係る法令・規定等に定めるもののほか、この要綱に定めるところによる。

(定義)

**第2条** この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 最高管理責任者 館長
- (2) 統括管理責任者 学芸課長
- (3) 事務責任者 総務課長
- (4) 研究者 科研費の研究代表者、研究分担者および連携研究者をいう。
- (5) 直接経費 科研費の事業の遂行に必要な経費および研究成果のとりまとめに必要な経費をいう。
- (6) 間接経費 科研費の補助事業の実施に伴う研究機関における管理事務・研究環境の整備等に必要な経費をいう。

(責任と権限)

**第3条** 当館における科研費等を適正に運営及び管理するため、最高管理責任者、統括管理責任者、事務責任者は以下の責任と権限を有する。

- (1) 最高管理責任者は、当館全体を統括し、科研費等の運営及び管理について最終責任を負う。
- (2) 統括管理責任者は、最高管理責任者を補佐し科研費等の管理及び運営について、全体を統括する実質的な責任と権限をもつ。

(3) 事務責任者は、実質的に科研費等を管理する。  
(事務)

**第4条** 科研費の事務については総務課の所管とする。

- (1) 経理事務、金銭出納に関すること。
- (2) 直接経費により購入する備品、図書等の調達、委託契約等に関すること。
- (3) 応募書類、交付申請書、実績報告書及び成果報告書の取りまとめ及び提出に関すること。
- (4) 説明会等の開催、その他補助金に関する相談・通報等に関すること。

(科研費の管理)

**第5条** 交付された科研費は、当館指定口座に預金し、統括管理責任者および事務責任者の審議・指導・助言の下、適切に管理しなければならない。

(交付前の使用)

**第6条** 科研費の交付内定通知のあったもの又は前年度に継続が内約されているものについては、科研費の交付前に研究計画の遂行に係る使用ができるものとする。

(直接経費の経理)

**第7条** 直接経費の統括管理は、統括管理責任者がこれを行う。

- 2 総務課は、直接経費の受払について、収支簿を備え、常に経理の内容を明確にしておかなければならない。
- 3 直接経費の貯金により生じた利息は、間接経費として使用する。

(間接経費の取扱い)

**第8条** 研究者は、交付された間接経費を当館に譲渡しなければならない。

- 2 総務課は、間接経費の受払について、収支簿を備え、常に経理の内容を明確にしておかなければならない。
- 3 間接経費を譲渡した当該研究者が他の研究機関に転出等となる場合には、直接経費の残額の30%に相当する間接経費を当該研究者に返還するものとする。
- 4 前項の規定に関わらず、当該研究者が新たに所属することとなる研究機関が間接経費を受け入れないこととしている場合は間接経費の返還は行わない。

(不正防止)

**第9条** 科研費の適正な執行を確保するため、不正防止委員会（以下委員会という）を設置する。

- 2 委員会は最高管理責任者・統括管理責任者及び事務責任者で構成する。
- 3 委員会に不正通報窓口を設置する。不正に関する情報を受けたときは、遅滞無く最高管理責任者に報

## 庶 務

告することとする。

- 4 委員会は科研費の適正な執行をはかるため、科研費の取扱いに関し必要な研修を実施する。
- 5 最高管理責任者を議長として不正防止推進会議を設置し、科研費の執行状況などについて報告を行う。
- 6 不正が疑われた場合は、統括管理責任者が中心となり調査を実施し、調査結果を最高管理責任者へ報告する。最高管理責任者は、必要な措置を実施する。職員の懲戒とその適用については、大阪市および公益財団法人大阪市博物館協会の職員及び当館外来研究員の懲戒に関する規程などに従う。

(監 査)

**第10条** 最高管理責任者の下に監査室を設置する。

- 2 監査室には公益財団法人大阪市博物館協会総務部総務課長及び大阪市経済戦略局博物館群担当課長をあてる。
- 3 適時監査を実施し、その結果を不正防止推進会議に報告する。

(その他)

**第11条** この要綱に定めるもののほか、科研費等の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

## ○大阪市立自然史博物館科学研究費補助金等事務取扱要綱細則

平成25年4月1日制定

(総則)

**第1条** 本細則は、大阪市立自然史博物館科学研究費補助金事務取扱要綱（平成25年4月1日制定、以下、「取扱要綱」）第11条に基づき、科学研究費補助金（以下、科研費という）の執行に関して必要な事項を定めることを目的とする。

2 科研費事務の取扱については、取扱要綱第1条に示す法令・諸規定及び取扱要綱に基づき実施するが、これらに定められていない事項については、この細則によって定めるものとする。

(物品の購入)

**第2条** この細則において「物品」とは、備品、図書、消耗品、印刷物をいう。

2 物品の購入に際しては、その決裁を経なければならない。

3 原則として、1件の購入価格が5万円を超え、かつ通常の使用で耐用が1年以上の物品は備品として取り扱う。

4 物品の購入に際しては、特例支出を除き、見積書を徴した上で決裁を経なければならない。

5 10万円以上100万円以下の物品を購入しようとする場合には、原則として2社以上の比較見積を行い、購入業者の決定については、「業者決定決裁」を経なければならない。また、特名契約をしようとする場合は、「業者決定決裁」にその理由を明記し、決裁を経なければならない。

6 100万円を超える物品を購入しようとする場合には、公益財団法人大阪市博物館協会に対し、同法人の契約規程等に基づく物品買入契約を依頼する。

7 購入業者への発注は「業者決定決裁」に基づき、研究者もしくは科研費事務担当者が行う。

8 代金の支払いについては、科研費事務担当者が納品書、検査調書、請求書等に基づき「支出命令書」を作成し決裁を経ること。

(委託契約)

**第3条** 科研費において事業等を委託し契約をする際には、その決裁を経なければならない。なお、委託契約に関しては特例支出は認めない。

2 10万円以上100万円以下の委託契約をしようとする場合には、原則として2社以上の比較見積を行い、委託契約業者の決定については、「業者決定決裁」を経なければならない。また、特名契約をしようとする場合は、「業者決定決裁」にその理由を明記し、決裁を経なければならない。

3 100万円を超える委託契約をしようとする場合には、公益財団法人大阪市博物館協会に対し、同法人の契約規程等に基づく委託契約手続を依頼する。

4 業者への委託業務の依頼は「業者決定決裁」に基づき、研究者もしくは科研費事務担当者が行う。

5 代金の支払いについては、科研費事務担当者が業務完了報告書、検査調書、請求書等に基づき「支出命令書」を作成し決裁を経ること。

(特例支出)

**第4条** 研究者が、やむを得ない理由により緊急に科研費等の支出を必要とする場合、または第2項の規定による場合には、研究代表者等において「立替払」をすることができる。

2 研究者が「立替払」を行う際には、事前に事務責任者もしくは科研費事務担当者の承認を経なければならない。

3 立替払をすることができる経費は、次のいずれかの場合に限る。ただし、事前に経費の内容等が予測される場合は、資金前渡により行うものとする。

(1) 出張にかかる旅費

(2) 研究上の必要等から遠隔地で物品を購入する、又は役務提供を受ける場合

(3) 遠隔地での研究のための会議等で会場費、参加費等を支払いする場合

(4) 宅配便等で料金を負担しなければならない場合

(5) 物品又は役務等を提供する業者等が前払いを求めている場合

(6) (1) から (5) の規定によらず、支払い額が1万円以下の物品購入費又は役務提供費

4 研究者による立替払は現金（銀行振込を含む）で行うものとする。

5 研究者が立替払をする場合は、以下の手続きをとるものとする。

(1) 物品等においては速やかに検収担当者の検収を受けること。

(2) 研究者は品名、領収額、領収日、宛名の明記された領収書又はレシートを受け取り、科研費事務担当者に提出すること。

(3) 研究者は事業実施決裁、支出決裁を行い、科研費事務担当者は領収書等を添付した支出命令書を作成し、研究者に立替払額の支払いを行うこと。なお、資金前渡を行った場合は、立替払額の確定後、精算報告書を作成し、かかる精算を行うこと。

6 取扱要綱第6条に定める研究費交付前の使用においては、第2項によらず立替払ができるものとする。ただし、第2項に該当しない交付前の使用については、取扱要綱細則第2条に定める手続きに従う

ものとする。

(物品等の検収)

**第5条** 物品等の検収は検収担当者が行う。検収担当者は総務課もしくは学芸課から、事務責任者が指定する。

2 物品等の納品先は、原則として総務課とし、その場で検収担当者が検収を行う。ただし、常時温度管理を要するもの、保管に安全確保が必要なもの、又は大型・大量等の理由で総務課を納品先とすることが適当でない場合は、研究者が適切な納品先を指定し、その場所で検収担当者が検収を行う

3 以下のいずれかに該当する場合は、納品後速やかに検収担当者に物品等の現物または写真を提示して検収を受けるものとする。

(1) 宅配便等により研究者に直接納品された場合

(2) 遠隔地で購入した場合

(3) 検収担当者の不在等の理由により納品時に検収できなかった場合

4 取扱要綱第9条に定める不正防止のため、不正防止委員会は、物品等の納品・検収後であっても、研究者に対して購入物品等の所在確認を求めることができる。

(備品・図書の管理)

**第6条** 科研費で購入された備品・図書については、研究者は速やかに譲渡に関する申出をおこない大阪市に譲渡すること。ただし、研究期間内に研究代表者が他の研究機関に移動し、返還の申出があった場合には返還しなければならない。

2 寄付を受けた備品は備品番号、備品名、管理者、保管場所などを大阪市立自然史博物館（以下、当館）の備品台帳に登録する。登録が完了した備品には登録シールを貼付しなければならない。

3 備品を当館以外（自宅・他機関など）へ持ち出して長期使用する場合、「備品借用願」（様式は自由。使用者、使用期間、主な使用場所、備品番号、備品名、付属品等内訳などが記載されたもの）を事務責任者に提出して、承諾を得なければならない。

4 図書については、当館の図書登録をしなければならない。ただし、登録後研究者は研究期間内においては、貸出手続きを経て継続的に優先して使用できるものとする。

(人件費・謝金)

**第7条** 人件費・謝金により、研究者の監督のもと継続的に研究補助などを行う者を雇用する場合は、当館が公募・採用した者を雇用しなければならない。

2 研究補助者の勤怠およびその経費は総務課が管理し、その出勤簿など勤怠を確認できる書類を総務課に備えるものとする。

3 分析、野外調査補助、文書入力作業など、研究補助業務が遠隔地で行われる場合は、その業務実態がわかる書類を提出しなければならない。

4 謝金等の支出は、銀行振込み等により研究補助者に直接支出することを原則とする。

5 履歴書・謝金単価等については別表に定める。

(国内・外国出張)

**第8条** 出張旅費の額は原則として、大阪市及び公益財団法人大阪市博物館協会の「旅費規程」等を準用する。

2 研究者が出張しようとする場合は、「出張伺」を作成し、科研費事務担当者に提出しなければならない。科研費事務担当者は、「出張命令簿」を作成し決裁を経ること。なお、「出張伺」には研究者が研究者の出張に関する専決決裁権をもつ管理職の了承を受け、その押印があること。なお、外国出張の場合は、事前に外国出張にかかる必要な協議や手続きを経ること。

3 外国出張において、支度料は支給しない。また、外国出張時における査証取得費用や各種の予防接種および接種証明書発行手数料などの経費は直接経費から支出できる。なお、携帯用医薬品等の費用は支出できないものとする。

4 当館以外の連携研究者、研究協力者が出張する場合は、協力者側に出張依頼書を交付し、出張承諾書を受け取ったうえで決裁を受けること。出張後は出張報告書の提出を受けること。

5 旅行代理店を通して旅費を支出した場合は、第8条第1項の定める額を上限として、その実費を支出することができる。

6 航空機を利用した場合には、実費を支出する。ただし、航空会社等の領収書および搭乗券半券など搭乗を証明するものを提出しなければならない。なお、外国出張にかかる航空券の購入については、可能な限り同一便の見積を2社以上から取り、購入業者を決定すること。

7 出張帰還後、速やかに復命書を提出すること。

8 出張旅費の支給は原則前渡とし、出張者の口座に振込むことができる。出張に際し、精算の必要が生じた場合は、内訳がわかる領収書等を添付のうえ速やかに申告し、精算すること。

(不正の防止)

**第9条** 科研費事務担当者は、科研費の執行状況を少なくとも2ヶ月に1度、不正防止委員会に報告しなければならない。

附則

この細則は、平成25年4月1日から施行する。

(別表をのぞく)





## ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2012

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 JAPAN

Issued : June 17, 2013.